

総合福祉センターの整備に関する考え方（素案）に対するパブリック・コメントの実施結果

【パブリック・コメント手続の実施概要】

1 意見募集の概要

- (1) 意見の募集期間 令和3年6月21日（月） ～ 令和3年7月20日（火）
- (2) 周知方法 令和3年6月20日号市報及び市ホームページ
- (3) 資料の閲覧場所 市役所3階福祉総務課，市役所5階企画経営課，総合福祉センター，公文書資料室，各図書館・各公民館・各地域福祉センター，みんなの広場（たづくり11階），市民活動支援センター（市民プラザあくろす2階），教育会館1階，神代出張所
- (4) 意見の提出方法 氏名，住所，御意見を記入し，直接又は郵送，FAX，Eメールで市役所福祉総務課まで提出
※資料の閲覧場所に設置する意見提出箱への提出も可

2 意見募集の結果概要

- (1) 意見提出件数：53件（50人）

<提出意見の内訳>

全般に対する意見	21件
第1章「地域共生社会の実現に向けた基本的な取組」に対する意見	0件
第2章「公共施設等の総合的かつ計画的な管理の推進」に対する意見	0件
第3章「総合福祉センターの今後の方向」に対する意見	1件
第4章「総合福祉センターの整備に関する考え方」に対する意見	30件
その他意見	1件

- (2) 意見の概要と意見に対する市の考え方 別紙のとおり

【意見の概要と意見に対する市の考え方】

1 全般に対する意見

項目	No	御意見等の概要	市の考え方
全般	1	<p>1. 京王多摩川駅の危険性の改善について 娘は知的にも身体的にも重度の障害があり、車椅子利用、日常生活すべて全介助です。車椅子の娘と京王多摩川駅を利用したことがあります。ホームがカーブしているため、電車とホームの間が広く開いているし、電車とホームの段差も大きく、駅員にボードを渡してもらっていても、とても怖いホームと思いました。エレベーターもホームの端にあり、通路も狭く、ホームの端は線路側に傾いていたため、車椅子ごと線路に落ちそうでした。エレベーターにたどり着くことも怖かったです。二度と行きたくないと思う駅でした。今回、駅に近いという立地が評価されて、京王多摩川駅に隣接する民間開発地に、総合福祉センターを移転する案となっています。しかし、現状のままの京王多摩川駅では、駅の形状が一般の人にも危険ですし、ましてや障害のある方、高齢者、親子連れにとっては、いっそう危険です。調布市としては、京王多摩川駅のホームが曲がっていて、電車とホームの間が広く開いていて危険、という認識はありますか？このホームを、京王電鉄と協力して、まっすぐにし、電車とホームの間を極力減らし、安全に乗降できるように改修するお考えはありますか？もし、そのような予定がないとしたら、乗客の安全をどのように守るお考えでしょうか？市が示している考え方、ユニバーサルデザイン・アクセシビリティ（交通利便性・利用しやすさ）が損なわれているのではないのでしょうか。京王多摩川駅の他の設備も、バリアフリーの観点からみて、極めて不十分です。島型のホームではないため、エレベーターは上りホーム、下りホームにそれぞれ1カ所ずつしかありません。先日、バリアフリー推進協議会でまちあるき点検に行ったときは、下りホームのエレベーターが修理中で、利用できませんでした。ベビーカー連れのお母さんは、階段手前で駅員さんを選んで待っていました。高齢の女性は、おそらくひざが悪いのだと思いますが、階段の手すりに乗りかかるとつかまりながら、ひいひい声を上げながら、階段を下りていました。総合福祉センターが移転してくれば、車椅子利用者や杖を利用している方、視覚障害者、高次脳機能障害の方、認知症の方など、多様な障害の方が利用すると思います。現状のままでは、ホームに降りたらエレベーター修理中で動きがとれなかった、ということになりかねません。エレベーター以外は階段しかなく、階段の踏面も降りる方向に傾斜があり、歩きにくいものでした。エスカレーター設置を望む声も多いと聞きました。トイレも女子トイレには和式便座1個のみで、ひざを痛めている方には利用できないです。それも影響し、車いす用トイレが利用されている人が多く、車椅子当事者が困ったということがるそうです。京王多摩川駅は、このように基本的なバリアフリーもできていない古い駅でした。この駅の改修、中でも、ホームをまっすぐにして電車とホームの間をなくす、という対応がとられなければ、総合福祉センターをここに移転するのは危険です。</p> <p>2. 京王多摩川駅から総合福祉センターへのアクセス 京王多摩川駅から総合福祉センターへのアクセスは、どのような予定でしょうか。駅直結で総合福祉センターのフロアに行けるのがベストです。現状の駅やホームの形状からは厳しいのではないのでしょうか。一旦、ホームから改札に降りて、外の道路を歩いて、総合福祉センターにE.Vで入る、ということでしょうか。遠回りで残念です。傘をさす、カッパを着ることは、健常者以上に時間も手間もかかります。駅から雨に濡れずに館内に入れるようにしていただきたいです。</p> <p>3. 総合福祉センターの駐輪場・駐車場・E.V 移転した場合の、唯一ともいえる利点は、施設直結の駐車場・駐輪場ができるかもしれない</p>	<p>「整備に関する考え方」では、移転・更新に当たっては、高齢者、障害者等の多様な利用状況を踏まえて、多面的な視点からアクセシビリティ（交通の利便性、利用しやすさ等）に配慮するとともに、ハード・ソフトの両面から、ユニバーサルデザイン・バリアフリーによる整備や必要な移動手段の確保等を検討することとしています。</p> <p>このことから、移動手段の確保に資する取組として、無料の巡回バスや事業の実施状況等に応じた無料の送迎サービスなどの移動手段を検討して参ります。</p> <p>また、地域共生社会の充実に向けたまちづくりの推進として、次期バリアフリー基本構想において、京王多摩川駅周辺地区を「重点整備地区」に位置付けて参ります。</p> <p>併せて、京王多摩川駅舎の利便性向上の取組として、ホームと車両の間隙対策やホームから施設までの移動の円滑化、設備のバリアフリー化等や競輪等イベント開催時の利用者の安全な動線確保について、事業者を含めて協議を重ねて参ります。</p> <p>災害対応としては、台風等による被害のおそれが想定される場合には、風雨の影響等を総合的に考慮して、あらかじめ総合福祉センターの利用を一時的に休館し、通所等を行わないよう措置を講じます。</p> <p>また、施設の階の高さについて、浸水高を考慮した5m以上とするるとともに、主要な設備等を2階以上に配置することにより、風水害時の被災を低減し、施設の早期復旧を目指します。なお、大規模水害等により、早期復旧に時間を要する場合には、他の施設での臨時的・代替的なサービスの提供が行えるよう調整を図ります。</p> <p>福祉避難所の対応としては、風水害時は福祉避難所に指定された各公共施設等で要支援者の避難対応を行うこととなります。令和元年の台風第19号の事例では、現総合福祉センターに避難された方がおられたことを踏まえ、調布駅近傍の文化会館たづくり1階に要配慮者スペースを確保し、開設・運営においては、避難所担当職員を中心とした人員配置により対応して参ります。</p> <p>風水害時における発災前から発災後までの段階ごとの課題分析を踏まえ、今後もし引き続き、新たな総合福祉センター機能の確保等を検討して参ります。</p> <p>総合福祉センターの機能や設備等については、現行機能の維持を基本として、一部拡充も含め必要な床面積を確保するとともに、上下移動の少ないフロアに機能を集約し、必要な機能改善の検討等を行って参ります。こうした方向を踏まえて、障害者等に配慮した通路幅員の確保、駐車場や屋根のある車寄せの設置など基本機能の向上に資する機能の整備を検討して参ります。</p> <p>また、調布駅周辺の福祉機能については、調布駅周辺の公共・民間施設を活用することにより、安心して相談などができる相談機能をはじめと</p>

項目	No	御意見等の概要	市の考え方
		<p>ことです。雨にぬれずに会場に入れることをのぞみます。ですが、この点でも大きな不安があります。あくまで、京王の開発計画の建物の2回分を借りるだけですから、マンション入居者の利益が最優先されるでしょう。1階はスーパーとのことですから、スーパーの駐車場・駐輪場も必要です。そうすると、総合福祉センターにどの程度、駐車場・駐輪場を貸していただけるのかも、定かではありません。市の土地でも市の建設でもないので、本当に必要な駐車場・駐輪場が用意されるかわかりませんし、仮にできたとしても肩身の狭い思いをしながら使うことになるのかと思います、気が重いです。関連して、施設のEVも専用のものを作っただけなのでしょうか。それとも店舗やマンションと直通のEVでしょうか。もし共用なら、移動が集中する時間外には使いにくいでしょうし、感染症がはやっただときには感染予防をしにくくなります。</p> <p>4. 京王閻魔競輪場について 京王閻魔競輪場の開催日には、乗降客が増えると聞きました。コロナ禍がない場合、競輪場開催の頻度、乗降客数、集中する時間帯を教えてください。現状では、京王閻魔競輪場側の臨時出口を利用する方が多いのでしょうか。極端に乗降客が増える駅は、障害者や高齢者、子ども連れの方が利用する上で、かなり負担が大きいです。ましてギャンブルではあるので参加者の状況を考えると、他の利用者にとっては不安を感じます。この点について、市はどのようにお考えでしょうか。また、京王閻魔前の道路がアンジェ跡地の方までまっすぐつながると聞きました。そうすると、競輪場帰りの方が、臨時出口だけでなく、新しい総合福祉センターができる予定地側にもやってきて、人の流れが交差する心配もあります。安全面の心配を感じますが、どのようにお考えですか。なお、市の資料には京王閻魔の敷地は、「スポーツ・レクリエーション複合地区」と書かれています。京王閻魔ではない施設になる予定があるのでしょうか？</p> <p>5. 多摩川の浸水想定区域内にあること 地球温暖化の影響もあり、かつてない規模の豪雨が短期間に振ったり、長時間続いたりして、浸水被害がどこで起きてもおかしくないと思います。「主要機能の2階以上への配置を検討」とのことだが、総合福祉センターの利用者は災害時にはより早く避難することが必要な要支援者です。総合福祉センターを、浸水想定区域に設置すること自体が危険ではないでしょうか。また、総合福祉センターは、市役所とともに、災害時の支援拠点になる施設です。市としてはどのようにその機能を果たしてもらおうお考えですか。台風19号の水害被害の際も、肢体不自由の方に総合福祉センターを開けてくださって助かった、ということがありました。環境変化に弱い障害のある子にとって、日頃から使っていて子ども慣れている施設で、受け入れてくれることは、大きな安心感になります。今後も、総合福祉センターが災害時の支援拠点としても、要支援者の避難先としても機能できるような場所に立地することを願います。仮に、2階以上に設置するから大丈夫ということであっても、周辺道路が水没しては、陸の孤島となって、支援もできないと思います。</p> <p>6. 調布駅前に総合福祉センターの機能を 今、駅前にある総合福祉センターは、古く縦長の使いにくい建物ではありますが、重度重複障害の娘を育てる私にとっては、ほっとする場所です。コロナ禍以前には、娘と駅前などに出かけたときに、水分や軽食を食べさせるために福祉センターのロビーをお借りしたり、今より誰でもトイレが少なくなったときはトイレもお借りました。気兼ねなく立ち寄ることができ、ほっとできる場です。困ったことを相談できるし、声もかけてもらえます。残念ながら、たづくりやトリエでは、そうはいきません。「すみません、すみません、ちょっと場所を貸してください」という感じで、人目も気にしながら使います。総合福祉センターが“ホーム”なら、他は“アウェー”です。もちろん、すべての施設が“ホーム”になるような調布を目指したらいいと思いますが、現状はそうではありません。調布駅前の再開発が進み、きれいになって</p>	<p>して、交流・居場所機能や福祉機能等について、確保することを検討して参ります。</p> <p>そのため、今後も、関係団体や利用者等の御意見を伺いながら、福祉サービスの実施状況や福祉施策を取り巻く社会状況等を勘案して、必要な施設機能を整備して参ります。</p> <p>市は、これまでも多世代や多様な主体が交流する機会を通じて、市民の福祉に対する理解をより深めていくという、地域共生社会の考え方にも通じる理念の下、総合福祉センターを運営して参りました。今後、総合福祉センターの移転・更新を進めるうえでも、こうした基本理念が重要であるとの認識は、今後も変わるものではありません。そのため、新たな総合福祉センターが、地域共生社会を充実するための総合的な福祉の拠点であるという理念を具体化し、地域に開かれた親しみやすい総合的な福祉の拠点となるよう、引き続き、利用者や関係団体等に御理解いただきながら、取り組んで参ります。</p>

項目	No	御意見等の概要	市の考え方
		<p>いくのに、障害者が安心して立ち寄れる場がなくなってしまうことが、とてもつらく悲しいです。経緯や事情はどうであれ、出来上がったものから判断すれば、障害者施設は駅前にはおきたくない判断されたんだ見えてしまいます。そのことは障害者に関係のない方々は気づきもしないでしょうが、障害者には調布駅前から排除されたと感じ、つらく悲しいことです。「相談窓口程度のものを調布駅前」に、という話もあるようですが、もっと積極的に、駅前に総合福祉センターの機能を設けていただきたいです。これから高齢化がいつそう進みます。高齢者も障害者も子育て中の方も、それぞれが一時的に支援を受けるだけでなく、社会参加していくことが大切だと思います。送迎バスではなく、自力で通われる方のためには、アクセスがいい場所が一番です。電車1本で来られる、バス一本で来られる、ことが大事です。調布駅前ならそれが可能です。福祉に関わると市役所に行く用事も多いです。市役所に近い、今の位置なら、一度の用事を済ませられます。支援する方、ボランティアの方、手話通訳口座の方なども、アクセスがよい場の方がはるかに集まると思います。調布駅前に立て直すグリーンホールをビルにして、その中に、できるだけ福祉センターの機能を戻していただきたいです。</p> <p>7. 娘が障害をもって右も左もわからないときに、市役所にも社協にも相談に行きました。両者が近いことは助かりました。遠くに相談に行くのは負担です。緊急一時保護でもお世話になりました。駅前にあるため、預ける時間も短縮でき有効に活用できました。今は「びっころ」の一部になっている「音楽療法」は、たいへん丁寧に子どもの発達を見てくださり、学校以外に子どもの成長と一緒に関わってくださるところがあり、とてもありがたかったです。調布市が古くから始めた事業で、充実した設備・体制でした。移転によって、こうしたよいものが壊されずに継続することを願っています。</p> <p>8. 総合福祉センターの機能分散をして機能強化を 1カ所で大きな立派な総合福祉センターをつくるお金がないのしょうから、機能分散を考えて、本部や相談支援事業、自力で通所している方が多い事業は市の中心の調布駅前に、送迎バスで送迎可能な事業は京王多摩川駅に、などと検討していただけないでしょうか。これから高齢化、多様化が進み、それぞれの条件に合わせた社会とのかかわり方が大事になってくると思います。コロナ禍で、社会の格差拡大、効率優先、環境破壊の世の中でいいのか、ということが問われていると思います。この計画は、コロナ禍以前に考えられたものだと思います。京王多摩川駅近かの京王の再開発計画と、調布駅前のグリーンホール建て替えも京王さんという話のようです。民間事業者もコロナで経営が悪化しているでしょうし、京王さん頼みで、果たして必要な施設設備を備えた福祉センターができるのかも不安があります。本当に市の持ち出しも減るのでしょうか。お金がなくて調布駅前には建て替えられないから、京王さんの計画に、というだけでは、知恵や工夫が足りないように感じます。調布の社会福祉協議会は、さまざまな事業を実際に行っている社協と聞いています。職員もかけもちでやっていることも多いと思います。今後、いっそう役割強化が望まれている社協ですから、思い切って社協の経営基盤も強くして、職員も増やして、専門性が深められるように配置し、すべて一カ所にまとめるのではなく、事業内容によって適切な場所にわりふる、ということは検討できないでしょうか。本部は調布全体を見渡せ、アクセスがいい調布駅前をお願いしたいです。</p> <p>以上です。よろしくお願いたします。</p>	
全般	2	<p>平素より市民生活のためのご勤務に心より敬意と感謝を申し上げます。調布市民になり 30 年以上になります。2005 年に●●という事務所を設立し、さまざまな発達障害のお子さんやご家族の相談携わってまいりました。2000 年まで、多摩市の●●にて長く心理判定員として働いてきて、果たして、一人での相談業務がどのくらいできるか不安でしたが、調布市内の教育相談所、すこやか、こころの健康支援センター、そして若者総合支援事業ここあ、子</p>	<p>新たな総合福祉センターは、その基本的な理念として「地域共生社会を実現するための総合的な福祉の拠点」を掲げ、ユニバーサルデザイン、バリアフリーへの対応をはじめとして、駅から至近距離にある場所へ移転することなど、利用者、来館者の利便性に配慮した施設機能等の検討を進めています。</p>

項目	No	御意見等の概要	市の考え方
		<p>ども発達センターステップ、さまざまな支援機関に働く方々が、一人のケースのためだったら、胸襟を開き、連携をすることをいとわず、不安は一蹴され、これまで関わった方々の支援に打ち込んでくることができました。この支援者のお一人お一人の力量や心根の高さを一調布市民としても誇り高く感じています。仕事柄、ケースの方の精神科受診の同行などで、市内のみならず、市外の医療機関にも参りますが、そこからも、調布市の支援機関同士の風通しの良さ、携の強さを度々褒められ、自分のことのように嬉しく思っていました。今は、主に、ここにあに、かつて自分が関わっていたお子さんが成人に達し、生活や進路について安心して相談できる先として、ご紹介したり、利用の定着のためにお子さんに同行したりしています。</p> <p>さて、件名の総合福祉センターについて、お願いと素朴な提案がございます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在利用している方が、候補地に移転した場合にこうむるであろうと想定できるデメリットをここあ職員から丁寧に聞き取りしてほしい。(私も数名深く関わってきた方がここあを利用されているので、その方々についてはお話しすることができます。) ・それに基づいて、デメリットを解消できる具体的な経過措置や代案を考える。 ・実際にお子さんに携わる職員スタッフの提案を取り入れる。 <p>以上の通りでございます。 どうぞよろしくお願いいたします。</p>	<p>「整備に関する考え方」では、移転・更新に当たっては、高齢者、障害者等の多様な利用状況を踏まえて、多面的な視点からアクセシビリティ（交通の利便性、利用しやすさ等）に配慮するとともに、ハード・ソフトの両面から、ユニバーサルデザイン・バリアフリーによる整備や必要な移動手段の確保等を検討することとしています。</p> <p>このことから、移動手段の確保に資する取組として、無料の巡回バスや事業の実施状況等に応じた無料の送迎サービスなどの移動手段を検討して参ります。</p> <p>また、地域共生社会の充実に向けたまちづくりの推進として、次期バリアフリー基本構想において、京王多摩川駅周辺地区を「重点整備地区」に位置付けて参ります。</p> <p>併せて、京王多摩川駅舎の利便性向上の取組として、ホームと車両の隙間対策やホームから施設までの移動の円滑化、設備のバリアフリー化等や競輪等イベント開催時の利用者の安全な動線確保について、事業者を含めて協議を重ねて参ります。</p> <p>また、今後も、運営主体である社会福祉協議会との意見交換を重ねながら、現施設における事業の実施状況や施設上の課題等を的確に把握するとともに、新たな総合福祉センターがユニバーサルデザイン、バリアフリーに配慮した「地域共生社会を実現するための総合的な福祉の拠点」となるよう検討を進めて参ります。</p>
全般	3	<p>市が総合福祉センターを利用する弱者に不便やリスクを負わせることは改悪であり、移転方針を直ちに撤回することを求める。</p> <p>1、京王多摩川への移転問題点 1-①多摩川浸水被害リスク</p> <p>総合福祉センターが移転した場合、予想される重大なデメリット 調布市洪水ハザードマップ上の浸水深5mで、台風の浸水被害が予想される地域である。令和元年台風では、多摩川流域で染地地域を中心に浸水被害が発生した。もし、垂直避難ができたとしても、建物内の人々は脱出できず孤立する。来所者は建物に到達できず、福祉サービスの核である総合福祉センターが孤島になってしまう。他避難所に他の市民と同じように避難生活が難しい要支援者は総合福祉センターをあてにしようとしても避難先にすることができない。</p> <p>昨今、河川の氾濫対策は「流域治水」として河川流域において浸水リスクのある土地の開発を制限して、リスクそのものを低下させることが国の施策である。</p> <p>国の国土強靱化基本法・特定都市河川浸水被害対策法等の一部を改正する法律案と上位の国土強靱化基本法において、流域治水への変換が図られ、令和3年2月の特定都市河川浸水被害対策法等の一部を改正する法律案でも浸水被害リスクのある地域の開発は抑制される方針である。</p> <p>国は令和元年台風被害後の国土強靱化基本法に基づく国土強靱化年次計画2020（令和2年6月18日国土強靱化推進本部決定）で「流域治水」への転換を図るとしている。</p> <p>気候変動による水災害リスクの増大に備えるため、これまでの河川、下水道などの管理者が主体になって行う治水対策に加えて、集水域と河川区域のみならず、氾濫域も含めて一つの流域として捉え、その流域のあらゆる関係者により流域全体で行う治水、「流域治水」へ転換し、以下①～③の対策が盛り込まれている。</p> <p>①氾濫を防ぐための対策</p>	<p>「整備に関する考え方」では、移転・更新に当たっては、高齢者、障害者等の多様な利用状況を踏まえて、多面的な視点からアクセシビリティ（交通の利便性、利用しやすさ等）に配慮するとともに、ハード・ソフトの両面から、ユニバーサルデザイン・バリアフリーによる整備や必要な移動手段の確保等を検討することとしています。</p> <p>このことから、移動手段の確保に資する取組として、無料の巡回バスや事業の実施状況等に応じた無料の送迎サービスなどの移動手段を検討して参ります。</p> <p>また、地域共生社会の充実に向けたまちづくりの推進として、次期バリアフリー基本構想において、京王多摩川駅周辺地区を「重点整備地区」に位置付けて参ります。</p> <p>併せて、京王多摩川駅舎の利便性向上の取組として、ホームと車両の隙間対策やホームから施設までの移動の円滑化、設備のバリアフリー化等や競輪等イベント開催時の利用者の安全な動線確保について、事業者を含めて協議を重ねて参ります。</p> <p>災害対応としては、台風等による被害のおそれが想定される場合には、風雨の影響等を総合的に考慮して、あらかじめ総合福祉センターの利用を一時的に休館し、通所等を行わないよう措置を講じます。</p> <p>また、施設の階の高さについて、浸水高を考慮した5m以上とするるとともに、主要な設備等を2階以上に配置することにより、風水害時の被災を低減し、施設の早期復旧を目指します。なお、大規模水害等により、早期復旧に時間を要する場合には、他の施設での臨時的・代替的なサービスの提供が行えるよう調整を図ります。</p> <p>福祉避難所の対応としては、風水害時は福祉避難所に指定された各公共施設等で要支援者の避難対応を行うこととなります。令和元年の台風</p>

項目	No	御意見等の概要	市の考え方
		<p>②被害対象を減少させるための対策 ③被害の軽減・早期復旧・復興のための対策を多層的に進める。あわせて、自然環境が有する多様な機能を活用したグリーンインフラを、官民連携・分野横断により推進し、雨水の貯留・浸透を図る。</p> <p>また、国土交通省社会資本整備審議会が令和2年6月 水災害リスクが高い区域における開発抑制の強化、よりリスクの低い地域への誘導策の推進の答申を行った。</p> <p>その後、令和3年2月2日閣議決定された 特定都市河川浸水被害対策法等の一部を改正する法律案では近年、令和元年東日本台風や令和2年7月豪雨等、全国各地で水災害が激甚化・頻発化する気候変動の影響により、21世紀末には、全国平均で降雨量1.1倍、洪水発生頻度2倍になるとの試算（20世紀末比）、降雨量の増大等に対応し、ハード整備の加速化・充実や治水計画の見直しに加え、上流・下流や本川・支川の流域全体を俯瞰し、国、流域自治体、企業・住民等、あらゆる関係者が協働して取り組む「流域治水」の実効性を高める法的枠組み「流域治水関連法案」を整備する必要があるとされ、以下①～③の水防災に対応したまちづくりとの連携、住まい方の工夫を行うものとされている。</p> <p>①浸水被害防止区域を創設し、住宅や要配慮者施設等の安全性を事前確認 ②防災集団移転促進事業のエリア要件の拡充等により、危険エリアからの移転を促進 ③災害時の避難先となる拠点の整備や地区単位の浸水対策により、市街地の安全性を強化国の国土強靱化基本法・特定都市河川浸水被害対策法等の一部を改正する法律案に対して完全に国と市の施策が矛盾し、不整合となる。</p> <p>わざわざ浸水被害予想地域に市の重要施設を移転させることは論外である。</p> <p>「調布市国土強靱化地域計画」においても、浸水リスクのある多摩川地区や染地地区では人口を増やすことにつながる開発行為（多数の人の利用施設や団地の戸数増を伴う建替等）は制限させなければならない。</p> <p>1-②京王閻魔輪最寄駅であることの危険性 京王多摩川駅隣接の京王閻魔輪開催時は短時間に駅、駅周辺に競輪目的の鉄道・バス利用者が大挙して押し寄せる状況が発生する。 移転後の総合福祉センターを利用するため京王多摩川駅、その周辺にて目の不自由な人、車いすや杖など足の不自由な人や高齢者などが競輪場来場者集団に押しのけられ、怪我をするリスクが高くなる。</p> <p>1-③京王多摩川駅のアクセス問題 京王多摩川駅は京王線の支線・相模原線で区間急行以上の優等列車は通過する。 また、地域としては南部地域にあたり、市東部・西部から支線へのアクセスは移動距離が長くなるばかりでなく、乗換の場合も発生し、不便になる。特に西部の西調布駅、飛田給駅からは調布で必ず調布駅で上下方向の異なる地下ホーム2階と3階での乗換が必須となってしまう。 北部でのバス便は調布駅を起点終点としており、バスの乗継またはバスと京王相模原線の乗換が必須となり、アクセス性は大変悪くなる。</p> <p>1-④京王多摩川駅設備・構造上の問題 京王多摩川駅は高架駅で複線対面式ホームの駅であるが、エレベータはあるが、あとは階段だけで、エスカレータはない。 ホームドアはなく、線路に転落するリスクのある駅である。 ホームドアは1日の乗降客が10万人以上で設置するという目安があり、設置は期待できない。</p>	<p>第19号の事例では、現総合福祉センターに避難された方がおられたことを踏まえ、調布駅近傍の文化会館づくり1階に要配慮者スペースを確保し、開設・運営においては、避難所担当職員を中心とした人員配置により対応して参ります。</p> <p>風水害時における発災前から発災後までの段階ごとの課題分析を踏まえ、今後も引き続き、新たな総合福祉センター機能の確保等を検討して参ります。</p> <p>整備及び管理運営については、総合管理計画の基本方針等に基づく、民間の技術、ノウハウ、資金等を活用した最適なPPP（公民連携）手法を検討し、効果的な活用を行うことで、整備及び管理運営等に関するサービス向上等を図って参ります。</p> <p>総合福祉センターは、建設から38年余が経過していることから、施設及び設備の経年劣化やセンター機能の改善への対応が喫緊の課題となっています。また、調布駅前広場の整備と連動して、地区計画で施設の南側に接する区画道路の拡幅整備や壁面後退に対応していくことを定めており、現在の施設機能の維持は困難となります。</p> <p>現在、総合福祉センターでは、高齢者や障害者等への福祉サービス等を行っていることから施設整備の検討に当たっては、それらのサービスの継続的な提供が不可欠となります。</p> <p>こうした課題に加えて、調布駅周辺においては、建替えの期間中に移転する仮設施設を整備するための用地確保が困難な状況であることや、仮設施設の整備については、整備コストの増加につながることに留意する必要があります。</p> <p>こうしたことから、総合福祉センターを現敷地で維持していくことは困難と考えており、施設の移転更新が必要となっております。</p> <p>グリーンホールについては、駅前広場整備に合わせて外階段を撤去する方向で調整しています。建物全体については、令和10年度を目標に新しいホールを整備する方向ではあるものの、財政的な影響も大きいため、その手法も含めて検討が必要であり、どのように整備していくか、その詳細について検討を始めた段階です。</p>

項目	No	御意見等の概要	市の考え方
		<p>構造上、上りもホームから総合福祉センターが入居予定の「B 棟」に2階で直結させるような改造が必要であるが、総合福祉センターと直結させるような改札口の増設設置改良工事となると京王が工事を行うかどうか全く期待できない。</p> <p>対面式ホームでは、下りホームと直結は難しいため駅と新築建物の直結についてはほぼ無理と推察する。</p> <p>1-⑤賃料などの負担が発生</p> <p>移転後の費用負担は未決定ということであったが、総合福祉センターは移転後は京王グループの建設した建物への入居となり、固定費としてのテナント料など借用に關する費用が発生すると想定される。この移転は、市の財政上、民間への長期継続的なキャッシュアウト負担となる。わざわざ駅前の一等地に現存する市有財産を捨て、より不便な場所に立つ民間ビルに移転するということは財政の観点からもおかしな話で、説明が付かないことである。</p> <p>2、調布駅前立地、現在メリット</p> <p>調布駅は地理的に市内南部・北部・東部・西部からのバス便の起点終点になっておりアクセス性が高い。</p> <p>京王ライナー以外の特急・準特急含む全ての優等列車が停車する。</p> <p>全ホームにホームドアが設置済みであり、転落事故は発生しない。</p> <p>エレベーター・エスカレーターは設置済みである。</p> <p>駅員や警備員が多数常勤しておりヘルプが得やすい。</p> <p>調布駅、南口・北口バス降車場いずれからも、信号や横断歩道ゼロで駅前広場を経由して総合福祉センターに通常徒歩で2～3分で到達できる。</p> <p>総合福祉センター南面道路は現在は一方通行であり、東から西側への自動車通行を心配しなくてよい。</p> <p>以上、調布駅前の中心地でありながら、市内各所からの交通至便、かつ、安全なアクセスができる最高の立地となっている。</p> <p>3、総合福祉センター移転理由はグリーンホールの建替が起因</p> <p>令和3年6月発行の総合福祉センターの整備に関する考え方（素案）の市民説明会が令和3年7月17日に開催された。</p> <p>調布市福祉健康部からは、障がい者団体などへの説明として、建物設備老朽化と、建て替えを実施する場合は南面道路の拡幅対面通行化が地区計画となっており、セットバックを行うと建物面積が維持できず、移転の必要性が生じた。調布駅前では仮移転でなく、本移転する候補を探したが現時点で京王多摩川駅前アンジェ跡地に京王電鉄が建設する建物に入居することを案としてまとめ、市民に説明しているということであった。</p> <p>資料内スケジュール案では令和6年度中に総合福祉センターが移転することになっている。</p> <p>現在の総合福祉センターは38年前に竣工したが、公共施設マネジメントの観点では60年間はハードとしての建物を維持する期間としており、建替えをする年限には到達していない。サッシや雨漏りなどの設備は修繕が可能であり、もし耐震性に問題があったとしても、耐震改修をすれば継続使用ができる。</p> <p>説明通りに総合福祉センターの建替えをすることが移転のトリガであるならば総合福祉センターを現存させることができれば移転をする必要性がなくなる。</p> <p>移転が必要な真の理由は総合福祉センター北側に接する建物であるグリーンホールの建替計画である。</p> <p>2019年2月1日付の建設通信新聞「建て替えが決まったグリーンホール」記事で「総合福祉センターの解体後にグリーンホールを除却し、小島町2-47-1の敷地4798㎡に新たなグリーンホールを建設する」という市の計画を市民は知った。</p> <p>この建替計画は総合福祉センターが移転し、調布駅前広場の完成後、総合福祉センター除却</p>	

項目	No	御意見等の概要	市の考え方
		<p>工事が終了してからグリーンホールの除却と現位置での建替えをするという工事順序があり、三位一体の開発と言えるものである。</p> <p>調布駅前広場の完成は、地下駐輪場建設中止や、ロータリー形状の一部修正などを経て令和7年度中の完成予定となっている。</p> <p>総合福祉センターの移転は、総合福祉センター建物そのものの老朽化や当該建物の建替を実施した場合の道路セットバックの必要性からの移転理由の起因ではなく、グリーンホール建替を早期実現させるために前もって総合福祉センターが移転していなければならないというのが真相である。</p> <p>行政経営部は、当該資料において総合福祉センター部分だけを切り出して、設備の老朽化や、総合福祉センターの建替えをした場合、セットバックが発生して建物を現位置で維持できないと説明するのは、市民に駅前の市有地の開発計画の情報全部を提示して市民に是非を問うておらず、卑怯なやり方である。</p> <p>市がよく市民ニーズを汲み上げる手法として実施するアンケートを取るべきである。</p> <p>設問は以下シンプルなものでよい。</p> <p>総合福祉センターは調布駅前の現位置に合っているでしょうか？ または京王多摩川のアンジェ跡地に移転した方がよいですか？</p> <p>1、調布駅前の現位置がよい 2、京王多摩川アンジェ跡地に移転した方がよい</p> <p>上記の間であれば、市民は先に記載した京王多摩川のデメリットと調布駅前一等地立地のメリットの比較から言うまでもなく調布駅前の現位置がよいという回答が圧倒的多数になると予想ができる。その結果を開示した上で、総合福祉センターの移転を再検討すべきである。</p> <p>4、課題解決方法</p> <p>まず、グリーンホールの建替方針を中止することが最善の選択である。</p> <p>グリーンホール、総合福祉センター、調布駅前広場は隣接した土地であり、コロナ禍で税収の落ち込みが懸念される状況下では、一度立止まり、駅前全体の再検討をすべきである。</p> <p>グリーンホールの現位置建替を行わなければ、総合福祉センター除却の必要がなくなり、移転が不要となる。</p> <p>総合福祉センターを建替しなければ、南側地区計画道路のセットバックも不要となる。調布駅前広場の工事期限も令和7年度までに必ずしも終了する必要がなくなる。</p> <p>上記すべてが連動する。</p> <p>グリーンホール、総合福祉センター両建物とも、市が施設維持を目標とする築60年未満の建築物である。耐震改修を行い、設備更新を行っても、建物全部を新築する費用より安価となる筈である。建物の課題については建築家の青木茂氏が提唱する「リファイニング建築」（再生建築）の工法により、多摩北部の清瀬市「けやきホール」のように、築34年時点での建物を耐震性やバリアフリー問題を解決する改修工事を行うことが技術的に可能となっている。</p> <p>また、調布駅前広場について南口ロータリー形状、噴水やバス停上屋などの設え、タコ公園の復活、樹木配置についてなど課題がある。交通結節機能・イベント広場・市民の憩いの場の役割すべてをバランスよく叶えるために、行政と市民が協働し、再検討することが可能となる。</p> <p>5、調布市「行革プラン2019」について</p> <p>（仮称）調布駅周辺大型公共施設（総合福祉センター・グリーンホール）の考え方の検討を行うことがテーマであるが、市の方針となったグリーンホールの建替えとそれに伴う総合福祉センター移転方針は撤回すべきである。</p> <p>コロナ禍において無駄な費用支出と市民へのサービス低下を避けるために、検討内容の見直</p>	

項目	No	御意見等の概要	市の考え方
		しは必須である。 以上	
全般	4	<p>30年前に調布市に転居してきて、調布駅から電車に乗るようになり、駅前にある総合福祉センターを初めて知りました。駅のすぐ近くにあり、小型のバスから車いすに乗り、杖をついた方達が降りてその建物に入っていらっしゃるのを見て、「こんな駅前の便利な場所なら毎日でも通いやすいのではないか」と思いました。調布市社会福祉協議会がセンター内にあり、新たな利用者への対応などもこの建物内でワンストップ相談も可能な体制にも感心しました。当時の調布駅そのものはとてもバリアフルな構造でしたが、現在は交通バリアフリー法に基づくエレベーターも完備してさらに便利な駅へと変わりました。</p> <p>それが、駅前整備に伴って、道路拡幅のために敷地面積が削られることから移転を余儀なくされるとということにはどうにも納得がいきません。どんな人でも、いつ病気になったり、障害を負ったりすることは可能性としては平等に起こり得ることです。</p> <p>何が起きても安心して暮らし続けられる街であって欲しいと思います。障がい者差別禁止法が新たに制定されるほど、共生を大切に考えられる時代になりました。差別が生まれる根本は、その人たちの存在が見えなくされて、心の中でいないことになってしまっていることにあります。その意味からも時間を戦前に戻すような決定をしないでください。</p> <p>現実的に狭くなった敷地で今まで通りのサービス提供ができないという問題もあるかと思いますが、今、公共施設として更新しなければならないのは、北側のグリーンホールも同じです。文化施設と福祉施設の垣根を越えて、一体で更新する方法を考えてください。</p> <p>グリーンホールも、いつか調布音楽祭で市長自ら仰っていたように、「このホールが満杯になるのは年に何回か」というホールの機能を見直して更新すべき時が来ていると思います。商業地域であれば、高層ビルも建てられる時代になっています。これまでの4階や5階にこだわることなく、福祉センターは広いワンフロアだけでも必要な機能は揃えられるかもしれません。エレベーターで上がってしまえば何階でも大丈夫、リハビリの部屋などはワンフロアの方が便利ですし、送迎のための駐車場も広場ではなく市役所通り側に作ることも可能です。福祉センターとグリーンホール、今ここにあり、市民に活用され、愛されている施設・居場所を無くさないための最大限の努力をしてください。法律を理由にして、出来ることを早々に諦めるのではなく、これからの調布市民の安心と幸せのために法の壁を破ってでも、可能性を探ってください。先駆的と称えられる事業や施設は大抵、自治体の熱意が法の壁を破って実現したものです。</p> <p>提案されている京王多摩川駅そばの地域は、洪水の危険はもとより、通うにも駅そのもの問題が満載です。駅のホームはカーブしていて、車いすでは大きな危険が伴います。駅のバリアフリー化も乗降客の少なさから、交通バリアフリー法の対象外です。バリアフリートイレもありません。これを改善するための交渉にかける時間があるのなら、駅前の公共施設について、国と交渉してください。</p>	<p>総合福祉センターは、建設から38年余が経過していることから、施設及び設備の経年劣化やセンター機能の改善への対応が喫緊の課題となっています。また、調布駅前広場の整備と連動して、地区計画で施設の南側に接する区画道路の拡幅整備や壁面後退に対応していくことを定めており、現在の施設機能の維持は困難となります。</p> <p>現在、総合福祉センターでは、高齢者や障害者等への福祉サービス等を行っていることから施設整備の検討に当たっては、それらのサービスの継続的な提供が不可欠となります。</p> <p>こうした課題に加えて、調布駅周辺においては、建替えの期間中に移転する仮設施設を整備するための用地確保が困難な状況であることや、仮設施設の整備については、整備コストの増加につながることに留意する必要があります。</p> <p>こうしたことから、総合福祉センターを現敷地で維持していくことは困難と考えており、施設の移転更新が必要となっております。</p> <p>グリーンホールについては、駅前広場整備に合わせて外階段を撤去する方向で調整しています。建物全体については、令和10年度を目途に新しいホールを整備する方向ではあるものの、財政的な影響も大きいため、その手法も含めて検討が必要であり、どのように整備していくか、その詳細について検討を始めた段階です。</p> <p>「整備に関する考え方」では、移転・更新に当たっては、高齢者、障害者等の多様な利用状況を踏まえて、多面的な視点からアクセシビリティ（交通の利便性、利用しやすさ等）に配慮するとともに、ハード・ソフトの両面から、ユニバーサルデザイン・バリアフリーによる整備や必要な移動手段の確保等を検討することとしています。</p> <p>このことから、移動手段の確保に資する取組として、無料の巡回バスや事業の実施状況等に応じた無料の送迎サービスなどの移動手段を検討して参ります。</p> <p>また、地域共生社会の充実に向けたまちづくりの推進として、次期バリアフリー基本構想において、京王多摩川駅周辺地区を「重点整備地区」に位置付けて参ります。</p> <p>併せて、京王多摩川駅舎の利便性向上の取組として、ホームと車両の隙間対策やホームから施設までの移動の円滑化、設備のバリアフリー化等や競輪等イベント開催時の利用者の安全な動線確保について、事業者を含めて協議を重ねて参ります。</p> <p>災害対応としては、台風等による被害のおそれが想定される場合には、風雨の影響等を総合的に考慮して、あらかじめ総合福祉センターの利用を一時的に休館し、通所等を行わないよう措置を講じます。</p> <p>また、施設の階の高さについて、浸水高を考慮した5m以上とするのと同時に、主要な設備等を2階以上に配置することにより、風水害時の被災を低減し、施設の早期復旧を目指します。なお、大規模水害等により、早期復旧に時間を要する場合には、他の施設での臨時的・代替的なサービスの提供が行えるよう調整を図ります。</p> <p>福祉避難所の対応としては、風水害時は福祉避難所に指定された各公</p>

項目	No	御意見等の概要	市の考え方
			<p>共施設等で要支援者の避難対応を行うこととなります。令和元年の台風第19号の事例では、現総合福祉センターに避難された方がおられたことを踏まえ、調布駅近傍の文化会館づくり1階に要配慮者スペースを確保し、開設・運営においては、避難所担当職員を中心とした人員配置により対応して参ります。</p> <p>風水害時における発災前から発災後までの段階ごとの課題分析を踏まえ、今後も引き続き、新たな総合福祉センター機能の確保等を検討して参ります。</p> <p>市は、これまでも多世代や多様な主体が交流する機会を通じて、市民の福祉に対する理解をより深めていくという、地域共生社会の考え方にも通じる理念の下、総合福祉センターを運営して参りました。今後、総合福祉センターの移転・更新を進めるうえでも、こうした基本理念が重要であるとの認識は、今後も変わるものではありません。そのため、新たな総合福祉センターが、地域共生社会を充実するための総合的な福祉の拠点であるという理念を具体化し、地域に開かれた親しみやすい総合的な福祉の拠点となるよう、引き続き、利用者や関係団体等に御理解いただきながら、取り組んで参ります。</p>
全般	5	<p>いつも障害福祉課をはじめ調布市役所にはお世話になっております。現在センターでの放課後等デイサービスびっころと緊急一時保護を利用する者のひとりとして、以下のとおり申し上げます。</p> <p>移転は大変残念ですが、立地条件等の問題で現在地に再建が困難であることは理解しました。ただ、想定外の災害が頻発する中、浸水想定区域が福祉の拠点としてふさわしいのか、という疑問はどうしても残ります。</p> <p>移転候補地近隣の利用者には移転はメリットであり、設備の拡充や今まで無かった駐車場や駐輪場が整備されるのも有り難いですが、公共交通機関しか手段の無い高齢、障害者等には、交通至便が何よりもです。</p> <p>市内殆どのバスのターミナルであり、バリアフリー化された調布駅、様々な相談をワンストップで受ける社協の相談窓口があり、市役所に隣接し役所への用事と合わせても立ち寄り、商業施設も多いという利便性が失われます。</p> <p>調布の福祉のシンボルとすべく現在の場所が選ばれたというセンター創設時の強い理念と当時を知る方の思いを知り、何とも言えない気持ちになりました。</p> <p>人流の多い調布駅前広場に面し、市役所に向かう途中センター横で何気なく目に入る福祉関係の求人情報やポスター、センターでの福祉祭り、車椅子を利用し出入りする方々など、福祉やそのサービスが必要とする人たちのことをより多くの人が身近に感じ、理解し合える場となることを願い、現在の場所が選ばれたのでしょう。</p> <p>現在センターで行なっている事業は様々で、それぞれ移転のメリットデメリットがあると思えます。現在の場所付近に残す事業も一部あり得るといふ余地を持って計画が進められ、合わせて安全と利便性の確保を望みます。</p> <p>例えば</p> <ul style="list-style-type: none"> ・びっころは長年保護者から要望がある送迎を始める、または残す。(残す場合でも送迎の二一は変わらず) 京王多摩川までとなると利用者によっては送迎の負担が更に増し、ボランティアの手配にも支障が出て、びっころの利用をあきらめてしまう方がいるかもしれません。 ・緊急一時保護室は残す(調布駅前の利便性は重要です) プラス移転先にも設置 ・社協の相談窓口機能を一部残す 	<p>「整備に関する考え方」では、移転・更新に当たっては、高齢者、障害者等の多様な利用状況を踏まえて、多面的な視点からアクセシビリティ(交通の利便性、利用しやすさ等)に配慮するとともに、ハード・ソフトの両面から、ユニバーサルデザイン・バリアフリーによる整備や必要な移動手段の確保等を検討することとしています。</p> <p>このことから、放課後等デイサービス「びっころ」について、移転後は、現在の調布駅周辺よりも送迎の負担が増えてしまう方もいらっしゃるから、アクセシビリティの視点を踏まえ、実施状況等に応じた無料の送迎サービスなどの移動手段を検討します。</p> <p>また、地域共生社会の充実に向けたまちづくりの推進として、次期バリアフリー基本構想において、京王多摩川駅周辺地区を「重点整備地区」に位置付けて参ります。</p> <p>併せて、京王多摩川駅舎の利便性向上の取組として、ホームと車両の隙間対策やホームから施設までの移動の円滑化、設備のバリアフリー化等や競輪等イベント開催時の利用者の安全な動線確保について、事業者を含めて協議を重ねて参ります。</p> <p>総合福祉センターの機能や設備等については、現行機能の維持を基本として、一部拡充も含め必要な床面積を確保するとともに、上下移動の少ないフロアに機能を集約し、必要な機能改善の検討等を行って参ります。こうした方向を踏まえて、障害者等に配慮した通路幅員の確保、駐車場や屋根のある車寄せの設置など基本機能の向上に資する機能の整備を検討して参ります。</p> <p>また、調布駅周辺の福祉機能については、調布駅周辺の公共・民間施設を活用することにより、安心して相談などができる相談機能をはじめとして、交流・居場所機能や福祉機能等について、確保することを検討して参ります。</p> <p>そのため、今後も、関係団体や利用者等の御意見を伺いながら、福祉サービスの実施状況や福祉施策を取り巻く社会状況等を勘案して、必要な</p>

項目	No	御意見等の概要	市の考え方
		<p>・移転後のセンターと調布駅、必要なら市内主要駅を結ぶシャトルバスの運航創設時の理念を失わないよう、できる限り柔軟な対応をお願いいたします。 以上</p>	<p>施設機能を整備して参ります。</p>
全般	6	<p>私は、高次脳機能障害者を持つ母です。社会福祉協議会の自主グループ、●●の代表をしています。 高次脳機能障害は、中途障害です。交通事故やスポーツ事故、脳血管障害等で、脳を損傷することで症状が現れます。主な症状は、1)記憶障害2)注意障害3)遂行機能障害4)社会的行動障害です。 その中でも特に、この移転に伴うことに関わるキーとなる難点が記憶力の低下です。 この点に絞り、話します。 今現在、総合福祉センターは、京王線の特急が止まり、市内外のバスのターミナル駅である、調布駅にあります。駅から歩いてすぐです。 娘は、記憶するのが難しいのです。今は、自宅から、調布駅まで、バス1本で通っています。駅に着いたら、ドルチエの職員さんに電話し、迎えに来てもらったり、帰りは、バス停まで送ってもらいます。 迷子にならずに済んでいるのは、GPS 付きの携帯電話を常に持っているからです。 それを調布駅でバスから電車に乗り換えねばならぬとは？不便にする理由がわかりません。来るな！ということでしょうか？ 調布市は、他市と比べても、福祉の進んでいる市です。娘の事故に遭った20年ほど前、社協の方に勧められ、障害者の委員会を傍聴しました。傍聴者は他市からも見えていました。その時は、この市に住んでいることをいたく誇りに思い未来が開けた清々しさを感じました。が、今回の移転計画案を見て、非常にガッカリしました。あまりにも、酷い！障害者の目線に立っていない、寄り添っていないではありませんか。時代が逆戻りしている感が否めません。福祉に理解が深い「あの調布市」ともあろう市に、一体何が起こったの？とても理解不能で、怒りさえ覚えました。 高次脳機能障害の家族会である●●は、設立当初、市内の北のはずれに位置する深大地域福祉センターで茶話会等を開いていましたが、その周辺以外の会員や参加者が集うようになり、どの地域からも集まりやすい、調布駅からすぐの、つまりどなたにとっても足の便の良い、総合福祉センターを会場にすることが多くなりました。利用者さんにとって、利便性のよい立地にある総合福祉センターです。ターミナル駅まで、折角来たのに、そこで乗り継ぎ、京王多摩川まで行くことは、利用者を不便にさせること。集客は困難になります。 記憶が難しい高次脳機能障害者でも通える社協のセンターを、現在の場所近くに設置してくださる以外に解決は、考えられません。ご検討を切にお願い申し上げます。</p>	<p>「整備に関する考え方」では、移転・更新に当たっては、高齢者、障害者等の多様な利用状況を踏まえて、多面的な視点からアクセシビリティ（交通の利便性、利用しやすさ等）に配慮するとともに、ハード・ソフトの両面から、ユニバーサルデザイン・バリアフリーによる整備や必要な移動手段の確保等を検討することとしています。 このことから、移動手段の確保に資する取組として、無料の巡回バスや事業の実施状況等に応じた無料の送迎サービスなどの移動手段を検討して参ります。 また、地域共生社会の充実に向けたまちづくりの推進として、次期バリアフリー基本構想において、京王多摩川駅周辺地区を「重点整備地区」に位置付けて参ります。 併せて、京王多摩川駅舎の利便性向上の取組として、ホームと車両の隙間対策やホームから施設までの移動の円滑化、設備のバリアフリー化等や競輪等イベント開催時の利用者の安全な動線確保について、事業者を含めて協議を重ねて参ります。 京王多摩川駅周辺のまちづくりの方向（案）としては、新たな総合福祉センターの基本コンセプトとも整合を図りながら、地域共生社会に向けたまちづくりを掲げています。京王多摩川駅舎の利便性向上においては、心のバリアフリー推進に向けて障害者理解促進、地域共生社会の意識啓発について京王電鉄に要請しています。 こうした取組に限らず、新たな総合福祉センターを障害者も高齢者も誰もが利用しやすい施設となるよう検討を進めて参ります。</p>
全般	7	<p>障害者を持つ親として、今回の移転については反対の立場です。 ・調布市の基本方針に「福祉の充実」があり、中心駅かつ市役所所在地に福祉センターがあるのはその象徴ではないですか。全市から共通して訪問が可能なのは、やはり「調布駅」とであると痛切に感じます。 ・駅前には「パチンコ店（風俗店）」が乱立し、市の品性が問われます。税収面からパチンコ店に反対するつもりはありませんが、同様に「福祉」に力を入れている姿勢が必要です。 ・駅周辺には、現在、支援学校もあります。今回の福祉センター移転を奇貨として、こうした施設も中心地から追いやるのではないかと危惧します。 ・京王多摩川駅の整備もないまま、障害者が必要とする施設を移転することは問題です。調布駅ロータリーも、障害者の送迎ができるスペースを設置すると聞いていますが、いまだに実現していません。 ・現在も、フロリアル調布への送迎拠点になっており、福祉基地の面があります。他の施設に</p>	<p>「整備に関する考え方」では、移転・更新に当たっては、高齢者、障害者等の多様な利用状況を踏まえて、多面的な視点からアクセシビリティ（交通の利便性、利用しやすさ等）に配慮するとともに、ハード・ソフトの両面から、ユニバーサルデザイン・バリアフリーによる整備や必要な移動手段の確保等を検討することとしています。 このことから、移動手段の確保に資する取組として、無料の巡回バスや事業の実施状況等に応じた無料の送迎サービスなどの移動手段を検討して参ります。 また、地域共生社会の充実に向けたまちづくりの推進として、次期バリアフリー基本構想において、京王多摩川駅周辺地区を「重点整備地区」に位置付けて参ります。 併せて、京王多摩川駅舎の利便性向上の取組として、ホームと車両の</p>

項目	No	御意見等の概要	市の考え方
		<p>変えれば、こうした利便性を奪うことになりかねません。</p> <ul style="list-style-type: none"> • かつて調布にも、「保健所」があり（昔は「保健所入口」バス停もありました）、統合により利便性が失われました。弱者に対する施設が、どんどんなくなってしまうのは、福祉政策に逆行するものと感じます。 • 建物の老朽化が原因であるならば、今回は仮移転として、改めて同地に戻すことが肝要です。 • 総合福祉センターについては、目黒の「こぶし園」のように、総合的に市民参加できる施設としてリニューアルされることを望みます。 	<p>隙間対策やホームから施設までの移動の円滑化、設備のバリアフリー化等や競輪等イベント開催時の利用者の安全な動線確保について、事業者を含めて協議を重ねて参ります。</p> <p>総合福祉センターは、建設から38年余が経過していることから、施設及び設備の経年劣化やセンター機能の改善への対応が喫緊の課題となっています。また、調布駅前広場の整備と連動して、地区計画で施設の南側に接する区画道路の拡幅整備や壁面後退に対応していくことを定めており、現在の施設機能の維持は困難となります。</p> <p>現在、総合福祉センターでは、高齢者や障害者等への福祉サービス等を行っていることから施設整備の検討に当たっては、それらのサービスの継続的な提供が不可欠となります。</p> <p>こうした課題に加えて、調布駅周辺においては、建替えの期間中に移転する仮施設を整備するための用地確保が困難な状況であることや、仮施設の整備については、整備コストの増加につながることに留意する必要があります。</p> <p>こうしたことから、総合福祉センターを現敷地で維持していくことは困難と考えており、施設の移転更新が必要となっております。</p> <p>市は、これまでも多世代や多様な主体が交流する機会を通じて、市民の福祉に対する理解をより深めていくという、地域共生社会の考え方にも通じる理念の下、総合福祉センターを運営して参りました。今後、総合福祉センターの移転・更新を進めるうえでも、こうした基本理念が重要であるとの認識は、今後も変わるものではありません。そのため、新たな総合福祉センターが、地域共生社会を充実するための総合的な福祉の拠点であるという理念を具体化し、地域に開かれた親しみやすい総合的な福祉の拠点となるよう、引き続き、利用者や関係団体等に御理解いただきながら、取り組んで参ります。</p>
全般	8	<p>第一 総合福祉センターは、調布市の社会福祉活動の中心であり、現在地は最も便利の良い場所であることから、移転には反対意見が多いと思います。今回のアンジェ跡への移転は、調布市の新しいへそづくりとなる街づくりです。しっかりとしたプランを作って移転を進めるべきです。このためには、総合福祉センター移転先に市役所出張所を併設して利便性を確保すべきです。</p> <p>第二 交通網を整備すること。現在の交通網は調布駅中心になっています。総合福祉センターの移転に伴い、健常者のみならず心身障害者、ボランティア等たくさんの人達が利用します。従って、交通の利便性確保が重要です。路線バス、ピストンバス、タクシーなど多面的に設置すべきです。</p> <p>第三 大規模の平場の駐車場を確保すること。現在のプランでは平場の駐車場が見当たりません。総合福祉センターが移転すれば現在地よりも自動車利用がたくさん増加します。また、災害時の避難場所にもなること、災害時は平常時よりも自動車の利用が増加します。そして、災害時には建物内やタワー式の駐車場は混乱したり停電等により使用不能になります。どうしても平場の大規模駐車場が必要です。</p> <p>第四 十分な自家発電電源を確保すること。建設予定のビルは高層ビルになると思います、ということはガスは利用できずに全面的に電気に依存すると思います。災害時には停電も想定しなければなりません。そして、このようなビルは機能がすべて停止してしまいます。心身障害者の避難所でもあり、災害時の医療施設にもなると思います、ましてや福祉の総本部でもあるので、通常の設計での予備電源では全く足りません。くれぐれもケチらないよう</p>	<p>「整備に関する考え方」では、移転・更新に当たっては、高齢者、障害者等の多様な利用状況を踏まえて、多面的な視点からアクセシビリティ（交通の利便性、利用しやすさ等）に配慮するとともに、ハード・ソフトの両面から、ユニバーサルデザイン・バリアフリーによる整備や必要な移動手段の確保等を検討することとしています。</p> <p>このことから、移動手段の確保に資する取組として、無料の巡回バスや事業の実施状況等に応じた無料の送迎サービスなどの移動手段を検討して参ります。</p> <p>また、地域共生社会の充実に向けたまちづくりの推進として、次期バリアフリー基本構想において、京王多摩川駅周辺地区を「重点整備地区」に位置付けて参ります。</p> <p>併せて、京王多摩川駅舎の利便性向上の取組として、ホームと車両の隙間対策やホームから施設までの移動の円滑化、設備のバリアフリー化等や競輪等イベント開催時の利用者の安全な動線確保について、事業者を含めて協議を重ねて参ります。</p> <p>総合福祉センターと市役所との連携につきましては、移転後も様々な手段を活用して、引き続き、緊密な連絡、相談体制を整備して参ります。そのひとつとして、新たな総合福祉センターでは、ICT等を活用したシステムの導入を検討することにより、調布駅周辺の福祉機能と連動した</p>

項目	No	御意見等の概要	市の考え方
		<p>にしてください。</p> <p>第五 セキュリティを万全にすること。今までの公共施設は開放型が多いですが、これからの公共施設はセキュリティを万全にすべきです。</p> <p>① 通信網のセキュリティを確保すること。これからは何時、どこからの攻撃で情報漏洩になるか分かりません。通信インフラの整備が重要です。建物内部の通信設備はもちろんのこと、市役所等との間は専用回線にすべきです。一般回線では裸の王様です。</p> <p>② 建物のセキュリティを確保すること。今回の構想をみると様々な施設が入居するようです。又夜間救急のように夜間対応の施設も入居します。つまり 24 時間対応の雑居ビルです。このようなビルの最大の弱点は、便利にするほど建物内が公衆道路と同じ状態になってしまい、セキュリティが困難になってしまうことです。設計段階から利便性を犠牲にしてもセキュリティを確保すべきです。</p> <p>第六 調布市役所、総合福祉センターの職員のみなさんは長年にわたり培ってきたノウハウがあるはずですが、コンサルタント任せにしないで、職員のみなさんのノウハウを十分に発揮して基本設計、実施設計を進めるべきです。そうしないと机上での考えばかりになってしまい使いづらいものになってしまいます。</p>	<p>相談機能の確保や市役所との連絡体制の確保を図って参ります。</p> <p>地震等による災害については、従来どおり要支援者の避難所としての機能を果たすとともに、新たな総合福祉センターに災害時に稼働可能な非常用電源設備を整備するなど、機能の向上を図り、要支援者の拠点となる避難所として活用します。</p> <p>また、利用者の安全・安心等を確保する観点から、ハード、ソフト両面からセキュリティの確保を図って参ります。</p> <p>新たな総合福祉センターの整備をはじめとして、京王多摩川駅周辺のまちづくりにおいては、地域共生社会の充実に向けた中長期的な観点から、事業者（京王電鉄）や関係者と協議・調整を推進して参ります。また、総合福祉センターは、市の福祉の中心施設のひとつであることから、施設の機能や設備等の検討や設計については、関係団体や利用者等の御意見を踏まえながら、市の公共施設として着実に整備して参ります。</p>
全般	9	<p>「総合福祉センターの整備に関する考え方」について意見を述べさせていただきます。日頃から調布市の福祉施策の在り方についてはその素晴らしさに感謝している者です。支援を必要としている方に寄り添い、声に耳を傾け、立場の違いを越えて支援機関が手をつなぐ。支援をすすめるためには新しい試みにも思い切って舵を切ってください。今までどれだけ他市に自慢してきたことでしょうか。今回のパブリックコメント募集も市民の声に耳を傾けてくださる調布らしさだあと、参加させていただくことにしました。今まで末席ながら支援のボランティアに関わった経験のあるものとして二つのお願いをしたいと思います。</p> <p>(1) 必要としている支援、必要としている環境や条件の多様性に一層のきめ細やかな配慮をしていただきたいということです。障害の状況を一つとっても、本当に困難さはお一人お一人違います。こちらの都合でひとくくりにすることが命にかかわることもあります。少なくとも現在の利用者さんからの聞き取りは全員に丁寧に行ってくださいますようお願いいたします。</p> <p>移転によって生じるリスクはどう補えるのか。そのことなしに移転は考えられないと思います。</p> <p>(2) 駅周辺に残す機能について、「残す」ではなく「立ち上げる」視点での長期的なプランを市民と共に実現していただきたいということです。</p> <p>支援活動に関わって実感することは本当に支援が必要な方ほど、つながることが難しいということです。生活困窮や心の悩みを抱える方は「支援を受けるためのエネルギーが失われている」からです。助けを求め、足を運んで相談する、手続きをする。このことがどれだけ大変なことかと思えます。だからこちらから近づかせていただくのが福祉だと思いますがやっと自分の足で来てみようかという段階になった方に、いかに「来やすく」「開放的な」「ついでもある」場所を提供できるかは、これも命にかかわる問題だと思います。でも、「支援のために最低限を保障する」では豊かなものにならないと思うのです。気の毒な人に必要なことをしてあげる、というようなどこか殺伐として景色が浮かんでしまいます。相談に来るなら、居場所にくるなら、他の人がうらやましがらうような素敵な場所がいい。いや、いろんな人と共有する文化的な豊かなスペース、そこに来ただけでうきうきするような場所がいい。</p> <p>グリーンホールを建て替える計画があるとうかがいました。ホールの上に居場所や相談窓口や会議室や展示室、学習室、ショップなど複合的な文化ビルはできないでしょうか。そのためには今までなかった機関同士の連携や長期的な計画 そのための一時移転先の確保</p>	<p>市としましては、今後、「整備に関する考え方」を踏まえて、「(仮称)新たな総合福祉センターの機能や設備に関する検討会」を開催し、新たな総合福祉センターの機能や設備、調布駅周辺の福祉機能などについて、より具体的な検討を進めて参りたいと考えております。</p> <p>併せて、この検討会とは別に、適宜、関係団体や利用者等と、新たな総合福祉センターの機能、設備等について、意見交換会を実施し、広くご意見を伺いたいと思っております。</p> <p>総合福祉センターの機能や設備等については、現行機能の維持を基本として、一部拡充も含め必要な床面積を確保するとともに、上下移動の少ないフロアに機能を集約し、必要な機能改善の検討等を行って参ります。こうした方向を踏まえて、障害者等に配慮した通路幅員の確保、駐車場や屋根のある車寄せの設置など基本機能の向上に資する機能の整備を検討して参ります。</p> <p>また、調布駅周辺の福祉機能については、調布駅周辺の公共・民間施設を活用することにより、安心して相談などができる相談機能をはじめとして、交流・居場所機能や福祉機能等について、確保することを検討して参ります。</p> <p>そのため、今後も、関係団体や利用者等の御意見を伺いながら、福祉サービスの実施状況や福祉施策を取り巻く社会状況等を勘案して、必要な施設機能を整備して参ります。</p>

項目	No	御意見等の概要	市の考え方
		<p>など、課題はたくさんあると思いますがもし、弱っている立場の人を真ん中にみんなで幸せになる街をめざすのであればよい機会なのでは、と思います。意見を述べさせていただける機会をいただけたことに心より感謝いたします。ありがとうございました。</p>	
全般	10	<p>常々お世話になっております。 総合福祉センター移転に伴いお願いを申し上げます。 ・市庁所在地の近くこともあり市役所、たづくりの駐車場も利用でき、市内在住者が集まり、また利用する際に現在の場所はとても便利でよかった。 ・京王多摩川駅は、エスカレーターがなく、ホームと電車との間があいている。洋式トイレがだれでもトイレだけであるなど駅構内について不安がある。 ・駅と総合福祉センターを直結できますでしょうか。障害者を連れて通うことがあるので雨に濡れないアクセスにしていただけると大変助かります。 ・障害児・者に関わる活動をしています。公共交通アクセスの良い調布駅付近に分室として社協の相談窓口、印刷室・団体室、障害者団体のロッカーなどを置いて欲しいです。 ・現在、障害者を連れて通う際に、たづくりの駐車場を利用しています。新しい場所は駐車場はどのように利用したら良いでしょうか。 ・現在のハザードマップでは水害の時に、京王多摩川は浸水危険地域で災害対策の拠点にならないのではと危惧しています。 ・総合福祉センターが主に身体障がいの方の避難所になると聞いています。移転したら失くなくなってしまうことがないようにお願いいたします。 ・調布市に相談事業所少ないため新しい総合福祉センターに相談事業所、スタッフが増設増員されることを望みます。 思い付くままに書き連ね乱文にて失礼しました。 新しい施設が、よりよい総合福祉センターとなりますように期待しています。 以上、よろしく願いいたします。</p>	<p>総合福祉センターは、建設から38年余が経過していることから、施設及び設備の経年劣化やセンター機能の改善への対応が喫緊の課題となっています。また、調布駅前広場の整備と連動して、地区計画で施設の南側に接する区画道路の拡幅整備や壁面後退に対応していくことを定めており、現在の施設機能の維持は困難となります。</p> <p>現在、総合福祉センターでは、高齢者や障害者等への福祉サービス等を行っていることから施設整備の検討に当たっては、それらのサービスの継続的な提供が不可欠となります。</p> <p>こうした課題に加えて、調布駅周辺においては、建替えの期間中に移転する仮設施設を整備するための用地確保が困難な状況であることや、仮設施設の整備については、整備コストの増加につながることに留意する必要があります。</p> <p>こうしたことから、総合福祉センターを現敷地で維持していくことは困難と考えており、施設の移転更新が必要となっております。</p> <p>「整備に関する考え方」では、移転・更新に当たっては、高齢者、障害者等の多様な利用状況を踏まえて、多面的な視点からアクセシビリティ（交通の利便性、利用しやすさ等）に配慮するとともに、ハード・ソフトの両面から、ユニバーサルデザイン・バリアフリーによる整備や必要な移動手段の確保等を検討することとしています。</p> <p>このことから、移動手段の確保に資する取組として、無料の巡回バスや事業の実施状況等に応じた無料の送迎サービスなどの移動手段を検討して参ります。</p> <p>また、地域共生社会の充実に向けたまちづくりの推進として、次期バリアフリー基本構想において、京王多摩川駅周辺地区を「重点整備地区」に位置付けて参ります。</p> <p>併せて、京王多摩川駅舎の利便性向上の取組として、ホームと車両の隙間対策やホームから施設までの移動の円滑化、設備のバリアフリー化等や競輪等イベント開催時の利用者の安全な動線確保について、事業者を含めて協議を重ねて参ります。</p> <p>災害対応としては、台風等による被害のおそれが想定される場合には、風雨の影響等を総合的に考慮して、あらかじめ総合福祉センターの利用を一時的に休館し、通所等を行わないよう措置を講じます。</p> <p>また、施設の階の高さについて、浸水高を考慮した5m以上とするとともに、主要な設備等を2階以上に配置することにより、風水害時の被災を低減し、施設の早期復旧を目指します。なお、大規模水害等により、早期復旧に時間を要する場合には、他の施設での臨時的・代替的なサービスの提供が行えるよう調整を図ります。</p> <p>福祉避難所の対応としては、風水害時は福祉避難所に指定された各公共施設等で要支援者の避難対応を行うこととなります。令和元年の台風第19号の事例では、現総合福祉センターに避難された方がおられたことを踏まえ、調布駅近隣の文化会館たづくり1階に要配慮者スペースを確保し、開設・運営においては、避難所担当職員を中心とした人員配置に</p>

項目	No	御意見等の概要	市の考え方
			<p>より対応して参ります。</p> <p>風水害時における発災前から発災後までの段階ごとの課題分析を踏まえ、今後も引き続き、新たな総合福祉センター機能の確保等を検討して参ります。</p> <p>総合福祉センターの機能や設備等については、現行機能の維持を基本として、一部拡充も含め必要な床面積を確保するとともに、上下移動の少ないフロアに機能を集約し、必要な機能改善の検討等を行って参ります。こうした方向を踏まえて、障害者等に配慮した通路幅員の確保、駐車場や屋根のある車寄せの設置など基本機能の向上に資する機能の整備を検討して参ります。</p> <p>また、調布駅周辺の福祉機能については、調布駅周辺の公共・民間施設を活用することにより、安心して相談などができる相談機能をはじめとして、交流・居場所機能や福祉機能等について、確保することを検討して参ります。</p> <p>そのため、今後も、関係団体や利用者等の御意見を伺いながら、福祉サービスの実施状況や福祉施策を取り巻く社会状況等を勘案して、必要な施設機能を整備して参ります。</p>
全般	11	<p>現在の総合福祉センターが、調布駅の近くにあることで、様々なハンデを持つ人や一般の市民が利用しやすいということは明白です。</p> <p>1ですから、その地の利を今後も生かすため、グリーンホールと総合福祉センターの両方を統合して、現在の位置に残して立て直す案も検討してください。</p> <p>2もし、それが不可能な場合、移転する機能と残す機能に分ける案を出してください。現在の調布駅の近くに残していただきたいのは、2つです。</p> <p>1つめは、困った時に相談できる総合相談窓口です。</p> <p>困ったことがある人は生活に余裕がなく、あえて遠くまで行く時間も気力もありません。でも、駅の近くなら、思いついた時にすぐ立ち寄れます。そこで、グリーンホールの建て替えのプランの中に、福祉的な窓口を組み込んでください。</p> <p>2つめは、生活困窮世帯の子どもたちが利用する学習支援の教室です。</p> <p>調布駅から離れた場所に移すことで、利用が必要な子どもたちが、そこに行くことをあきらめてしまうことが心配です。勉強が苦手な子どもたちは、それまでの経験から勉強することが嫌になっています。</p> <p>そういう子どもたちほど、実は、眠っている能力があります。そういう子どもたちの可能性を十分に伸ばすためには、「そんな遠いところめんどくさい」と思うことなくとあえず、一度行ってみてもいいという気持ちになってもらうことが大事だと思います。そのために、通いやすい現在の場所とほぼ同じところにそれを残してください。</p> <p>調布のすべての子どもたちが幸せになれるようにすることはおとなの責任だと思います。</p> <p>その第一歩が、お金がないために、勉強ができなくなり将来の道が閉ざされないようにすることです。調布から離れた場所に移すことで、その政策からこぼれおちてしまう子どもたちを出さないでください。</p> <p>3さらにお願したいことは、現在、総合福祉センターを利用している障害のある人や高齢者などすべての人のために、安全で無料の交通手段を確保していただきたいということです。送迎システム、交通費をかけずに利用できるパスのようなもの、そして駅のホームから安全に移動できる通路などすべての可能性を追求してください。</p>	<p>総合福祉センターは、建設から38年余が経過していることから、施設及び設備の経年劣化やセンター機能の改善への対応が喫緊の課題となっています。また、調布駅前広場の整備と連動して、地区計画で施設の南側に接する区画道路の拡幅整備や壁面後退に対応していくことを定めており、現在の施設機能の維持は困難となります。</p> <p>現在、総合福祉センターでは、高齢者や障害者等への福祉サービス等を行っていることから施設整備の検討に当たっては、それらのサービスの継続的な提供が不可欠となります。</p> <p>こうした課題に加えて、調布駅周辺においては、建替えの期間中に移転する仮施設を整備するための用地確保が困難な状況であることや、仮施設の整備については、整備コストの増加につながることに留意する必要があります。</p> <p>こうしたことから、総合福祉センターを現敷地で維持していくことは困難と考えており、施設の移転更新が必要となっております。</p> <p>「整備に関する考え方」では、移転・更新に当たっては、高齢者、障害者等の多様な利用状況を踏まえて、多面的な視点からアクセシビリティ（交通の利便性、利用しやすさ等）に配慮するとともに、ハード・ソフトの両面から、ユニバーサルデザイン・バリアフリーによる整備や必要な移動手段の確保等を検討することとしています。</p> <p>このことから、移動手段の確保に資する取組として、無料の巡回バスや事業の実施状況等に応じた無料の送迎サービスなどの移動手段を検討して参ります。</p> <p>また、地域共生社会の充実に向けたまちづくりの推進として、次期バリアフリー基本構想において、京王多摩川駅周辺地区を「重点整備地区」に位置付けて参ります。</p> <p>併せて、京王多摩川駅舎の利便性向上の取組として、ホームと車両の隙間対策やホームから施設までの移動の円滑化、設備のバリアフリー化等や競輪等イベント開催時の利用者の安全な動線確保について、事業者</p>

項目	No	御意見等の概要	市の考え方
			<p>を含めて協議を重ねて参ります。</p> <p>総合福祉センターの機能や設備等については、現行機能の維持を基本として、一部拡充も含め必要な床面積を確保するとともに、上下移動の少ないフロアーに機能を集約し、必要な機能改善の検討等を行って参ります。こうした方向を踏まえて、障害者等に配慮した通路幅員の確保、駐車場や屋根のある車寄せの設置など基本機能の向上に資する機能の整備を検討して参ります。</p> <p>また、調布駅周辺の福祉機能については、調布駅周辺の公共・民間施設を活用することにより、安心して相談などができる相談機能をはじめとして、交流・居場所機能や福祉機能等について、確保することを検討して参ります。</p> <p>そのため、今後も、関係団体や利用者等の御意見を伺いながら、福祉サービスの実施状況や福祉施策を取り巻く社会状況等を勘案して、必要な施設機能を整備して参ります。</p>
全般	12	<p>意見：●●職員（市内、歴史的にも古く、高齢者、障害者施設（以前は、小学校分室であった→これからも児童増加傾向にある調布市なのに・・・移転あり、障害者人口の増加と平行して高齢者が増加しており、特に関与してくると予測される包括センター）より、京王多摩川駅への移転には別途、深大寺北町、東町、南町付近への利便性の何らかの別途案が望ましい。災害等、又、建設上の設計、完成までのコストを考えると、もっと安全な場所があるのではないかと。柏野小学校付近、佐須町、東町8丁目のゴミ処理場移転あとのあき地等、より安全で、低コストでのもう1つのコンパクトシティも可能なのではないかと。</p> <p>京王電鉄（株）の1社集中ではなく、入札はどうなっているのでしょうか。</p> <p>移転による市内データ処理における事故が多発している。充分、管理、検討を望みたい。</p> <p>建物の移転というハード面だけでなく、重要な事務処理の問題、個人情報も含め改善が同時に必要な問題もあるようだ。これを機会に検討されたい。</p> <p>※東京都でも地域センターという取組みで新しい構想を発表しているが整合性はどうかののでしょうか。</p> <p>アフターコロナとして新領域での医療、福祉、QOL、医療・・・福祉従事者の質の向上、研修場所等の充実項目も、今後、素案としてのソフト面で課題。2025、2030、2035、2040・・・等計画していく必要もあると思う。－以上－</p>	<p>施設機能の移転先候補については、利用者の利便性の確保や継続的な福祉サービスを提供することを前提として、これまで、市内の民有地、公有地について様々な可能性を模索して参りました。</p> <p>施設機能の移転先候補の検討に当たっては、交通アクセスとして最寄りの駅やバス停、市役所からの距離をはじめ、センター機能の移転や周辺福祉施設機能の移転に必要な床面積の確保、土地や事業床の保有形態、早期の機能移転先としての可能性等など複数の視点から検討を行って参りました。</p> <p>その結果、これまで、令和元年11月に京王電鉄から市にまちづくり提案のあった京王多摩川駅周辺地区における駅前複合拠点地区を最有力候補として検討を進めて参りました。これにより、当該地区への移転に向けた取組を進めることを「整備に関する考え方」の基本的な方向としてとりまとめたものです。</p>
全般	13	<p>説明会に参加してお話を聞くつもりでいたのですが、叶わなかったためメールで失礼いたします。よろしくお願ひいたします。</p> <p>まず、基本的に京王多摩川への移転には反対です。一昨年の台風19号の到来により近年の災害の異常化がはっきりとした今、障害者・高齢者・子供のような弱者が集まり、福祉避難所にしやすい施設をなぜわざわざ浸水想定区域に移転しようという考えになるのか理解し難いです。</p> <p>例えば垂直避難ができて、その後水が引くまで、引いた後どうするつもりなのでしょう。基礎疾患や医療ケアが必要な障害者や高齢者が取り残されたらどうするのでしょうか。避難をさせるにも人手が必要で大変なことです。</p> <p>また、福祉センターは災害時のボランティア活動の拠点となる場であるべきなのに、多摩川の氾濫が起こった場合は真っ先にそこが被害に遭うのはいかなるのでしょうか。水害に高い可能性が高い場所に移転すべきではないと考えます。</p> <p>今の福祉センターは、この立地だからこそ福祉ボランティアや事業協力者が集まりやすくな</p>	<p>「整備に関する考え方」では、移転・更新に当たっては、高齢者、障害者等の多様な利用状況を踏まえて、多面的な視点からアクセシビリティ（交通の利便性、利用しやすさ等）に配慮するとともに、ハード・ソフトの両面から、ユニバーサルデザイン・バリアフリーによる整備や必要な移動手段の確保等を検討することとしています。</p> <p>このことから、移動手段の確保に資する取組として、無料の巡回バスや事業の実施状況等に応じた無料の送迎サービスなどの移動手段を検討して参ります。</p> <p>また、地域共生社会の充実に向けたまちづくりの推進として、次期バリアフリー基本構想において、京王多摩川駅周辺地区を「重点整備地区」に位置付けて参ります。</p> <p>併せて、京王多摩川駅舎の利便性向上の取組として、ホームと車両の隙間対策やホームから施設までの移動の円滑化、設備のバリアフリー化等や競輪等イベント開催時の利用者の安全な動線確保について、事業者</p>

項目	No	御意見等の概要	市の考え方
		<p>っているのではないかと考えます。京王多摩川に移転した場合は多くの人の目に触れる身近な施設ではなく、またアクセスの悪さを敬遠して、今と同じように施設に人が出入りし、協力者が集まるとは考えづらいです。結局は人が集まらない分をお金で解決しなければならず、市の支出が増えるようになるのではないのでしょうか。協力者が多くいることでお金のかからない福祉が可能になるのではないかと思います。</p> <p>例えば小さなことだと、市内特別支援学校から協力の放課後デイサービスに連れて行くためのボランティアを「福祉の窓」で募集していますが、移転した場合はどのようにするのでしょうか。今は近所の方がボランティアとして一緒に歩いて連れて来ることが可能になっていますが、わざわざ電車に乗って連れて行くボランティアを集めることができるのでしょうか。そうした小さな人手は馬鹿にできないことです。</p> <p>市の中央部に位置するからこそ、リタイヤした人や時間的余裕のあるご近所さんの協力者が多く集まっているのだと思います。それが活発な市民活動になり、福祉センターに集まって活動したり、会議を開いたりということに繋がっています。せっかく長い時間をかけて築いてきたそうした活動が変容する可能性を危惧しています。</p> <p>私自身社協事業の協力者ですが、今のアクセスの良さがあるからこそ福祉センターに足を運ぶことも多く、社協職員との連携が取りやすく、また他の福祉活動にも参加できています。同じ場所での建て替えが困難なことは承知していますが、今よりも少し駅から離れてでも調布駅周辺での移転はできないものでしょうか。</p> <p>京王多摩川駅の危険さや不便さについては他の方からも意見が出ていると思うので割愛しますが、仮にアクセスの悪さを送迎バスで補うとした場合、今までかからなかったところに支出が生じます。すでに試算をされているかも知れませんが、そうした支出は長期的に見るとかなりの金額になるのではないのでしょうか。</p> <p>私は10年前に調布市に越してくる前は近隣の市におりました。その市では福祉施設が市内に点在していて、発達障害の息子を連れてすいぶんと不便な場所にある療育施設を訪れた時、知的・発達障害に対して素人の私ですら施設職員の福祉・障害に対する考え方が数十年遅れているのではないと思うくらいに古いものであったことに衝撃を受けました。障害を持つ子の親の集まりはないかと施設職員に尋ねただけなのに、血相を変えて「お母さん、皆さんがそういう考えを持っている訳ではないのでそんなことは言わないで下さい」と言われました。また臨床心理士さんも心ない言葉をさらっと吐くような方でした。療育の内容も幼稚園でやることと変わらず、通所はやめました。</p> <p>調布市に越してきた理由は、特別支援学級の様子が全く違って、子どもの顔が生き生きしていたからです。引っ越してきたらしっかりとした親の会が存在することを知り、市との話し合いが多く持たれていて、障害を持つ子どもへの福祉が全く違っていました。市民活動の活発さにも感銘を受けましたが、これも主要な施設が駅近くに集まっているからなのだと感じました。</p> <p>また、まだ越して来る前に一度調布市保健センターに来たことがあり、息子の様子を少し見ただけの職員が「発達検査は受けていますか?」と声をかけて下さいました。その時は市の発達検査の順番待ちで半年待たされていた時だったのですが、職員の意図の高さに驚きました。離れ小島のような施設は風通しが悪くなります。最初はわからなくても、5年10年と経つうちに違ってくるでしょう。</p> <p>市役所、教育会館、文化施設に近く、人の出入りや交流・情報交換が多いにぎやかな施設であるからこそ風通しがよく、考え方も柔軟で新しいものになるのだと思います。また、障害者や福祉活動が道行く人の目に触れるからこそ無意識的に根付いているものがあるならば、遠</p>	<p>を含めて協議を重ねて参ります。</p> <p>災害対応としては、台風等による被害のおそれが想定される場合には、風雨の影響等を総合的に考慮して、あらかじめ総合福祉センターの利用を一時的に休館し、通所等を行わないよう措置を講じます。</p> <p>また、施設の階の高さについて、浸水高を考慮した5m以上とするとともに、主要な設備等を2階以上に配置することにより、風水害時の被災を低減し、施設の早期復旧を目指します。なお、大規模水害等により、早期復旧に時間を要する場合には、他の施設での臨時的・代替的なサービスの提供が行えるよう調整を図ります。</p> <p>福祉避難所の対応としては、風水害時は福祉避難所に指定された各公共施設等で要支援者の避難対応を行うこととなります。令和元年の台風第19号の事例では、現総合福祉センターに避難された方がおられたことを踏まえ、調布駅近傍の文化会館たづくり1階に要配慮者スペースを確保し、開設・運営においては、避難所担当職員を中心とした人員配置により対応して参ります。</p> <p>風水害時のボランティア機能についても、発災前から発災後までの段階ごとの課題分析を踏まえ、今後も引き続き、新たな総合福祉センター機能の確保等を検討して参ります。</p> <p>市は、これまで多世代や多様な主体が交流する機会を通じて、市民の福祉に対する理解をより深めていくという、地域共生社会の考え方にも通じる理念の下、総合福祉センターを運営して参りました。今後、総合福祉センターの移転・更新を進めるうえでも、こうした基本理念が重要であるとの認識は、今後も変わるものではありません。そのため、新たな総合福祉センターが、地域共生社会を充実するための総合的な福祉の拠点であるという理念を具体化し、地域に開かれた親しみやすい総合的な福祉の拠点となるよう、引き続き、利用者や関係団体等に御理解いただきながら、取り組んで参ります。</p>

項目	No	御意見等の概要	市の考え方
		い場所への移転は調布市全体の福祉と市民の意識を後退させてしまうものだと考えます。以上です。	
全般	14	<p>はじめに： パブリックコメントの意見の概要を作成するにあたって、提出者の意見の趣旨を曲げられることがあるので、無断で要約しないこと。要約する必要がある場合は、必ず意見提出者の了解を得ること。なお、要約不要になるように簡潔に記載したつもりである。</p> <p>意見： ●福祉計画の中に位置づけられた「総合福祉センターの整備」になってないことが、根本的な疑問である。実態は、道路やグリーンセンターの建て替えのための移転で、福祉計画が歪められてないか？ ●いいかえると「移転ありき」で始まっていることに問題がある。そっくりそのまま移転するのが一番よいのか、それとも調布駅前に残す(置く)ものが何か、分離されることのメリット・デメリットが何か検討されてない。 ●調布市役所その他との距離はどのように影響するか？ ●巨額の費用ないしは賃借料が維持費とし必要と思われるし、需要(ニーズ)も明らかにされておらず、具体的な根拠やデータがなく、また、比較検討すべき複数案なく、この一つの案しかないと誘導している極めて恣意的で杜撰な計画に見える。 ●他の計画(例えば区画道路)を前提にして、意図的に移転に追い込んでいる計画である。総合福祉センターを現在位置でリニューアルすることを前提として、逆に与条件を疑い、変更することも考えるべきである。 ●道路拡幅のために福祉施設が移転させられるということは、「時代錯規」である。 ●8名の委員の方が3回の検討会で議論されているが、市の案にご意見を述べるものであり、根本的な住民参加、特に関係者(利用者、職員等)の参加による計画立案になってないのではないか？移転計画を知らない利用者が少なからずいると聞く。 ●需要を具体的に示すこと 総合福祉センター利用者や職員、ボランティアなど関係者はそれぞれ何人か？どのような活動をしているか？関係場所とのつながりを示すこと。 ●総合福祉センターの現在と計画案で何が違ってくるかを示して、利用者の意見を聴くこと。 ●財政負担について 過去5年間とこの移転計画に伴う費用、その後の維持管理費用を示すこと ●P.13 サービス提供の必要性(休館可否)について、極論をいうと、仮移転場所として、計画案の京王多摩川駅前を選び、どの程度便利か、不便か、(社会)実験すれば、どちらがよいかわかる。 ●この計画の背景には、福祉サービス充実よりも、調布駅前再開発や京王多摩川駅前(再)開発によって利益を得る人たちの力が働いているのではないか？ ●P.10「②公共施設の老朽化 市では、高度経済成長期から昭和50年代にかけて多くの公共施設を整備しており、これらの施設は建設から30年以上経過しており、延床面積では全体の約6割を占める」とあるが、それらの公共施設が何と何で、それぞれについて何をしなければいけないのか、そのためにどれくらいの時間や費用がかかるのか、それらの優先度(重要度、緊急度、費用など)を示し、その中で、総合福祉センターの優先度がどの程度かを明らかにすること。 ●P.10「③公共施設の改修・更新費 平成29年度以降の30年間における改修・更新費を推計すると約1465億円、1年当たりの平均では約49億円となり、平成25年度から平成27年度までの過去3年間における改修費の実績の平均である約27億円の約1.8倍が必要となることを見込んでいる」とあるが、この総合福祉センター移転が実現すれば、その数字がど</p>	<p>市役所と離れることによる影響については、ICT活用などにより、現状と同等の連携を図っていきたいと考えています。</p> <p>移転後の費用負担については、現在、開発事業者である京王電鉄株式会社と協議しているところですが、市は、事業床について建設費用を負担し、取得する方向で検討しています。今後、賃借した場合のコスト試算も行い、市の財政負担を縮減する方向で、協議を進めていきたいと考えています。</p> <p>現地で建替える場合は、地区計画で定められた区画道路2号及び道路境界線からの壁面後退への対応が必要となるため、事業内容を精査し、機能を見直すことにより建物規模を縮小するといった現地における建替えを検討するとともに、移転についても、その移転候補地について多角的に検討していたところ、京王電鉄株式会社より京王多摩川の「まちづくり提案」があったことから、総合福祉センターの整備に関する検討会において、その他の移転候補地(国領地区、多摩川住宅地区)とともに、移転先として検討を行い、京王多摩川駅周辺への移転に向けた取組を進める方向で整備に関する考え方(素案)としてとりまとめたところです。</p> <p>今回の移転計画に伴う費用、その後の維持管理費用については、今後、基本設計を行いながら、その費用について、京王電鉄株式会社と協議していく予定としています。</p> <p>継続的なサービス提供の必要性から、休館については、市として不可であると考えています。</p> <p>本計画は、総合福祉センター機能を今後どのように維持していくか、が背景となっています。</p> <p>公共施設の老朽化対応については、調布市公共施設見直し方針において、各施設ごとの建設年次を示すとともに、見直しの方向性についても記載しています。</p> <p>今後における改修・更新費については、策定予定の(仮称)公共施設マネジメント計画において示していきたいと考えています。</p> <p>駅の整備に関しては、京王電鉄株式会社の所有物であり、市が改修日程を定めることはできませんが、安全性を確保するためにも、事業者に強く要請していきたいと考えています。</p> <p>また、現行の総合福祉センターの延べ床面積は5,740㎡です。現行機能の維持を基本として、機能面で必要な床面積は確保しつつ、共用部分の効率的な配置により床面積全体の抑制を検討しながら、併行して必要な機能改善を検討します。</p> <p>最適手法とは、現状の市民サービス水準を維持しながらも、財政負担の縮減が図れる手法について想定しています。財政負担の縮減効果については、選択する手法によって変化するものとしてとらえています。</p> <p>負担の平準化については財政負担を想定しています。ある年度だけ突出して財政負担が大きくなることは市政運営に多大な影響が生じることから平準化が必要であると考えています。</p> <p>サービスについては、現状、総合福祉センターにおいて提供している福祉サービスのことを想定しており、専用駐車場・専用駐輪場の整備や</p>

項目	No	御意見等の概要	市の考え方
		<p>のように変わるか示すこと。示さなければ、「大変だ大変だ」と煽っているだけである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ターミナル駅である調布駅前のほうが、相模原線のローカル駅よりも交通の便がよい。変更によって、サービスが低下する。 ●検討会で京王多摩川駅の改修等(ホームドア設置など)が指摘されている。リスク評価をすること(死亡事故もありうるようだが)。 <p>必要な改修日程を計画に加えること</p> <ul style="list-style-type: none"> ●バリアフリーの観点から、乗り換えの(少)ない調布駅前のほうがよい。 ●P17 各機能について、現行の床面積、必要な床面積、計画の床面積の数値を示すこと。ないとしたら、杜撰な計画である。 ●P.17「※交流・居場所機能や福祉機能等の一部について、調布駅周辺に確保することを検討」とあるが、具体的にどの機能で現在はどこにどの程度の広さや人員で確保されているのか? また、調布駅周辺のどこに確保することを検討しているのか? ●P19 多摩川の「汜濫原」に高齢者等の施設を設置することは問題である。 ●P24「整備及び管理運営については、移転先候補の敷地条件等に基づく効果的・効率的な施設機能の整備、維持管理が可能な最適手法による財政負担の縮減、負担の平準化について、様々なシミュレーションを行う中で、総合管理計画の基本方針等に基づく、民間の技術、ノウハウ、資金等を活用した最適な PPP(公民連携)手法を検討し効果的な活用を行うことで、整備及び管理運営等に関するサービス向上やコスト縮減を図る。」について。 <p>これは市民をけむに巻くような文章である。その中身を具体的に説明されたい。例えば、</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆「維持管理が可能な最適手法による財政負担の縮減」とあるが、最適手法とはどういうものか具体的に示すこと。どの程度の財政負担の縮減(いくらからいくら程度)を見込んでいるのか。 ◆「負担の平準化について」とは、負担の中身は、何で、誰が負担しているのか、何・誰を平準化するのか?平準化する目的は何か? ◆「整備及び管理運営等に関するサービス向上」を図るとあるが、どのようなサービスの現状をどのように向上するのか示すこと。 ◆「コスト縮減を図る。」とあるが、どのコストで、現在いくらで、どのようにしてどの程度の金額を縮減する見込みか示されたい。 <p>以上</p>	<p>上下移動を減らしたフロア構成とすることによる施設のバリアフリー化の推進及び機能の連携強化などを想定しています。コスト縮減効果については、その費用負担について、現在、開発事業者である京王電鉄株式会社と協議しているところですが、市の財政負担を少しでも縮減する方向で、協議を進めていきたいと考えています。</p>
全般	15	<p>先日は市民との意見交換の機会の設定ありがとうございます。利用者の方や市民の多様な声を聞くことができ、大変有意義でした。こうして、障害のある方や利用者の方と直接話し合える時間はとても貴重だと思いました。さらに、子どもなどの当事者の声も聞きたかったです。もっとこうした多様な人々の話し合いの機会が持たれても良いのではないのでしょうか。みなさんのご意見を聞いていて、総合福祉センターの存在がセンターを利用する人にとっても、直接にセンターとかわりのない方にも市民にとって、福祉のセンターが市の中心にあることに大きな意味を感じていること</p> <p>また、調布市民としての大きな誇りになっていたことを再確認しました。実質的な共生社会をつくり上げていくには、社会生活を不便に過ごしている人の利用施設ほど、最も立地条件の良いところにもってくるべきだと思っています。</p> <p>先日の説明を聞いてみると、京王多摩川駅の改良も実現できるかわからない浸水が予想されている場所で、センター利用者が避難していく場所にはできない障害のある方や子供たちほど、普段なじんでいる施設への避難が必要とされるでしょう。土日の京王閘開催時は、人出が多くなり、利用者の安全が心配される。と多々問題点が指摘</p>	<p>「整備に関する考え方」では、移転・更新に当たっては、高齢者、障害者等の多様な利用状況を踏まえて、多面的な視点からアクセシビリティ(交通の利便性、利用しやすさ等)に配慮するとともに、ハード・ソフトの両面から、ユニバーサルデザイン・バリアフリーによる整備や必要な移動手段の確保等を検討することとしています。</p> <p>このことから、移動手段の確保に資する取組として、無料の巡回バスや事業の実施状況等に応じた無料の送迎サービスなどの移動手段を検討して参ります。</p> <p>また、地域共生社会の充実に向けたまちづくりの推進として、次期バリアフリー基本構想において、京王多摩川駅周辺地区を「重点整備地区」に位置付けて参ります。</p> <p>併せて、京王多摩川駅舎の利便性向上の取組として、ホームと車両の隙間対策やホームから施設までの移動の円滑化、設備のバリアフリー化等や競輪等イベント開催時の利用者の安全な動線確保について、事業者を含めて協議を重ねて参ります。</p>

項目	No	御意見等の概要	市の考え方
		<p>されました。</p> <p>最も危惧するのは、京王電鉄の意図は見えても、調布市行政がどのような福祉センターを創造しようとしているのか福祉に対する積極的な姿勢が見えず、官民連携というより民間に依存という関係性が見えることです。これでは、ただの箱モノになってしまうという危機感を持ちます。庁内横断的に福祉にかかわる体制をつくることを考えるとセンターが市役所の近くにあることは必然ではないでしょうか。</p> <p>利用者、市民、住民と協議しながら、専門家のアドバイスも受け市が主導でセンターの役割とよりよい施設への取り組みを進めてほしいです。検討会では、利用者と住民（市民）とのかわりが持てるような施設の在り方を望む声が出ました。</p> <p>互いが自然に触れ合えるための施設の在り方こそ、共生社会への一歩です。</p> <p>ばらばらにあるのではなく、接点を持てる施設の在り方です。ハード、ソフト両面においてになるでしょう。利用者や市民の声をていねいに拾い上げていけば、市民の求めるセンターの姿が見えてくると思います。無理な注文と思わず、専門家の助言も受けながら、ていねいに作り上げてほしいです。</p> <p>総合福祉センターはそれだけ市民にとって大切な施設です。調布市の将来像にも大きく影響すると思います。</p>	<p>災害対応としては、台風等による被害のおそれが想定される場合には、風雨の影響等を総合的に考慮して、あらかじめ総合福祉センターの利用を一時的に休館し、通所等を行わないよう措置を講じます。</p> <p>また、施設の階の高さについて、浸水高を考慮した5m以上とするとともに、主要な設備等を2階以上に配置することにより、風水害時の被災を低減し、施設の早期復旧を目指します。なお、大規模水害等により、早期復旧に時間を要する場合には、他の施設での臨時的・代替的なサービスの提供が行えるよう調整を図ります。</p> <p>福祉避難所の対応としては、風水害時は福祉避難所に指定された各公共施設等で要支援者の避難対応を行うこととなります。令和元年の台風第19号の事例では、現総合福祉センターに避難された方がおられたことを踏まえ、調布駅近隣の文化会館たづくり1階に要配慮者スペースを確保し、開設・運営においては、避難所担当職員を中心とした人員配置により対応して参ります。</p> <p>風水害時における発災前から発災後までの段階ごとの課題分析を踏まえ、今後引き続き、新たな総合福祉センター機能の確保等を検討して参ります。</p> <p>新たな総合福祉センターの整備をはじめとして、京王多摩川駅周辺のまちづくりにおいては、地域共生社会の充実に向けた中長期的な観点から、事業者（京王電鉄）や関係者と協議・調整を推進して参ります。</p> <p>市は、これまでも多世代や多様な主体が交流する機会を通じて、市民の福祉に対する理解をより深めていくという、地域共生社会の考え方にも通じる理念の下、総合福祉センターを運営して参りました。今後、総合福祉センターの移転・更新を進めるうえでも、こうした基本理念が重要であるとの認識は、今後も変わるものではありません。そのため、新たな総合福祉センターが、地域共生社会を充実するための総合的な福祉の拠点であるという理念を具体化し、地域に開かれた親しみやすい総合的な福祉の拠点となるよう、引き続き、利用者や関係団体等に御理解いただきながら、取り組んで参ります。</p>
全般	16	<p>現在の福祉センターはターミナル駅の至近にあり、多くの市民が車椅子使用者であったり、白杖の使用者であったり、市民(買い物をする市民、広場に散歩に来た園児等)が当たり前障害者を目にしてきました。</p> <p>目に触れやすい肢体不自由者等に接することで、外見上目につきにくい聴覚障害者、内部障害者への理解も進んでいるのではないのでしょうか</p> <p>また、市役所前広場で師走に行われるイベントも気軽に市民が集え、障害者と触れ合える有効なイベントと理解していました。</p> <p>これは、インクルーシブの考え方にマッチしていると考えます。</p> <p>この度、京王電鉄株の提案を受け、京王多摩川に新たな市の施設を組み込み、新施設に総合福祉センターを移転させるとのこと。</p> <p>以下の理由により反対します。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 人流が調布駅と雲泥の差がある。(市民に障害者の実態が見えなくなる。) ② 京王多摩川駅のホームドア・トイレ等の整備が全くなされていない。 ③ 新施設の利用者は調布から京王多摩川までの往復の交通費の負担増になる。 	<p>「整備に関する考え方」では、移転・更新に当たっては、高齢者、障害者等の多様な利用状況を踏まえて、多面的な視点からアクセシビリティ（交通の利便性、利用しやすさ等）に配慮するとともに、ハード・ソフトの両面から、ユニバーサルデザイン・バリアフリーによる整備や必要な移動手段の確保等を検討することとしています。</p> <p>このことから、移動手段の確保に資する取組として、無料の巡回バスや事業の実施状況等に応じた無料の送迎サービスなどの移動手段を検討して参ります。</p> <p>また、地域共生社会の充実に向けたまちづくりの推進として、次期バリアフリー基本構想において、京王多摩川駅周辺地区を「重点整備地区」に位置付けて参ります。</p> <p>併せて、京王多摩川駅舎の利便性向上の取組として、ホームと車両の隙間対策やホームから施設までの移動の円滑化、設備のバリアフリー化等や競輪等イベント開催時の利用者の安全な動線確保について、事業者を含めて協議を重ねて参ります。</p> <p>京王多摩川駅周辺のまちづくりの方向（案）としては、新たな総合福祉</p>

項目	No	御意見等の概要	市の考え方
		<p>④ 交通インフラも当該区間は未発達で、調布から京王多摩川は電車もしくはタクシー利用を余儀なくされる。(荒天時等)行動弱者にとって、福祉関連施設はターミナル至近が必須 その意味からも、京王線・京王バス・小田急バス利用者は現施設が利用しやすい。</p> <p>⑤ 20時以降の上りの橋本線の本数が少なく、特に冬季間の利用は一部障害者にとっては、ホーム等で長い時間待つこととなり、厳しいものとなる。</p> <p>⑥ 市民の福祉に関する生涯学習も不便になる。 (現施設の201～203の稼働率は高いと思われる。)</p> <p>⑦ 周辺が住宅地のため、照明が少なく、講習会・サークル等に中高生が通う場合等安全担保しづらい。 (夜間の調布駅周辺と京王多摩川周辺の照度は比較にならない。)</p> <p>⑧ 調布駅からダイエーススタジオ・南高を経由して車いすで移動する場合、歩道が狭く、所により段差・傾斜もあり、目的地を往復するには適さない。(歩道の整備不良)蛇足ながら、南高前の坂は電動車いすの場合、バッテリーも結構使うと思われる。</p> <p><私案></p> <p>① 調布駅周辺の一体整備 クリーンホールの老朽化を踏まえ、パルコと同程度の高さ(景観を考慮)の複合ビルを建設 ⇒ 総合福祉センターも取り込む。</p> <p>② 京王電鉄(株)提案の施設には、たづくりの中の稼働率の悪い施設を移転させる。(映像資料室等)</p> <p>③ 生涯学習の機能は市民が集結しやすいよう、たづくりの施設を低廉で団体に貸し出す。</p> <p>④ 京王多摩川に教育会館の機能を移転させる。(そこに社協の機能を移す。)</p> <p>⑤ 京王多摩川に、こころの健康支援センターを移設し、その後を仮の福祉センターとする。</p> <p><後書き></p> <p>民間からの提案に真摯に取り組むことは、官民協働の意味でもとても良いと思います。しかし、民間の提案をすべて容認するのではなく、市の現状を横断的に分析することが大切ではないでしょうか</p> <p>私はたづくりを利用したとき、時々最上階まで行き、景色をながめ、帰りは各階を見ながら階段を下ります。そこで感じるのは、あまりにも人がいない。(利用されていない?資料置き場と化している?)</p> <p>新施設に映像関係の資料を移転させれば、多摩川・大映スタジオにも近く、映画の街調布として、一体感がでると思います。</p> <p>前近代は、コロニーなど障害者等を隔離してきました。結果津久井山ゆり園の事件が発生しました。大切なのは、市民の中に当たり前高齢者がいて、障害者がいて病気の人が出て、子育てに奮闘する若いパパ・ママが出て、職を失って、やむなく生活保護を申請する失業者がいることを市民一人一人が認識することだと思います。(国が注力している共生社会の実現)</p> <p>ましてや、社会的な弱者をハザードマップでも指摘されている場所に移すというのは、上方避難とはいえ安易に考え過ぎだと思います。</p> <p>もう一点、今回市の公的施設に回収箱を設け、パブリックコメントを広く募集することは評価しますが、あまりにも素案に中身がなく、多くの市民は評価しようがないと思います。善意ある市民が、安易に『現施設は古いから、新しくきれいな施設に移ることは良いこと』とコメントしてしまうことを危惧しています。</p> <p>再度、障害当事者、現施設利用者の意見を積極的に取り入れていただくことを希望します。</p>	<p>センターの基本コンセプトとも整合を図りながら、「地域共生社会に向けた多世代が共に生き 多様な主体が交流する コンパクトなまちづくり」としています。</p> <p>また、総合福祉センターと京王多摩川駅周辺地区まちづくりの連動のメリットとしては、「新たなセンター機能と、まちづくり全体の医療、子育て支援機能等との調和」が期待されることに加え、「憩い・レクリエーションの場や公園・広場等の確保による多世代・多様な主体が交流する機能の創出」や、「商業機能、生活利便機能等との複合化による利便性の向上」により、地域の特性を活かしたまちづくりや、地域共生社会の充実に向けた取組が一層推進されると考えています。</p> <p>市は、これまでも多世代や多様な主体が交流する機会を通じて、市民の福祉に対する理解をより深めていくという、地域共生社会の考え方にも通じる理念の下、総合福祉センターを運営して参りました。今後、総合福祉センターの移転・更新を進めるうえでも、こうした基本理念が重要であるとの認識は、今後も変わるものではありません。そのため、新たな総合福祉センターが、地域共生社会を充実するための総合的な福祉の拠点であるという理念を具体化し、地域に開かれた親しみやすい総合的な福祉の拠点となるよう、引き続き、利用者や関係団体等に御理解いただきながら、取り組んで参ります。</p>

項目	No	御意見等の概要	市の考え方
全般	17	<p>本件に関する資料を拝読し下記に述べさせていただきます。</p> <p>1) 京王多摩川駅周辺の再開発地への移転に反対です。建設場所に付き再考をお願いしたく思います。</p> <p>2) 説明文中に「地域課題の解決力の強化」の中に高齢者、障害福祉、子育てについて述べられていますが、率直な気持ちとして、なぜ敢えて調布市の中心駅に現存する場所よりも一つ離れたしかも支線の駅近くに移転するのかと思います</p> <p>3) 「福祉センター」の業務目的から鑑み高齢者、障害者、子育ての親たちに更に全市民に最も便利な場所に設置すべきものと思います。京王多摩川駅では高齢者、障害者或いは子を抱えた親にはもう一駅電車を乗り替えしかも支線の駅迄行かなくてはなりません。</p> <p>4) 「洪水ハザードマップ」(調布市発行)多摩川浸水想定区域(想定最大規模)浸水ランクによれば新たに移される予定の場所は3mから5m及び5mから10m区域に入っており、これらの予測は想定最大規模降雨多摩川流域に2日間で総雨量588mmとあります。年毎に異常気象続く中斯様な降雨量は日本各地にても現在もあり「絶対に想定しなくてはなりません」(想定外との言い訳では済まされない昨今の異常気象です)。建物をそれに耐え得るものを建設するとしても、もしその時が来て途中浸水した道路と建物とのアクセスはどうなるのでしょうか?洪水ハザードマップによれば「浸水区域の一部は品川通りに迄達する」と想定しています。水が引く迄どういう交通手段あるのでしょうか?</p> <p>5) 今まで極く至近距離にあった市役所との連携は不便になるのではないのでしょうか?</p> <p>6) 今回の移転建設の理由に手狭、道路の幅員幅の拡大、移転先用地が調布駅近隣にない又仮建物作るにしても多額の費用等挙げられておりますが、移転必要になっても調布駅周辺地区に固執すべきです。例えば品川道近辺の旧調布保健所敷地とか品川道に接する緑地農地帯とか或いは現在検討進んでいる調布駅南中央口再開発地域とかに場所を求めざる事考えられないものかと思う次第です、</p> <p>7) 以上私の意見を述べさせていただきますので、上述に付いてご見解いただければ幸いです。以上</p>	<p>総合福祉センターは、建設から38年余が経過していることから、施設及び設備の経年劣化やセンター機能の改善への対応が喫緊の課題となっております。また、調布駅前広場の整備と連動して、地区計画で施設の南側に接する区画道路の拡幅整備や壁面後退に対応していくことを定めており、現在の施設機能の維持は困難となります。</p> <p>現在、総合福祉センターでは、高齢者や障害者等への福祉サービス等を行っていることから施設整備の検討に当たっては、それらのサービスの継続的な提供が不可欠となります。</p> <p>こうした課題に加えて、調布駅周辺においては、建替えの期間中に移転する仮施設を整備するための用地確保が困難な状況であることや、仮施設の整備については、整備コストの増加につながることに留意する必要があります。</p> <p>こうしたことから、総合福祉センターを現敷地で維持していくことは困難と考えており、施設の移転更新が必要となっております。</p> <p>「整備に関する考え方」では、移転・更新に当たっては、高齢者、障害者等の多様な利用状況を踏まえて、多面的な視点からアクセシビリティ(交通の利便性、利用しやすさ等)に配慮するとともに、ハード・ソフトの両面から、ユニバーサルデザイン・バリアフリーによる整備や必要な移動手段の確保等を検討することとしています。</p> <p>このことから、移動手段の確保に資する取組として、無料の巡回バスや事業の実施状況等に合わせた無料の送迎サービスなどの移動手段を検討して参ります。</p> <p>また、地域共生社会の充実に向けたまちづくりの推進として、次期バリアフリー基本構想において、京王多摩川駅周辺地区を「重点整備地区」に位置付けて参ります。</p> <p>併せて、京王多摩川駅舎の利便性向上の取組として、ホームと車両の隙間対策やホームから施設までの移動の円滑化、設備のバリアフリー化等や競輪等イベント開催時の利用者の安全な動線確保について、事業者を含めて協議を重ねて参ります。</p> <p>災害対応としては、台風等による被害のおそれが想定される場合には、風雨の影響等を総合的に考慮して、あらかじめ総合福祉センターの利用を一時的に休館し、通所等を行わないよう措置を講じます。</p> <p>また、施設の階の高さについて、浸水高を考慮した5m以上とするとともに、主要な設備等を2階以上に配置することにより、風水害時の被災を低減し、施設の早期復旧を目指します。なお、大規模水害等により、早期復旧に時間を要する場合には、他の施設での臨時的・代替的なサービスの提供が行えるよう調整を図ります。</p> <p>福祉避難所の対応としては、風水害時は福祉避難所に指定された各公共施設等で要支援者の避難対応を行うこととなります。令和元年の台風第19号の事例では、現総合福祉センターに避難された方がおられたことを踏まえ、調布駅近傍の文化会館たづくり1階に要配慮者スペースを確保し、開設・運営においては、避難所担当職員を中心とした人員配置により対応して参ります。</p> <p>風水害時における発災前から発災後までの段階ごとの課題分析を踏まえ、今後も引き続き、新たな総合福祉センター機能の確保等を検討して</p>

項目	No	御意見等の概要	市の考え方
			<p>参ります。</p> <p>総合福祉センターと市役所との連携につきましては、移転後も様々な手段を活用して、引き続き、緊密な連絡、相談体制を整備して参ります。そのひとつとして、新たな総合福祉センターでは、ICT等を活用したシステムの導入を検討することにより、調布駅周辺の福祉機能と連動した相談機能の確保や市役所との連絡体制の確保を図って参ります。</p>
全般	18	<p>サロン開催時にみんなが意見を出し合いそれをまとめました。</p> <p>◆移転場所(京王多摩川アンジェ跡)に関する不満</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.京王多摩川は電車利用者やバス利用者にとっては乗り換えが必要となる。現在の場所が、調布駅前という便利な場所なので、比べてみると利便性がかなり損なわれる。特に障がい者には、安全性の問題も生じるのでは？ 2.台風、大雨時の洪水が心配な土地である。建物の構造だけでなく、出入りする方々の行き帰りの安全面でも問題がある場所に移転するという計画にそもそも問題があるのでは？ 3.出来れば、移転先を決定する前に、対象者を広げて意見を聞いてほしかった。 <p>◆京王多摩川駅への不満・要望</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.障がい者の作業所も近くにあり、障がい者・高齢者が使いやすい駅であるべき。 2.駅のプラットフォームがカーブしており、障がい者や高齢者には安全面で問題があるのでは？ 3.ホームドア・エレベーターの設置がないので望ましい。 4.エレベーターがホームの端に設置されており、使いにくい。 5.競輪開催日の人出・トラブルが心配。 <p>◆今後の展開について</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.調布駅から無料の送迎バスが欲しい。例えば、調布駅⇄市役所⇄福祉会館 2.ミニバス運行でも構わないが、近隣の府中、三鷹の様に100円バスにして欲しい。今の210円は高すぎる。 3.市役所前広場(前庭)や、教育会館を総合福祉センターにするのはどうか？教育会館を現在の計画地(アンジェ跡地)に移転させればいい。また市役所の障がい者部門に組み込むのはどうか？障がい者が通いやすい調布駅前に新施設を、元気に動ける人たちの部門は京王多摩川にというのはどうだろうか？ 4.グリーンホールが現在の場所での建て替えが行われる時に、総合福祉センターも込みの施設に建て替える。 5.小島町コーナーとして、現在の場所近くに手話通訳等を申し込める場所や相談窓口、学習・集まりに利用できる部屋を存続させてほしい。 6.整備に関する検討会委員に視覚障がい者が入っていないのは？ 	<p>「整備に関する考え方」では、移転・更新に当たっては、高齢者、障害者等の多様な利用状況を踏まえて、多面的な視点からアクセシビリティ（交通の利便性、利用しやすさ等）に配慮するとともに、ハード・ソフトの両面から、ユニバーサルデザイン・バリアフリーによる整備や必要な移動手段の確保等を検討することとしています。</p> <p>このことから、移動手段の確保に資する取組として、無料の巡回バスや事業の実施状況等に応じた無料の送迎サービスなどの移動手段を検討して参ります。</p> <p>また、地域共生社会の充実に向けたまちづくりの推進として、次期バリアフリー基本構想において、京王多摩川駅周辺地区を「重点整備地区」に位置付けて参ります。</p> <p>併せて、京王多摩川駅舎の利便性向上の取組として、ホームと車両の隙間対策やホームから施設までの移動の円滑化、設備のバリアフリー化等や競輪等イベント開催時の利用者の安全な動線確保について、事業者を含めて協議を重ねて参ります。</p> <p>災害対応としては、台風等による被害のおそれが想定される場合には、風雨の影響等を総合的に考慮して、あらかじめ総合福祉センターの利用を一時的に休館し、通所等を行わないよう措置を講じます。</p> <p>また、施設の階の高さについて、浸水高を考慮した5m以上とするとともに、主要な設備等を2階以上に配置することにより、風水害時の被災を低減し、施設の早期復旧を目指します。なお、大規模水害等により、早期復旧に時間を要する場合には、他の施設での臨時的・代替的なサービスの提供が行えるよう調整を図ります。</p> <p>福祉避難所の対応としては、風水害時は福祉避難所に指定された各公共施設等で要支援者の避難対応を行うこととなります。令和元年の台風第19号の事例では、現総合福祉センターに避難された方がおられたことを踏まえ、調布駅近隣の文化会館たづくり1階に要配慮者スペースを確保し、開設・運営においては、避難所担当職員を中心とした人員配置により対応して参ります。</p> <p>風水害時における発災前から発災後までの段階ごとの課題分析を踏まえ、今後も引き続き、新たな総合福祉センター機能の確保等を検討して参ります。</p> <p>総合福祉センターの機能や設備等については、現行機能の維持を基本として、一部拡充も含め必要な床面積を確保するとともに、上下移動の少ないフロアーに機能を集約し、必要な機能改善の検討等を行って参ります。こうした方向を踏まえて、障害者等に配慮した通路幅員の確保、駐車場や屋根のある車寄せの設置など基本機能の向上に資する機能の整備を検討して参ります。</p> <p>また、調布駅周辺の福祉機能については、調布駅周辺の公共・民間施設</p>

項目	No	御意見等の概要	市の考え方
			<p>を活用することにより、安心して相談などができる相談機能をはじめとして、交流・居場所機能や福祉機能等について、確保することを検討して参ります。</p> <p>そのため、今後も、関係団体や利用者等の御意見を伺いながら、福祉サービスの実施状況や福祉施策を取り巻く社会状況等を勘案して、必要な施設機能を整備して参ります。</p> <p>市としましては、今後、「整備に関する考え方」を踏まえて、「(仮称)新たな総合福祉センターの機能や設備に関する検討会」を開催し、新たな総合福祉センターの機能や設備、調布駅周辺の福祉機能などについて、より具体的な検討を進めて参りたいと考えております。</p> <p>併せて、この検討会とは別に、適宜、関係団体や利用者等と、新たな総合福祉センターの機能、設備等について、意見交換会を実施し、広くご意見を伺いたいと思っております。</p>
全般	19	<p>道路拡張計画のため、福祉センターのスペースがなくなるので、福祉センターを移転とのことですが、まずなぜグリーンホールを移転するという計画には、ならなかったのでしょうか？イベントに行きたい方はすこし位不便でも、皆さん電車を乗り継いで来場されます。多摩川でも良くないでしょうか？</p> <p>京王に、京王多摩川駅周辺にマンションや都市整備計画があったので、それに乗るためには、ホールではなく福祉センターならば、スペース的に合致するということでしょうか？グリーンホールが多摩川に移転しても困る人は誰もいない、ということをまず考えていただけないでしょうか？</p> <p>最初に道路を拡張するとしたら、福祉センターを解体しなければいけないし、福祉センターの機能を止める訳にはいきませんが、近隣の空テナントを借りるとか、グリーンホール小ホールや、たづくりの会議室を借りるなどして、調布駅近辺に機能を残し、その後調布駅前に建て替わった福祉センターへ移るといことはできませんか？京王の多摩川の計画や図面がすでにできていて、変更はできないということでないのでしたら、ホール案に変更はできないでしょうか。</p> <p>他地域の市運営のホールは、耐震や老朽化のためホールは取り壊しているところもあります。調布市はなぜ維持費もかかるホールを建て替えようとしているのか、その根拠も疑問です。成人式のためだとしたら、味スタや、武蔵野の森スポーツセンターのホールを借りたりでも、実施可能ではないのでしょうか？調布市は、安全面や経費やごみの問題もある花火大会を例年実施されていますが、これも必要な行事なのか、本当に疑問に思います。市民サービスなら、もっと他のことに貴重な税金を使ってほしいです。</p> <p>健康に生まれた市民でも、最後は誰でも福祉のサービスを受けることになります。それが早いのか、遅いだけのことなのに、全市民対象のサービスに関することをこんな簡単に決めていいのですか？調布駅前から多摩川駅に行く労力や交通費（送迎バスの経費なども）をどう考えていらっしゃるでしょうか？市の税収が減っていて大変なのならば、猶更このようなサービスを軽視しないでいただきたいです。</p> <p>多摩川駅の整備（ホームの隙間工事、ホームドア設置、車いす乗車可能エレベーター・エスカレーターの設定など）がやっていたらと決まって初めて、皆さん移転を考えてもいいと思っているといます。</p> <p>もし、多摩川に移転するとしても、調布駅前に福祉センター調布駅前を作っていたらと困ります。グリーンホールの中に、市役所の中に、近隣バリアフリーのテナントやビルなどでもいいので、社協窓口・会議室・団体室・印刷室・ロッカー、ぴっころのスペースは設置してください。いまはコロナで利用できていませんが、以前は福祉センターで月に1回以上</p>	<p>総合福祉センターは、建設から38年余が経過していることから、施設及び設備の経年劣化やセンター機能の改善への対応が喫緊の課題となっております。また、調布駅前広場の整備と連動して、地区計画で施設の南側に接する区画道路の拡幅整備や壁面後退に対応していくことを定めており、現在の施設機能の維持は困難となります。</p> <p>現在、総合福祉センターでは、高齢者や障害者等への福祉サービス等を行っていることから施設整備の検討に当たっては、それらのサービスの継続的な提供が不可欠となります。</p> <p>こうした課題に加えて、調布駅周辺においては、建替えの期間中に移転する仮施設を整備するための用地確保が困難な状況であることや、仮施設の整備については、整備コストの増加につながることに留意する必要があります。</p> <p>こうしたことから、総合福祉センターを現敷地で維持していくことは困難と考えており、施設の移転更新が必要となっております。</p> <p>「整備に関する考え方」では、移転・更新に当たっては、高齢者、障害者等の多様な利用状況を踏まえて、多面的な視点からアクセシビリティ（交通の利便性、利用しやすさ等）に配慮するとともに、ハード・ソフトの両面から、ユニバーサルデザイン・バリアフリーによる整備や必要な移動手段の確保等を検討することとしています。</p> <p>このことから、移動手段の確保に資する取組として、無料の巡回バスや事業の実施状況等に応じた無料の送迎サービスなどの移動手段を検討して参ります。</p> <p>また、地域共生社会の充実に向けたまちづくりの推進として、次期バリアフリー基本構想において、京王多摩川駅周辺地区を「重点整備地区」に位置付けて参ります。</p> <p>併せて、京王多摩川駅舎の利便性向上の取組として、ホームと車両の隙間対策やホームから施設までの移動の円滑化、設備のバリアフリー化等や競輪等イベント開催時の利用者の安全な動線確保について、事業者を含めて協議を重ねて参ります。</p> <p>総合福祉センターの機能や設備等については、現行機能の維持を基本として、一部拡充も含め必要な床面積を確保するとともに、上下移動の少ないフロアに機能を集約し、必要な機能改善の検討等を行って参り</p>

項目	No	御意見等の概要	市の考え方
		<p>は団体室で会議、印刷室で印刷もしています。会議室をお借りしての会議も行っています。団体の荷物をロッカーにも置かせていただき、大変助かっています。市役所の用事について福祉センターによることもできて助かっています。</p> <p>多摩川は調布の端っこです。川を渡ったら、稲城市です。使いづらい端っこに追いやって、ドルチェやびっころに今現在一生懸命通っている利用者や、団体に利用していたり相談で訪れる市民を困らせてどうしたいんですか？本当に福祉機能を必要としている人のことを一番に考えての計画を今一度よろしくお願ひいたします。</p>	<p>ます。こうした方向を踏まえて、障害者等に配慮した通路幅員の確保、駐車場や屋根のある車寄せの設置など基本機能の向上に資する機能の整備を検討して参ります。</p> <p>また、調布駅周辺の福祉機能については、調布駅周辺の公共・民間施設を活用することにより、安心して相談などができる相談機能をはじめとして、交流・居場所機能や福祉機能等について、確保することを検討して参ります。</p> <p>そのため、今後も、関係団体や利用者等の御意見を伺いながら、福祉サービスの実施状況や福祉施策を取り巻く社会状況等を勘案して、必要な施設機能を整備して参ります。</p> <p>グリーンホールについては、駅前広場整備に合わせて外階段を撤去する方向で調整しています。建物全体については、令和10年度を目途に新しいホールを整備する方向ではあるものの、財政的な影響も大きいため、その手法も含めて検討が必要であり、どのように整備していくか、その詳細について検討を始めた段階です。</p> <p>総合福祉センターの移転先としている京王多摩川駅周辺は、まちづくり提案の中で、その将来像として「地域共生社会に向けた多世代が共に生き多様な主体が交流するコンパクトなまちづくり」を掲げており、その中でも駅前複合拠点地区は「地域共生社会のモデルとして、総合的な福祉機能や、商業、子育て支援、高齢者福祉等、日常生活に密着した商業・生活利便施設などの暮らし支援機能、駅前居住機能及び公共的な機能を誘導する。」としていることから、グリーンホールを京王多摩川に移転することは、まちづくりの方向と合致していないものと考えています。</p>
全般	20	<p>調布駅前には社会福祉協議会の入る総合福祉センターがあり、それが他の街とは違う大きな特徴です。社協は、障がいのある人、高齢者、最近では若者も含む在宅支援の拠点ですから、毎日たくさんの方が出入りします。杖のひと、車いすの人、同行支援の人、デイに来る人、支援先へ向かうボランティア、帰ってきた人等々。それに建物外のたくさんの通行人とで交流は自然に生まれます。地域共生社会を目標に掲げずとも、社協がそこにあることで、社会にはいろいろな人がいることを学び、助け合うことを生活の中に意識することになります。あの建物がどんなに活躍しているのか、社協の一日の出入り人数をカウントすべきではないでしょうか？</p> <p>今回、駅前という恵まれた立地を手放しての移転計画が進んでいるということで、そこまでして移転をする理由があるのか？ あるとしたら何だろう？ との疑問を持って7月17日の意見交換会に参加しましたが、総合的管理(マネジメント)の位置づけの中でその理由を見出せませんでした。資料のp10-11の課題記述はあまり具体的ではありません。</p> <p>築38年のセンターが、市内の小中学校の老朽化対策に比べても優先されるべきことなのでしょうが？ そんな疑問ばかりが湧いてきます。しかも行き場が、ハザードマップで危険を指摘される場所です。</p> <p>そんなところへ、いかにも、「センターはあっちへ行ってなさい」と言わんばかりの印象です。それで、区画道路2号の拡張計画のためではないか？ グリーンホール建て替えの前段ではないのか？ 1昨年11月の京王電鉄からの「街づくり提言書」に乗っているだけではないか？ といううがった見方もしてしまいます。</p> <p>区画道路2号の拡張のためのセンター移転ではない、とのことでしたので、移転の理由がますますわからなくなりました。</p>	<p>総合福祉センターは、建設から38年余が経過していることから、施設及び設備の経年劣化やセンター機能の改善への対応が喫緊の課題となっています。また、調布駅前広場の整備と連動して、地区計画で施設の南側に接する区画道路の拡幅整備や壁面後退に対応していくことを定めており、現在の施設機能の維持は困難となります。</p> <p>現在、総合福祉センターでは、高齢者や障害者等への福祉サービス等を行っていることから施設整備の検討に当たっては、それらのサービスの継続的な提供が不可欠となります。</p> <p>こうした課題に加えて、調布駅周辺においては、建替えの期間中に移転する仮施設を整備するための用地確保が困難な状況であることや、仮施設の整備については、整備コストの増加につながることに留意する必要があります。</p> <p>こうしたことから、総合福祉センターを現敷地で維持していくことは困難と考えており、施設の移転更新が必要となっております。</p> <p>市は、これまで多世代や多様な主体が交流する機会を通じて、市民の福祉に対する理解をより深めていくという、地域共生社会の考え方にも通じる理念の下、総合福祉センターを運営して参りました。今後、総合福祉センターの移転・更新を進めるうえでも、こうした基本理念が重要であるとの認識は、今後も変わるものではありません。そのため、新たな総合福祉センターが、地域共生社会を充実するための総合的な福祉の拠点であるという理念を具体化し、地域に開かれた親しみやすい総合的な</p>

項目	No	御意見等の概要	市の考え方
		<p>昨年からの検討会も、移転前提で問題提起されている印象でした。京王多摩川駅の改修、調布からのアクセス面での対応などの具体策の前に、移転そのものの拙速、不用意を見直すべきではないかと思えます。</p> <p>障がい当事者の皆さんはとてよ遠慮がちで、役所の施策へ感謝されて、遠慮があるように見受けられます。</p> <p>今のところ社協を利用しているわけではない一般人から見て、せっかく評判の良い「調布市の福祉」のイメージは後退するだろうと思えます。</p>	<p>福祉の拠点となるよう、引き続き、利用者や関係団体等に御理解いただきながら、取り組んで参ります。</p>
全般	21	<p>市の計画(案)では、総合福祉センターは多摩川へ移転ということだが、現在の福祉センターは、障害を抱えた方たちが多く利用している。</p> <p>多摩川へ移れば、アクセスの便利さが大幅に低下し、利用できない団体グループが多くいると思われる。</p> <p>現在の福祉センターは、調布駅前バス路線も集中していて、障害のある人たちもアクセスが集中していて、障害のある人たちもアクセスが容易です。</p> <p>多摩川への移転は、市のスローガンである「共生社会」とあい入れないと思う。</p> <p>障害のある人たちも今まで通り利用できるように、現在のセンターの一部を残して欲しい。</p>	<p>「整備に関する考え方」では、移転・更新に当たっては、高齢者、障害者等の多様な利用状況を踏まえて、多面的な視点からアクセシビリティ(交通の利便性、利用しやすさ等)に配慮するとともに、ハード・ソフトの両面から、ユニバーサルデザイン・バリアフリーによる整備や必要な移動手段の確保等を検討することとしています。</p> <p>このことから、移動手段の確保に資する取組として、無料の巡回バスや事業の実施状況等に応じた無料の送迎サービスなどの移動手段を検討して参ります。</p> <p>また、地域共生社会の充実に向けたまちづくりの推進として、次期バリアフリー基本構想において、京王多摩川駅周辺地区を「重点整備地区」に位置付けて参ります。</p> <p>併せて、京王多摩川駅舎の利便性向上の取組として、ホームと車両の隙間対策やホームから施設までの移動の円滑化、設備のバリアフリー化等や競輪等イベント開催時の利用者の安全な動線確保について、事業者を含めて協議を重ねて参ります。</p> <p>総合福祉センターの機能や設備等については、現行機能の維持を基本として、一部拡充も含め必要な床面積を確保するとともに、上下移動の少ないフロアーに機能を集約し、必要な機能改善の検討等を行って参ります。こうした方向を踏まえて、障害者等に配慮した通路幅員の確保、駐車場や屋根のある車寄せの設置など基本機能の向上に資する機能の整備を検討して参ります。</p> <p>また、調布駅周辺の福祉機能については、調布駅周辺の公共・民間施設を活用することにより、安心して相談などができる相談機能をはじめとして、交流・居場所機能や福祉機能等について、確保することを検討して参ります。</p> <p>そのため、今後も、関係団体や利用者等の御意見を伺いながら、福祉サービスの実施状況や福祉施策を取り巻く社会状況等を勘案して、必要な施設機能を整備して参ります。</p>

4 第3章「総合福祉センターの今後の方向」に対する意見

項目	No	御意見等の概要	市の考え方
2節 今後の方向（案） P14	1	これまで利便性に高い調布駅前が存在し、多くの市民の福祉拠点として機能してきた総合福祉センターですが、第1節で述べられているように、施設については、老朽化が顕著であり、建て替えは必須だと考えます。 その際、区画道路の拡幅整備、仮設建築物のコスト、継続的なサービス提供などを総合的に勘案した場合、機能の移転・更新は妥当なものと考えます。	今回頂いた具体的な御意見については、今後の検討における参考とさせていただきます。

5 第4章「総合福祉センターの整備に関する考え方」に対する意見

項目	No	御意見等の概要	市の考え方
2節 主要な機能等（案） P17	1	今日、福祉行政上の政策課題となっている「地域共生社会」を実現するには、市民が自発的に各々の役割を果せるような環境整備や、生活に困難を生じている人を切れ目なく支援する相談支援や福祉サービスの提供等公的な施策展開が求められています。 そこで、今回の整備に当たっては、今後地域福祉の担い手となる、市民や福祉関係団体が利用できる会議室等については現在の所要面積を確保するとともに、現在、総合福祉センターで展開している障害者、高齢者、子ども若者等を支援する事業について、将来的な需要を見据えた視点から検討に努めるべきであると考えます。 一方、医療、保健、福祉の連携を図るためには、「休日・夜間診療等の拠点に関する機能の拡充及び集約複合化」に留まらず、日中における利用など機能の拡充も含めた検討をされるようお願いいたします。	総合福祉センターの機能や設備等については、現行機能の維持を基本として、一部拡充も含め必要な床面積を確保するとともに、上下移動の少ないフロアーに機能を集約し、必要な機能改善の検討等を行って参ります。こうした方向を踏まえて、障害者等に配慮した通路幅員の確保、駐車場や屋根のある車寄せの設置など基本機能の向上に資する機能の整備を検討して参ります。 また、調布駅周辺の福祉機能については、調布駅周辺の公共・民間施設を活用することにより、安心して相談などができる相談機能をはじめとして、交流・居場所機能や福祉機能等について、確保することを検討して参ります。 新たな総合福祉センターでは、休日・夜間診療等の拠点に関する機能の拡充及び集約・複合化や高齢者の健康づくり、生きがいづくりに関する機能の集約・複合化による総合福祉センター機能の充実・強化を図って参ります。 また、今後も引き続き、関係団体や利用者等の御意見を伺いながら、福祉サービスの実施状況や福祉施策を取り巻く社会状況等を勘案して、必要な施設機能を整備して参ります。
2節 主要な機能等（案） P17	2	いつも調布市歯科医師会の運営事業支援に協力感謝申し上げます。この度の総合福祉センター計画では以前より当会からの要望であります歯科医療センターの設立にご理解いただきようやく実現化されたと認識しております。 本会では現在、小島町歯科診療所（調布市小島町）にて週2回の障がい者歯科治療を行っており、その機能を新たな医療センターに移設をと考えています 「総合福祉センターの整備に関する考え方」第4章2節(2)「集約、複合化を検討している周辺福祉施設機能」に記載されている、「休日、夜間診療などの拠点に関する機能の拡充および集約化」・「高齢者の健康づくり、生きがいづくりに関する機能の集約、複合化」等の考え方は当会の医療ステーション化の目標に一致しております。 現在、休日歯科診療は市内会員の歯科診療所にて輪番制で行っていますが、市内各地に点在するために診療場所がわかりにくいことや駅から遠い場合もあります。医療ステーション化休日診療所の開設で、多くの市民に認知された駅から至近距離を考えますと、この総合福祉センターは最適と考えます。現在稼働中の小島町歯科診療所の利用者にとっても大変利用	新たな総合福祉センターでは、休日・夜間診療等の拠点に関する機能の拡充及び集約・複合化や高齢者の健康づくり、生きがいづくりに関する機能の集約・複合化による総合福祉センター機能の充実・強化を図って参ります。 また、今後も引き続き、関係団体や利用者等の御意見を伺いながら、福祉サービスの実施状況や福祉施策を取り巻く社会状況等を勘案して、必要な施設機能を整備して参ります。

項目	No	御意見等の概要	市の考え方
		<p>しやすい環境となると考えます。さらに今後は高齢者を対象とした口腔ケアの拠点としても活用を考えています。総合福祉センターとしても充実した事業の一環となることだと考えます。</p> <p>本会としては医療センター開設にあたり、現在の小島町歯科診療所の施設規模と同等、若しくは今後の地域医療拡充のためにより多機能を有する施設の開設を望んでいます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 歯科診療室として各種機器の設置できるスペース並びに消毒室 2 医療従事者の休息室並びに更衣室 3 事務作業のできる部屋 4 講習会などが行える研修室 <p>以上を苦慮し施設の計画をお願いしたいと考えます</p> <p>以上総合福祉センターの整備に関する施設概要の要望です。</p>	
<p>2節 主要な機能等（案） P17</p>	<p>3</p>	<p>日頃、調布市歯科医師会の歯科口腔保健の充実にご理解ご協力ありがとうございます。総合福祉センターの基本コンセプトとして地域共生社会の実現を目指すとの考え方に共感しております。現在の総合福祉センターのイメージは、高齢者、障害者などの利用が中心であり一般市民の利用は限定的と考えられます。今回は地域共生社会の実現のため8050問題・産後うつ・ケアラー・ヤングケアラー・不登校・高齢者虐待など様々な、世帯の複合的なニーズやライフステージの変化に対応できる縦割り窓口ではなく、断らない相談窓口の一本化の設置と体制づくりをお願いします。より多くの市民が集い 社会全体での予防・健康づくりの推進できるまちの保健室な考えを中心に 高齢者と障害児が同一の事業所でサービスを受けやすくする、介護保険と生涯福祉に対応した施設を提案します。調布市歯科医師会は「伸ばそう健康寿命の延伸 生涯にわたる口腔機能の維持・増進」をテーマに健康寿命の延伸と予防に力を入れ活動しています。</p> <p>第4章の2節 （2）集約・複合化を検討している周辺福祉施設機能として 健康寿命延伸プランとして 生活習慣形成、疾病予防・重症化予防、介護予防・フレイル対策、認知症予防などの機能を追加することはできないでしょうか。 この計画には、介護保険制度の地域支援事業、障害者総合支援制度の地域生活支援事業、子ども・子育て支援制度の地域子育て支援拠点事業、健康増進法に基づく健診増進事業についてなどの事業が含まれていると思います。 歯科医師会ではお口の健康の維持・増進をおし協力していきたいと考えておりますので、それぞれの事業の中に健康寿命延伸のための口腔健診、オーラルフレイル予防などを組み入れることを希望します。 また、併設される、休日歯科診療・障害者の歯科診療所では、医療・福祉サービス改革を進めるため、介護予防、認知症予防や、今後増加が予想される高齢者の在宅、訪問歯科診療、並びに医療的ケア児に対する訪問歯科診療、高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施などを行う歯科事業を提案します。 その他の意見として、より多くの市民が集う場としてソフトなネーミングのセンター 市民が健康増進のため使用している多摩川サイクリングロードの休憩所（障害者、高齢者が運営するカフェ）、レンタルサイクルの設置 地元農協の産物販売など追加とします。</p>	<p>京王多摩川駅周辺のまちづくりの方向（案）としては、新たな総合福祉センターの基本コンセプトとも整合を図りながら、「地域共生社会に向けた多世代が共に生き 多様な主体が交流する コンパクトなまちづくり」としています。</p> <p>また、総合福祉センターと京王多摩川駅周辺地区まちづくりの連動のメリットとしては、「新たなセンター機能と、まちづくり全体の医療、子育て支援機能等との調和」が期待されることに加え、「憩い・レクリエーションの場や公園・広場等の確保による多世代・多様な主体が交流する機能の創出」や、「商業機能、生活利便機能等との複合化による利便性の向上」により、地域の特性を活かしたまちづくりや、地域共生社会の充実に向けた取組が一層推進されると考えています。</p> <p>市は、これまでも多世代や多様な主体が交流する機会を通じて、市民の福祉に対する理解をより深めていくという、地域共生社会の考え方にも通じる理念の下、総合福祉センターを運営して参りました。今後、総合福祉センターの移転・更新を進めるうえでも、こうした基本理念が重要であるとの認識は、今後も変わるものではありません。そのため、新たな総合福祉センターが、地域共生社会を充実するための総合的な福祉の拠点であるという理念を具体化し、地域に開かれた親しみやすい総合的な福祉の拠点となるよう、引き続き、利用者や関係団体等に御理解いただきながら、取り組んで参ります。</p> <p>総合福祉センターの移転と合わせて、小島町歯科診療所を含む調布市医療ステーションの機能を拡充及び集約・複合化して移転する方向で検討しています。医療ステーションの移転にあたっては、現在の機能を維持したうえで、全体の整備計画の中で必要なスペースや機能が確保できるよう、医師会、歯科医師会等の意見を踏まえて検討して参ります。</p> <p>現在の総合福祉センター事業では、子どもから高齢者まで多世代を対象としていますが、さらに多様な主体の活動や生活等の支援機能及び交流・参画・集いの場を設置する方向で検討しています。健康寿命の延伸を踏まえた健康づくりの視点からのお口の健康にかかる取組については、施設を開設後に行う事業の具体を検討する中で、歯科医師会とも協議をして参ります。</p> <p>新たな総合福祉センターでは、休日・夜間診療等の拠点に関する機能の拡充及び集約・複合化や高齢者の健康づくり、生きがいづくりに関す</p>

項目	No	御意見等の概要	市の考え方
			<p>る機能の集約・複合化による総合福祉センター機能の充実・強化を図って参ります。</p> <p>また、今後も引き続き、関係団体や利用者等の御意見を伺いながら、福祉サービスの実施状況や福祉施策を取り巻く社会状況等を勘案して、必要な施設機能を整備して参ります。</p>
<p>3節 場所（移転先候補） （案） P18</p>	4	<p>地域共生社会を皆でつくることの重要性は異論のない所であるが、施設の特性から利用者の弱い立場に配慮する事が最優先事項、その為に場所選定、特に市役所と離れてしまう事のマイナスは大きい。</p> <p>また、ようやく駅前再開発で整備がすすみ、便利となった調布駅周辺から離れて京王多摩川に移動する事は、その動線上でも障害者、高齢者などには負担が大きい。グリーンホールとの複合施設化を検討の方が、将来の福祉総合施設として広く市民に受け入れられるものと考え。</p> <p>公共施設の見直しはどこでも求められている方向性で理解もするが、京王多摩川の選定が地理的要因と災害被害防止の観点でもリスクが高いと思う。足腰に不安のある高齢者、障害者に優しい市政とは逆の方向の施策案と思えてならないのですが、ここまででその声なき声、弱い声しか出せない方々の本当の望みに真摯に向かって頂いた結果なのか疑問です。</p> <p>市の厳しい財政状態が何よりも優先で有るとするならば、その説明は素案ではまだ不十分ではないだろうか。もっと市民との合意形成を丁寧にするべきと考える。</p>	<p>総合福祉センターは、建設から38年余が経過していることから、施設及び設備の経年劣化やセンター機能の改善への対応が喫緊の課題となっています。また、調布駅前広場の整備と連動して、地区計画で施設の南側に接する区画道路の拡幅整備や壁面後退に対応していくことを定めており、現在の施設機能の維持は困難となります。</p> <p>現在、総合福祉センターでは、高齢者や障害者等への福祉サービス等を行っていることから施設整備の検討に当たっては、それらのサービスの継続的な提供が不可欠となります。</p> <p>こうした課題に加えて、調布駅周辺においては、建替えの期間中に移転する仮設施設を整備するための用地確保が困難な状況であることや、仮設施設の整備については、整備コストの増加につながることに留意する必要があります。</p> <p>こうしたことから、総合福祉センターを現敷地で維持していくことは困難と考えており、施設の移転更新が必要となっております。</p> <p>施設機能の移転先候補については、利用者の利便性の確保や継続的な福祉サービスを提供することを前提として、これまで、市内の民有地、公有地について様々な可能性を模索して参りました。</p> <p>総合福祉センターと市役所との連携につきましては、移転後も様々な手段を活用して、引き続き、緊密な連絡、相談体制を整備して参ります。そのひとつとして、新たな総合福祉センターでは、ICT等を活用したシステムの導入を検討することにより、調布駅周辺の福祉機能と連動した相談機能の確保や市役所との連絡体制の確保を図って参ります。</p> <p>施設機能の移転先候補の検討に当たっては、交通アクセスとして最寄りの駅やバス停、市役所からの距離をはじめ、センター機能の移転や周辺福祉施設機能の移転に必要な床面積の確保、土地や事業床の保有形態、早期の機能移転先としての可能性等など複数の視点から検討を行って参りました。</p> <p>その結果、これまで、令和元年11月に京王電鉄から市にまちづくり提案のあった京王多摩川駅周辺地区における駅前複合拠点地区を最有力候補として検討を進めて参りました。これにより、当該地区への移転に向けた取組を進めることを「整備に関する考え方」の基本的な方向としてとりまとめたものです。</p>
<p>3節 場所（移転先候補） （案） P18</p>	5	<p>「福祉のまち調布」の名が泣きます。笑われます。</p> <p>調布駅前であってこそ、利用者に愛され頼みの拠点だった福祉センターを選びによって災害危険地帯に移転するという計画は誰が聞いても納得できる話ではありません。</p> <p>『行政は誰のために何を考えての移転案なのですか？』</p> <p>グリーンホール建て替え、南口地区再開発など大きな開発が進行し始めている中、幾らでも案は出せる筈ですし、実際に納得できる案も聞いています。</p>	<p>総合福祉センターは、建設から38年余が経過していることから、施設及び設備の経年劣化やセンター機能の改善への対応が喫緊の課題となっています。また、調布駅前広場の整備と連動して、地区計画で施設の南側に接する区画道路の拡幅整備や壁面後退に対応していくことを定めており、現在の施設機能の維持は困難となります。</p> <p>現在、総合福祉センターでは、高齢者や障害者等への福祉サービス等を行っていることから施設整備の検討に当たっては、それらのサービスの継続的な提供が不可欠となります。</p>

項目	No	御意見等の概要	市の考え方
		<p>現在の移転計画は撤回に向けて考え直してください。断じて賛成する事はできません。危険地帯への福祉センター移転計画など、都も国交省も認めないだろうと思います。</p>	<p>こうした課題に加えて、調布駅周辺においては、建替えの期間中に移転する仮設施設を整備するための用地確保が困難な状況であることや、仮設施設を整備については、整備コストの増加につながることに留意する必要があります。</p> <p>こうしたことから、総合福祉センターを現敷地で維持していくことは困難と考えており、施設の移転更新が必要となっております。</p> <p>災害対応としては、台風等による被害のおそれが想定される場合には、風雨の影響等を総合的に考慮して、あらかじめ総合福祉センターの利用を一時的に休館し、通所等を行わないよう措置を講じます。</p> <p>また、施設の階の高さについて、浸水高を考慮した5m以上とするとともに、主要な設備等を2階以上に配置することにより、風水害時の被災を低減し、施設の早期復旧を目指します。なお、大規模水害等により、早期復旧に時間を要する場合には、他の施設での臨時的・代替的なサービスの提供が行えるよう調整を図ります。</p> <p>福祉避難所の対応としては、風水害時は福祉避難所に指定された各公共施設等で要支援者の避難対応を行うこととなります。令和元年の台風第19号の事例では、現総合福祉センターに避難された方がおられたことを踏まえ、調布駅近隣の文化会館たづくり1階に要配慮者スペースを確保し、開設・運営においては、避難所担当職員を中心とした人員配置により対応して参ります。</p> <p>風水害時における発災前から発災後までの段階ごとの課題分析を踏まえ、今後も引き続き、新たな総合福祉センター機能の確保等を検討して参ります。</p>
<p>3節 場所（移転先候補） （案） P18</p>	<p>6</p>	<p>意見を簡単に書かせていただきます。</p> <p>総合福祉センターを京王多摩川駅周辺のまちづくりと抱き合わせで、移転先とすることには反対です。</p> <p>その理由は、このセンターの利用者は障がいを持っている方、福祉的な支援が必要な方、そして「ここあ」に関係する方などで、交通に便利な調布駅にあるからこそ通ってこられる方が多いからです。</p> <p>「ここあ」は支援を受ける子のもとより、教える大学生にとっても通ってくる時間や交通費が今よりかかってしまうのは、来ることへのハードルを上げてしまいます。</p> <p>また、現在のセンターを利用している方々への説明が足りていないことと、真摯に意見を聞いて一緒に検討する進め方をしてこなかったことも問題です。</p> <p>さらにセンターの目的から見ても水害の危険性がある場所は考えられません。</p>	<p>「整備に関する考え方」では、移転・更新に当たっては、高齢者、障害者等の多様な利用状況を踏まえて、多面的な視点からアクセシビリティ（交通の利便性、利用しやすさ等）に配慮するとともに、ハード・ソフトの両面から、ユニバーサルデザイン・バリアフリーによる整備や必要な移動手段の確保等を検討することとしています。</p> <p>このことから、移動手段の確保に資する取組として、無料の巡回バスや事業の実施状況等に応じた無料の送迎サービスなどの移動手段を検討して参ります。</p> <p>また、地域共生社会の充実に向けたまちづくりの推進として、次期バリアフリー基本構想において、京王多摩川駅周辺地区を「重点整備地区」に位置付けて参ります。</p> <p>併せて、京王多摩川駅舎の利便性向上の取組として、ホームと車両の隙間対策やホームから施設までの移動の円滑化、設備のバリアフリー化等や競輪等イベント開催時の利用者の安全な動線確保について、事業者を含めて協議を重ねて参ります。</p> <p>災害対応としては、台風等による被害のおそれが想定される場合には、風雨の影響等を総合的に考慮して、あらかじめ総合福祉センターの利用を一時的に休館し、通所等を行わないよう措置を講じます。</p> <p>また、施設の階の高さについて、浸水高を考慮した5m以上とするとともに、主要な設備等を2階以上に配置することにより、風水害時の被災を低減し、施設の早期復旧を目指します。なお、大規模水害等により、早期復旧に時間を要する場合には、他の施設での臨時的・代替的なサービ</p>

項目	No	御意見等の概要	市の考え方
			<p>スの提供が行えるよう調整を図ります。</p> <p>福祉避難所の対応としては、風水害時は福祉避難所に指定された各公共施設等で要支援者の避難対応を行うこととなります。令和元年の台風第19号の事例では、現総合福祉センターに避難された方がおられたことを踏まえ、調布駅近傍の文化会館たづくり1階に要配慮者スペースを確保し、開設・運営においては、避難所担当職員を中心とした人員配置により対応して参ります。</p> <p>風水害時における発災前から発災後までの段階ごとの課題分析を踏まえ、今後も引き続き、新たな総合福祉センター機能の確保等を検討して参ります。</p> <p>市としましては、今後、「整備に関する考え方」を踏まえて、「(仮称)新たな総合福祉センターの機能や設備に関する検討会」を開催し、新たな総合福祉センターの機能や設備、調布駅周辺の福祉機能などについて、より具体的な検討を進めて参りたいと考えております。</p> <p>併せて、この検討会とは別に、適宜、関係団体や利用者等と、新たな総合福祉センターの機能、設備等について、意見交換会を実施し、広くご意見を伺いたいと思っております。</p>
<p>3節 場所（移転先候補） （案） P18</p>	7	<p>取り急ぎ申し上げます。</p> <p>グリーンホール建て替えに伴い、調布市総合福祉センターが多摩川に移転すると聞きました。それに関して大きな危惧が二つあります。</p> <p>①福祉に関する相談の必要な人たちにとって、調布駅前という立地は必須です。わかりやすい位置にあり、交通費を余分に払わなくて済む場所にあるからこそ、忙しい時間をぬって相談に来られるのです。小さな利便性ではないんです。福祉こそ最優先に考え、総合福祉センター相談窓口は調布駅前に残して下さい。</p> <p>②学習支援のこあも同じく駅前にあることが必須です。勉強が間に合わない生活困窮家庭の子供達は慣れ親しんだ場所から移動したり、通うのが不便な場所へ行くというのは私たちが想像する以上に難しいことなんです。困っている人にこそ便利な駅前の場所を提供することが福祉の街調布の使命なのではないでしょうか？</p> <p>以上の理由から調布市総合福祉センターの機能、相談窓口を調布駅前に残すことを切にお願い致します。</p> <p>マスコミや都議会にも訴えていきます。</p>	<p>総合福祉センターの機能や設備等については、現行機能の維持を基本として、一部拡充も含め必要な床面積を確保するとともに、上下移動の少ないフロアに機能を集約し、必要な機能改善の検討等を行って参ります。こうした方向を踏まえて、障害者等に配慮した通路幅員の確保、駐車場や屋根のある車寄せの設置など基本機能の向上に資する機能の整備を検討して参ります。</p> <p>また、調布駅周辺の福祉機能については、調布駅周辺の公共・民間施設を活用することにより、安心して相談などができる相談機能をはじめとして、交流・居場所機能や福祉機能等について、確保することを検討して参ります。</p> <p>そのため、今後も、関係団体や利用者等の御意見を伺いながら、福祉サービスの実施状況や福祉施策を取り巻く社会状況等を勘案して、必要な施設機能を整備して参ります。</p>
<p>3節 場所（移転先候補） （案） P18</p>	8	<p>現在の老朽化した福祉センターを考えると新しい施設が必要なことは当然のことと思います。ただし、場所が京王多摩川というのが理解できかねます。市内北側に住んでいると京王多摩川はなかなか行きにくいところです。</p> <p>現在調布市内の公共交通はほとんど調布駅とそれぞれの場所を結び形で市住民が集まる（特に手段の限られた高齢者）には調布駅周辺が便がいい場所です。もしどうしても京王多摩川に移転ということであれば、調布駅と京王多摩川駅を結ぶバスの導入を検討いただきたいと思います。調布病院が出している無料バスに市民も同乗できるような形を考えてもいいのではないのでしょうか。</p> <p>なお、施設には多世代交流の拠点もあっていいのではないのでしょうか。（参考例：千代田区かがやきプラザ）</p>	<p>施設機能の移転先候補については、利用者の利便性の確保や継続的な福祉サービスを提供することを前提として、これまで、市内の民有地、公有地について様々な可能性を模索して参りました。</p> <p>施設機能の移転先候補の検討に当たっては、交通アクセスとして最寄りの駅やバス停、市役所からの距離をはじめ、センター機能の移転や周辺福祉施設機能の移転に必要な床面積の確保、土地や事業床の保有形態、早期の機能移転先としての可能性等など複数の視点から検討を行って参りました。</p> <p>その結果、これまで、令和元年11月に京王電鉄から市にまちづくり提案のあった京王多摩川駅周辺地区における駅前複合拠点地区を最有力候補として検討を進めて参りました。これにより、当該地区への移転に向けた取組を進めることを「整備に関する考え方」の基本的な方向としてとりまとめたものです。</p> <p>「整備に関する考え方」では、移転・更新に当たっては、高齢者、障害</p>

項目	No	御意見等の概要	市の考え方
			<p>者等の多様な利用状況を踏まえて、多面的な視点からアクセシビリティ（交通の利便性、利用しやすさ等）に配慮するとともに、ハード・ソフトの両面から、ユニバーサルデザイン・バリアフリーによる整備や必要な移動手段の確保等を検討することとしています。</p> <p>このことから、移動手段の確保に資する取組として、無料の巡回バスや事業の実施状況等に応じた無料の送迎サービスなどの移動手段を検討して参ります。</p> <p>また、地域共生社会の充実に向けたまちづくりの推進として、次期バリアフリー基本構想において、京王多摩川駅周辺地区を「重点整備地区」に位置付けて参ります。</p> <p>併せて、京王多摩川駅舎の利便性向上の取組として、ホームと車両の隙間対策やホームから施設までの移動の円滑化、設備のバリアフリー化等や競輪等イベント開催時の利用者の安全な動線確保について、事業者を含めて協議を重ねて参ります。</p> <p>市は、これまでも多世代や多様な主体が交流する機会を通じて、市民の福祉に対する理解をより深めていくという、地域共生社会の考え方にも通じる理念の下、総合福祉センターを運営して参りました。今後、総合福祉センターの移転・更新を進めるうえでも、こうした基本理念が重要であるとの認識は、今後も変わるものではありません。そのため、新たな総合福祉センターが、地域共生社会を充実するための総合的な福祉の拠点であるという理念を具体化し、地域に開かれた親しみやすい総合的な福祉の拠点となるよう、引き続き、利用者や関係団体等に御理解いただきながら、取り組んで参ります。</p>
<p>4節 京王多摩川駅周辺のまちづくり（案） P20</p>	<p>9</p>	<p>素案を示してくださりありがとうございました。</p> <p>○私は調布に移り住み、子育てしながら41年になります。</p> <p>その間、私鉄運営ながら公園は百花苑からフローラルガーデンへと引き継がれ、年月を経て、木立ちが「アンジェの森」へと成長してきたさまを身近に見、楽しませていただいた者の一人です。</p> <p>○素案を何度も読みました。</p> <p>そこには市の抱える諸問題、苦渋がわかり易く示されて居り、私個人の思い(木立ち=森を残してほしい)など遠く及ばない現実を突き付けられ衝撃を受けました。</p> <p>市の現状と未来への構想と展望、国の求め、京王電鉄の運営と思惑など三位一体のように合致してしまったところから生まれた素案なのですね。</p> <p>今まさに、私個人、私たち市民は時代の変化、要望という大きなうねりのただ中に立たされているのだと実感しました。</p> <p>○しかし個人の願いなど及びはしないとわかってはいるながらも意見を申し上げることが出来ますなら、なるだけ、誇らしい・小さな自然(木立ちの森)を守るというスタンスで必要な計画がすすめられますよう心から願うものです。</p> <p>素案の絵図によるとB棟だけではなく、A棟、C棟をも案があり、それでは残念ながら残せる樹木などは自ずから少ないことでしょう。</p> <p>A棟、C棟を建てないという代替案はないものでしょうか</p> <p>○今となっては、大都会の中のこの地に京王電鉄が守り育ててくれた「ガーデンの森」のあったことは奇蹟のようにも思えます。</p> <p>市の行政に係わる方々のご苦労とご努力に思いを致しつつ京王電鉄の運営姿勢と企業努力に敬意と感謝を心から申し上げます。</p>	<p>京王多摩川駅周辺のまちづくりの方向(案)としては、新たな総合福祉センターの基本コンセプトとも整合を図りながら、「地域共生社会に向けた多世代が共に生き 多様な主体が交流する コンパクトなまちづくり」としています。</p> <p>また、総合福祉センターと京王多摩川駅周辺地区まちづくりの連動のメリットとしては、「新たなセンター機能と、まちづくり全体の医療、子育て支援機能等との調和」が期待されることに加え、「憩い・レクリエーションの場や公園・広場等の確保による多世代・多様な主体が交流する機能の創出」や、「商業機能、生活利便機能等との複合化による利便性の向上」により、地域の特性を活かしたまちづくりや、地域共生社会の充実に向けた取組が一層推進されると考えています。</p>

項目	No	御意見等の概要	市の考え方
<p>4節 京王多摩川駅周辺のまちづくり（案） P21～24</p>	10	<p>駅構内について（京王電鉄への要望）</p> <ul style="list-style-type: none"> ホームがカーブになっていて、障害のある方が歩けるホームではないと思います。 エレベーターが、駅の端にありとても小さなエレベーターで車いすが乗りません。もちろん改善していただけたらと思いますが、その際駅の端はやめていただけたらありがたいです。 私も、杖をつくほどではありませんが足を患っており、エスカレーターがなくエレベーターのみの駅は非常にづらいです。ぜひエスカレーターの設置をお願いします。 福祉センター直結の駅であるならば、ホームドアの設置は必須だと思います。 <p>調布駅前に残してほしい機能</p> <ul style="list-style-type: none"> 今の「団体室」的な部屋、印刷室、社協の窓口は欲しいです。 <p>福祉避難所について</p> <ul style="list-style-type: none"> 水害時、総合福祉センターが避難所としての機能を果たせないのが心配です。必ず、代わりとなる案を早急に出してほしいと思います。 <p>基本的に、福祉が利点であった調布市が、調布駅前から撤退することはとても残念な気持ちでいっぱいです。でも、さまざまな理由で移転せざるを得ない事情は理解できます。ですから、京王多摩川駅が使いやすくなり、みんなが今と同じように通える総合福祉センターが京王多摩川駅にできることを、心から願っています。</p>	<p>「整備に関する考え方」では、移転・更新に当たっては、高齢者、障害者等の多様な利用状況を踏まえて、多面的な視点からアクセシビリティ（交通の利便性、利用しやすさ等）に配慮するとともに、ハード・ソフトの両面から、ユニバーサルデザイン・バリアフリーによる整備や必要な移動手段の確保等を検討することとしています。</p> <p>このことから、移動手段の確保に資する取組として、無料の巡回バスや事業の実施状況等に応じた無料の送迎サービスなどの移動手段を検討して参ります。</p> <p>また、地域共生社会の充実に向けたまちづくりの推進として、次期バリアフリー基本構想において、京王多摩川駅周辺地区を「重点整備地区」に位置付けて参ります。</p> <p>併せて、京王多摩川駅舎の利便性向上の取組として、ホームと車両の隙間対策やホームから施設までの移動の円滑化、設備のバリアフリー化等や競輪等イベント開催時の利用者の安全な動線確保について、事業者を含めて協議を重ねて参ります。</p> <p>災害対応としては、台風等による被害のおそれが想定される場合には、風雨の影響等を総合的に考慮して、あらかじめ総合福祉センターの利用を一時的に休館し、通所等を行わないよう措置を講じます。</p> <p>また、施設の階の高さについて、浸水高を考慮した5m以上とするとともに、主要な設備等を2階以上に配置することにより、風水害時の被災を低減し、施設の早期復旧を目指します。なお、大規模水害等により、早期復旧に時間を要する場合には、他の施設での臨時的・代替的なサービスの提供が行えるよう調整を図ります。</p> <p>福祉避難所の対応としては、風水害時は福祉避難所に指定された各公共施設等で要支援者の避難対応を行うこととなります。令和元年の台風第19号の事例では、現総合福祉センターに避難された方がおられたことを踏まえ、調布駅近傍の文化会館たづくり1階に要配慮者スペースを確保し、開設・運営においては、避難所担当職員を中心とした人員配置により対応して参ります。</p> <p>風水害時における発災前から発災後までの段階ごとの課題分析を踏まえ、今後も引き続き、新たな総合福祉センター機能の確保等を検討して参ります。</p> <p>総合福祉センターの機能や設備等については、現行機能の維持を基本として、一部拡充も含め必要な床面積を確保するとともに、上下移動の少ないフロアに機能を集約し、必要な機能改善の検討等を行って参ります。こうした方向を踏まえて、障害者等に配慮した通路幅員の確保、駐車場や屋根のある車寄せの設置など基本機能の向上に資する機能の整備を検討して参ります。</p> <p>また、調布駅周辺の福祉機能については、調布駅周辺の公共・民間施設を活用することにより、安心して相談などができる相談機能をはじめとして、交流・居場所機能や福祉機能等について、確保することを検討して参ります。</p> <p>そのため、今後も、関係団体や利用者等の御意見を伺いながら、福祉サービスの実施状況や福祉施策を取り巻く社会状況等を勘案して、必要な施設機能を整備して参ります。</p>

項目	No	御意見等の概要	市の考え方
4節 京王多摩川駅周辺のまちづくり(案) P21~24	11	<p>現在のセンターは非常に良いロケーションにあると思います。</p> <p>できればここに改築が望ましいところですが、もし移転が必要となるのであるなら、最低限相談窓口だけでも現在地に残すことを希望します。</p> <p>市民が福祉センターに行こうと思ったときに、気軽に抵抗なく入れることが何よりも大切なのです。また市民の多くの人々の目に、その存在が入ることが大切です。駅前広場に面していれば、「まずはあそこで相談してみよう」と思うでしょう。</p> <p>相談から先の活動などは、移転候補の京王多摩川でも良いと思います。</p> <p>経費の点で2カ所に分割が無理ならば、駅前商業施設(トリエ)の一部を借りるという発想もありかと思います。</p>	<p>総合福祉センターの機能や設備等については、現行機能の維持を基本として、一部拡充も含め必要な床面積を確保するとともに、上下移動の少ないフロアーに機能を集約し、必要な機能改善の検討等を行って参ります。こうした方向を踏まえて、障害者等に配慮した通路幅員の確保、駐車場や屋根のある車寄せの設置など基本機能の向上に資する機能の整備を検討して参ります。</p> <p>また、調布駅周辺の福祉機能については、調布駅周辺の公共・民間施設を活用することにより、安心して相談などができる相談機能をはじめとして、交流・居場所機能や福祉機能等について、確保することを検討して参ります。</p> <p>そのため、今後も、関係団体や利用者等の御意見を伺いながら、福祉サービスの実施状況や福祉施策を取り巻く社会状況等を勘案して、必要な施設機能を整備して参ります。</p>
4節 京王多摩川駅周辺のまちづくり(案) P21~24	12	<p>総合福祉センターは災害時避難場所となっています。風水害時でも身体の不自由な方の避難場所となっています。しかし、京王多摩川周辺はハザードマップで危険区域となっています。風水害時、京王多摩川周辺の道路が冠水することが想定され、そんな場所に避難できるでしょうか。2019年の台風19号時、福祉センターに避難し、職員の方の心のこもった対応、畳の部屋でとてもリラックスできたことなど聞いています。是非とも駅前グリーンホール横に残る福祉センターの部署に避難所として使えるスペースを作ってください、残してください。そして、移転する福祉センターにも災害時避難場所として使えるよう工夫をお願いいたします。</p> <p>京王多摩川駅ですが、身体の不自由な方には利用しにくい駅と思います。移転完成までに京王電鉄に、駅のバリアフリー化をしていただければ幸いです。駅から直接センターへ入れるととても助かります。よろしくをお願いいたします。</p>	<p>「整備に関する考え方」では、移転・更新に当たっては、高齢者、障害者等の多様な利用状況を踏まえて、多面的な視点からアクセシビリティ(交通の利便性、利用しやすさ等)に配慮するとともに、ハード・ソフトの両面から、ユニバーサルデザイン・バリアフリーによる整備や必要な移動手段の確保等を検討することとしています。</p> <p>このことから、移動手段の確保に資する取組として、無料の巡回バスや事業の実施状況等に依じた無料の送迎サービスなどの移動手段を検討して参ります。</p> <p>また、地域共生社会の充実に向けたまちづくりの推進として、次期バリアフリー基本構想において、京王多摩川駅周辺地区を「重点整備地区」に位置付けて参ります。</p> <p>併せて、京王多摩川駅舎の利便性向上の取組として、ホームと車両の隙間対策やホームから施設までの移動の円滑化、設備のバリアフリー化等や競輪等イベント開催時の利用者の安全な動線確保について、事業者を含めて協議を重ねて参ります。</p> <p>災害対応としては、台風等による被害のおそれが想定される場合には、風雨の影響等を総合的に考慮して、あらかじめ総合福祉センターの利用を一時的に休館し、適所等を行わないよう措置を講じます。</p> <p>また、施設の階の高さについて、浸水高を考慮した5m以上とするとともに、主要な設備等を2階以上に配置することにより、風水害時の被災を低減し、施設の早期復旧を目指します。なお、大規模水害等により、早期復旧に時間を要する場合には、他の施設での臨時的・代替的なサービスの提供が行えるよう調整を図ります。</p> <p>福祉避難所の対応としては、風水害時は福祉避難所に指定された各公共施設等で要支援者の避難対応を行うこととなります。令和元年の台風第19号の事例では、現総合福祉センターに避難された方がおられたことを踏まえ、調布駅近隣の文化会館たづくり1階に要配慮者スペースを確保し、開設・運営においては、避難所担当職員を中心とした人員配置により対応して参ります。</p> <p>風水害時における発災前から発災後までの段階ごとの課題分析を踏まえ、今後も引き続き、新たな総合福祉センター機能の確保等を検討して参ります。</p>

項目	No	御意見等の概要	市の考え方
<p>4節 京王多摩川駅周辺のまちづくり(案) P21~24</p>	<p>13</p>	<p>ここで掲げられている「地域共生社会を実現するための総合的な福祉の拠点」については、今日的な課題に正面から向き合ったコンセプトであり、京王多摩川の街づくりと合わせて行われることは、福祉圏域の活性化にも資するものとして評価します。</p> <p>この点から、まず、高齢者福祉の相談拠点となっている同一圏域の地域包括支援センターと連携を図りながら、一体的な相談支援や地域ケア会議の開催が行われるように配慮する必要があります。</p> <p>また、「地域共生社会を実現するための総合的な福祉の拠点」に掲げた3点を実現するためには、新たな総合福祉センターが単なる雑居ビルになることなく、そこに拠点を移す各機関が総合に連携し、市民を巻き込んだ具体的な事業展開を図る必要があります。その際、「京王多摩川駅周辺地区まちづくりとの連動メリット」に掲げている事項を具体化する推進機関が必要となります。そこで、同センターに入る団体のみならず、近隣の保育園やビル管理会社、周辺の児童館、地域住民を含めた協議の場を設けるなど、このコンセプトを具体化する仕組みが重要になると考えます。</p> <p>最後に、アクセシビリティ（交通利便性、利用しやすさ等）の考え方においては、京王多摩川駅周辺のまちづくりの中で、多面的なアクセシビリティに配慮することに加え、京王多摩川駅舎や周辺地域のバリアフリー化また、心のバリアフリーの啓発など、ハード・ソフト両面から配慮が必要であると考えます。</p>	<p>新たな総合福祉センターは、その基本的な理念として「地域共生社会を実現するための総合的な福祉の拠点」を掲げ、ユニバーサルデザイン、バリアフリーへの対応をはじめとして、駅から至近距離にある場所へ移転することなど、利用者、来館者の利便性に配慮した施設機能等の検討を進めています。</p> <p>「整備に関する考え方」では、移転・更新に当たっては、高齢者、障害者等の多様な利用状況を踏まえて、多面的な視点からアクセシビリティ（交通の利便性、利用しやすさ等）に配慮するとともに、ハード・ソフトの両面から、ユニバーサルデザイン・バリアフリーによる整備や必要な移動手段の確保等を検討することとしています。</p> <p>このことから、移動手段の確保に資する取組として、無料の巡回バスや事業の実施状況等に応じた無料の送迎サービスなどの移動手段を検討して参ります。</p> <p>また、地域共生社会の充実に向けたまちづくりの推進として、次期バリアフリー基本構想において、京王多摩川駅周辺地区を「重点整備地区」に位置付けて参ります。</p> <p>併せて、京王多摩川駅舎の利便性向上の取組として、ホームと車両の隙間対策やホームから施設までの移動の円滑化、設備のバリアフリー化等や競輪等イベント開催時の利用者の安全な動線確保について、事業者を含めて協議を重ねて参ります。</p>
<p>4節 京王多摩川駅周辺のまちづくり(案) P21~24</p>	<p>14</p>	<p>障害児の母です。 障害児、者親の会で活動もしております。 社協の相談窓口、印刷室・団体室、障害者団体のロッカーなどを駅前の施設に何かしらのかたちで、残して頂きたいです。びっころも移転してしまうと、行きづらくなります。送迎バスなど検討してください。宜しくお願い致します。</p>	<p>「整備に関する考え方」では、移転・更新に当たっては、高齢者、障害者等の多様な利用状況を踏まえて、多面的な視点からアクセシビリティ（交通の利便性、利用しやすさ等）に配慮するとともに、ハード・ソフトの両面から、ユニバーサルデザイン・バリアフリーによる整備や必要な移動手段の確保等を検討することとしています。</p> <p>このことから、移動手段の確保に資する取組として、無料の巡回バスや事業の実施状況等に応じた無料の送迎サービスなどの移動手段を検討して参ります。</p> <p>また、地域共生社会の充実に向けたまちづくりの推進として、次期バリアフリー基本構想において、京王多摩川駅周辺地区を「重点整備地区」に位置付けて参ります。</p> <p>併せて、京王多摩川駅舎の利便性向上の取組として、ホームと車両の隙間対策やホームから施設までの移動の円滑化、設備のバリアフリー化等や競輪等イベント開催時の利用者の安全な動線確保について、事業者を含めて協議を重ねて参ります。</p> <p>総合福祉センターの機能や設備等については、現行機能の維持を基本として、一部拡充も含め必要な床面積を確保するとともに、上下移動の少ないフロアーに機能を集約し、必要な機能改善の検討等を行って参ります。こうした方向を踏まえて、障害者等に配慮した通路幅員の確保、駐車場や屋根のある車寄せの設置など基本機能の向上に資する機能の整備を検討して参ります。</p> <p>また、調布駅周辺の福祉機能については、調布駅周辺の公共・民間施設を活用することにより、安心して相談などができる相談機能をはじめとして、交流・居場所機能や福祉機能等について、確保することを検討して参ります。</p>

項目	No	御意見等の概要	市の考え方
4節 京王多摩川駅周辺のまちづくり(案) P21~24	15	<p>長男に障害がありお世話になっております。いつもありがとうございます。福祉センターが調布駅前から移転してしまうことが決定したと知り非常に残念に思っています。</p> <p>利便性の良いところから、不便な場所への移転は、時代に逆行していると思うのです。相談の為に来所したくても、行くのがますます難しくなりますし、福祉活動を行う際にも支障をきたすと思うのです。</p> <p>社協の相談窓口、印刷室・団体室、障害者団体のロッカーなどは、調布駅前に残してくださいようご検討を何卒お願い申し上げます。</p>	<p>そのため、今後も、関係団体や利用者等の御意見を伺いながら、福祉サービスの実施状況や福祉施策を取り巻く社会状況等を勘案して、必要な施設機能を整備して参ります。</p> <p>「整備に関する考え方」では、移転・更新に当たっては、高齢者、障害者等の多様な利用状況を踏まえて、多面的な視点からアクセシビリティ（交通の利便性、利用しやすさ等）に配慮するとともに、ハード・ソフトの両面から、ユニバーサルデザイン・バリアフリーによる整備や必要な移動手段の確保等を検討することとしています。</p> <p>このことから、移動手段の確保に資する取組として、無料の巡回バスや事業の実施状況等に応じた無料の送迎サービスなどの移動手段を検討して参ります。</p> <p>また、地域共生社会の充実に向けたまちづくりの推進として、次期バリアフリー基本構想において、京王多摩川駅周辺地区を「重点整備地区」に位置付けて参ります。</p> <p>併せて、京王多摩川駅舎の利便性向上の取組として、ホームと車両の隙間対策やホームから施設までの移動の円滑化、設備のバリアフリー化等や競輪等イベント開催時の利用者の安全な動線確保について、事業者を含めて協議を重ねて参ります。</p> <p>総合福祉センターの機能や設備等については、現行機能の維持を基本として、一部拡充も含め必要な床面積を確保するとともに、上下移動の少ないフロアに機能を集約し、必要な機能改善の検討等を行って参ります。こうした方向を踏まえて、障害者等に配慮した通路幅員の確保、駐車場や屋根のある車寄せの設置など基本機能の向上に資する機能の整備を検討して参ります。</p> <p>また、調布駅周辺の福祉機能については、調布駅周辺の公共・民間施設を活用することにより、安心して相談などができる相談機能をはじめとして、交流・居場所機能や福祉機能等について、確保することを検討して参ります。</p> <p>そのため、今後も、関係団体や利用者等の御意見を伺いながら、福祉サービスの実施状況や福祉施策を取り巻く社会状況等を勘案して、必要な施設機能を整備して参ります。</p>
4節 京王多摩川駅周辺のまちづくり(案) P21~24	16	<p>調布市福祉まつりは、調布駅前で行うからこそ、興味のない人もたまたま通って、バザーを見たり、出し物を見ることで、福祉への興味が広がるきっかけになると思う。</p> <p>福祉まつりは、引き続き、調布駅前を実施してほしい。その際、今は福祉センターに荷物を一時置いたり、休憩できる場所を提供してもらったり、展示したりなどもできているが、本拠地が京王多摩川に移っても、小さい会議室や相談窓口は駅前に残してほしい。</p> <p>福祉まつりをきっかけに、相談に来る人などは、調布駅前でない、相談やボランティアの申し出などは、なかなか難しいと思う。その後、京王多摩川につなぐとしても、調布駅前最低限のものは残してほしい。その際、福祉に関わる相談や打ち合わせは、個人情報も関わるので、オープンスペースでなく、会議室が必要だと思う。</p> <p>障害者が優先して使える、団体室は、駅前に残してほしい。</p>	<p>総合福祉センターの機能や設備等については、現行機能の維持を基本として、一部拡充も含め必要な床面積を確保するとともに、上下移動の少ないフロアに機能を集約し、必要な機能改善の検討等を行って参ります。こうした方向を踏まえて、障害者等に配慮した通路幅員の確保、駐車場や屋根のある車寄せの設置など基本機能の向上に資する機能の整備を検討して参ります。</p> <p>また、調布駅周辺の福祉機能については、調布駅周辺の公共・民間施設を活用することにより、安心して相談などができる相談機能をはじめとして、交流・居場所機能や福祉機能等について、確保することを検討して参ります。</p> <p>そのため、今後も、関係団体や利用者等の御意見を伺いながら、福祉サービスの実施状況や福祉施策を取り巻く社会状況等を勘案して、必要な施設機能を整備して参ります。</p>

項目	No	御意見等の概要	市の考え方
<p>4節 京王多摩川駅周辺のまちづくり（案） P21～24</p>	17	<p>7月7日午後の意見交換会で、「びっころ」について保護者の送迎が大変な負担となり子どもたちの活動時間も減ってしまうため、「びっころ」だけ今までどおり調布駅近くに残してほしいと意見を述べさせていただきました。「びっころ」も共生社会の地域拠点となる新しいセンターの中に置くことに意味があるというご回答でした。</p> <p>「びっころ」は送迎がないため、多くの保護者は送迎を負担に感じながら、「びっころ」の音楽療法を受けたい気持ちから利用しています。これ以上送迎に時間を要する場所に移動されたら、現に利用している方でも利用を諦める方は出てくると思われます。シャトルバスの運行を検討されるというお話がありましたが、限られた放課後の時間に十分な活動時間を確保できるほどの便数は難しいと思います。京王多摩川の駅はホームの形状、階段が急なことなど考えるとできれば利用を避けたいところであり、京王間の競輪開催日など駅はどのような状況なのか不安があります。「びっころ」が新しいセンターに移転されるなら、せめて学校へのお迎え、自宅への送りを検討いただきますようお願いいたします。</p>	<p>放課後等デイサービス「びっころ」について、移転後は、現在の調布駅周辺よりも送迎の負担が増えてしまう方もいらっしゃることから、アクセシビリティの視点を踏まえ、実施状況等に応じた無料の送迎サービスなどの移動手段を検討します。</p>
<p>4節 京王多摩川駅周辺のまちづくり（案） P21～24</p>	18	<p>放課後デイサービスびっころに、特別支援学校小学部1年の息子を通わせている保護者です。7月14日に、福祉サービス利用者・家族向けに実施された意見交換会にも参加させて頂きました。少人数の市民に対して手厚い対応を頂き、質問にも丁寧に答えて頂きました。ありがとうございました。その場面でも申し上げたのですが、以下、何卒ご検討頂きたいです。</p> <p>■送迎バスの設置</p> <p>意見交換会では、「放課後デイびっころの子ども専用としての送迎バスというより、総合福祉センターの利用者全体を見据えてのシャトルバスの運用の方向で検討中」というような回答を頂きました。ただ、まだ全く具体的に決める前の段階で、今後当事者の意見を聞きながら決めていただけたらとのことでした。そこで、もう少しこちらにて意見を述べさせていただきます。</p> <p>電車での移動は、自閉症とADHDの障害を持つ息子にとって、一人での移動は当然不可、親と一緒に立ち歩いてしまったり、声をあげてしまったりと、他の乗客の方に多大なる迷惑をかけてしまうため、普段からなるべく避けております。なので、シャトルバスを運用していただけることは、ないよりは有り難い話ですが、バスでも息子のコンディションによっては、正直同様の症状が出てしまうこともよくあります。ですので、他の放課後デイサービスでは、自宅近隣までの送迎が可能のため、保護者としてはこの、総合福祉センターの移転を機会に、びっころも利用児童専用の送迎の対応をして頂くことが一番の希望です。びっころの送迎については市では関与できないということがあるかもしれませんが、それならば、ぜひびっころが送迎に着手できるよう、連携・助成をお願いしたいです。今回の総合福祉センターの移転の計画の影響で、びっころに生じることとなる問題だと思っておりますので、市のほうからのびっころへの協力はあって然るべきかと思っております。保護者間で、ただでさえびっころは音楽療法が魅力的だが、送迎がないので通わせられないという意見が多いのに、調布より交通の便の悪い京王多摩川になってしまうと、利用者も減ってしまい、びっころの運営にも影響がでてしまう恐れもあります。先生方や職員の方の対応もよく、息子もすぐに慣れ、とても楽しく通っています。どうか、このような療育の機会が失われないよう、最大限の行政からの最大限の手助けをお願い申し上げます。</p> <p>また、私は当事者ではないのですが、不登校の子どもたちをサポートする「ここあ」という場も現在、総合福祉センターで行われているとうかがっています。こちらを利用している子どもたちも全くもって同様です。支援してくださっているアルバイトの方は電通大の学生さんも多いとのこと、やはり交通の利便性が懸念されます。どうぞあわせてご検討ください。</p> <p>びっころ・ここあなどの子どもたち向けの送迎バスについて、今後具体的に決めていく行</p>	<p>「整備に関する考え方」では、移転・更新に当たっては、高齢者、障害者等の多様な利用状況を踏まえて、多面的な視点からアクセシビリティ（交通の利便性、利用しやすさ等）に配慮するとともに、ハード・ソフトの両面から、ユニバーサルデザイン・バリアフリーによる整備や必要な移動手段の確保等を検討することとしています。</p> <p>このことから、放課後等デイサービス「びっころ」について、移転後は、現在の調布駅周辺よりも送迎の負担が増えてしまう方もいらっしゃるから、アクセシビリティの視点を踏まえ、実施状況等に応じた無料の送迎サービスなどの移動手段を検討します。</p> <p>また、地域共生社会の充実に向けたまちづくりの推進として、次期バリアフリー基本構想において、京王多摩川駅周辺地区を「重点整備地区」に位置付けて参ります。</p> <p>併せて、京王多摩川駅舎の利便性向上の取組として、ホームと車両の隙間対策やホームから施設までの移動の円滑化、設備のバリアフリー化等や競輪等イベント開催時の利用者の安全な動線確保について、事業者を含めて協議を重ねて参ります。</p>

項目	No	御意見等の概要	市の考え方
		<p>程に入って行く際には、ぜひまた当事者向けの意見交換会を複数回開いて頂きたいです。ぜひ参加させてください。意見を取り入れて頂きながら、様々な事情とすり合わせて進めていけると、幸いに思います。</p> <p>■京王多摩川駅からの導線 京王多摩川は競輪場がある駅のため、正直治安についても不安があります。「意見交換会の中でも他の方がおっしゃっていた意見ですが、なるべく競輪場を利用される方々と子どもたちが遭遇しなくてすむような、駅からの導線の工夫をお願いしたいです。気をつける」ということのできない、障害のある子どもたちが出入りする場なので、何かトラブルが起こることを未然に防げるような設計にして頂くことが、必要かと思えます。京王多摩川駅は現状高架駅なので、例えば総合福祉センターの入る予定の B 棟まで直結の2階通路のようなもので繋いで頂くなど、方法はあるかと思えますので、ぜひご配慮いただけることを望みます。</p> <p>ここまで長々と意見を記載させて頂き、恐縮です。市民の声を取り入れてくださる機会を頂き、ありがとうございます。3年後の移転まで、その都度進捗報告やフィードバックを発信頂けると幸いです。こちらからもアンテナを張っておきます。何卒よろしくお願い申し上げます。</p>	
<p>4節 京王多摩川駅周辺のまちづくり(案) P21~24</p>	<p>19</p>	<p>1 移転計画の議論の印象 総合福祉センター移転計画では、将来の調布市の福祉の理想型がデザインされています。しかし、現在の調布市の足元の福祉現場の現実から目をそらしてしまっているのではないかと、私にはそう見えます。</p> <p>2 アクセシビリティのメリットは本当にあるのでしょうか？ 京王多摩川移転候補地は駅近の利便性が強調されていますが、それは健常者にとっては許容できることでも、移動に何らかの困難を抱えている障害者、高齢者、児童などの皆さん方には、許容できない。そのことを、まず認識すべきです。 有力候補地に移転した場合、京王多摩川駅「駅近」在住の住民以外は、概ねアクセスの距離も時間も現在の倍となることが予想されます。その上、途中経路の危険が増大することが危惧されます。 この移転計画のままでは、障害者などのマイノリティの方々の方が居場所や行き場を失うことになってしまうことを意味します。移転計画を推進することによって、本来福祉を必要とするマイノリティの方々、福祉行政から切り捨てられる、見捨てられる結果となってしまうことが必至と考えます。</p> <p>3 調布市民の福祉を、営利目的の一民間企業の善意に委ねて良いものでしょうか？ 昨年のコロナ禍において、企業への経営圧迫と採算悪化を理由として、京王バスの北部循環ミニバスが、突如、路線廃止にも等しい大幅減便となってしまいました。このことから、福祉政策の理想は、営利を目的とする一民間企業の地域開発事業に相乗りし、民間への福祉依存度を一挙に高めてしまうことが、決して望ましいものではないことを実感致しました。50年の将来を見据えた福祉プランにしてください。マイノリティの方々の方々の居場所、行き場所は、まず今の総合福祉センター付近に確保した後、その上で、移動への影響が少ない健常者だけを対象とする移転計画に変更すべきと考えます。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>	<p>「整備に関する考え方」では、移転・更新に当たっては、高齢者、障害者等の多様な利用状況を踏まえて、多面的な視点からアクセシビリティ（交通の利便性、利用しやすさ等）に配慮するとともに、ハード・ソフトの両面から、ユニバーサルデザイン・バリアフリーによる整備や必要な移動手段の確保等を検討することとしています。</p> <p>このことから、移動手段の確保に資する取組として、無料の巡回バスや事業の実施状況等に応じた無料の送迎サービスなどの移動手段を検討して参ります。</p> <p>また、地域共生社会の充実に向けたまちづくりの推進として、次期バリアフリー基本構想において、京王多摩川駅周辺地区を「重点整備地区」に位置付けて参ります。</p> <p>併せて、京王多摩川駅舎の利便性向上の取組として、ホームと車両の隙間対策やホームから施設までの移動の円滑化、設備のバリアフリー化等や競輪等イベント開催時の利用者の安全な動線確保について、事業者を含めて協議を重ねて参ります。</p> <p>整備及び管理運営については、総合管理計画の基本方針等に基づき、民間の技術、ノウハウ、資金等を活用した最適なPPP（公民連携）手法を検討し、効果的な活用を行うことで、整備及び管理運営等に関するサービス向上を図って参ります。</p> <p>市は、これまで多世代や多様な主体が交流する機会を通じて、市民の福祉に対する理解をより深めていくという、地域共生社会の考え方にも通じる理念の下、総合福祉センターを運営して参りました。今後、総合福祉センターの移転・更新を進めるうえでも、こうした基本理念が重要であるとの認識は、今後も変わるものではありません。そのため、新たな総合福祉センターが、地域共生社会を充実するための総合的な福祉の拠点であるという理念を具体化し、地域に開かれた親しみやすい総合的な福祉の拠点となるよう、引き続き、利用者や関係団体等に御理解いただきながら、取り組んで参ります。</p>

項目	No	御意見等の概要	市の考え方
4節 京王多摩川駅周辺のまちづくり(案) P21~24	20	<ul style="list-style-type: none"> ・京王多摩川駅の全面改修が、障害者が移転に賛成できるための条件だと思う。それが現実になるまでは、今の場所に残すことを希望する。 ・ホームが(京王多摩川)ゆがんでいて、電車との間があいていて、間に落ちた事故もあった。ホームをまっすぐには直せないと思うので、それなら、調布駅前に、障害者団体室や会議室を作ってほしい。京王多摩川までは、行けない人が多いと思う。 ・調布から京王多摩川までの往復は、バスだと420円、京王線だと260円。今までかからなかったお金がかかるので、特に年金しか収入のない障害者には無料チケットなどを出してほしい。 ・シャトルバスも、30分に一本だと、少なすぎるので15分に一本は最低、出してほしい。今より時間も手間もかかるので、それが合理的配慮ではないのだろうか。 	<p>「整備に関する考え方」では、移転・更新に当たっては、高齢者、障害者等の多様な利用状況を踏まえて、多面的な視点からアクセシビリティ(交通の利便性、利用しやすさ等)に配慮するとともに、ハード・ソフトの両面から、ユニバーサルデザイン・バリアフリーによる整備や必要な移動手段の確保等を検討することとしています。</p> <p>このことから、移動手段の確保に資する取組として、無料の巡回バスや事業の実施状況等に応じた無料の送迎サービスなどの移動手段を検討して参ります。</p> <p>また、地域共生社会の充実に向けたまちづくりの推進として、次期バリアフリー基本構想において、京王多摩川駅周辺地区を「重点整備地区」に位置付けて参ります。</p> <p>併せて、京王多摩川駅舎の利便性向上の取組として、ホームと車両の隙間対策やホームから施設までの移動の円滑化、設備のバリアフリー化等や競輪等イベント開催時の利用者の安全な動線確保について、事業者を含めて協議を重ねて参ります。</p> <p>総合福祉センターの機能や設備等については、現行機能の維持を基本として、一部拡充も含め必要な床面積を確保するとともに、上下移動の少ないフロアに機能を集約し、必要な機能改善の検討等を行って参ります。こうした方向を踏まえて、障害者等に配慮した通路幅員の確保、駐車場や屋根のある車寄せの設置など基本機能の向上に資する機能の整備を検討して参ります。</p> <p>また、調布駅周辺の福祉機能については、調布駅周辺の公共・民間施設を活用することにより、安心して相談などができる相談機能をはじめとして、交流・居場所機能や福祉機能等について、確保することを検討して参ります。</p> <p>そのため、今後も、関係団体や利用者等の御意見を伺いながら、福祉サービスの実施状況や福祉施策を取り巻く社会状況等を勘案して、必要な施設機能を整備して参ります。</p>
4節 京王多摩川駅周辺のまちづくり(案) P21~24	21	<p>子どもや若者の支援に関心を寄せている者です。</p> <p>特に、引きこもりがちであったり、前向きにがんばろうと思えない子ども、若者にとって、あまり行き慣れない場所に行くことのハードルが、とても高くなることを危惧しています。再び学校や社会に向き合う、家をまず一歩出してみる、という子どもや若者にとって、行きやすい場所であることは大事だと思います。可能であれば、調布駅周辺にそのような機能だけ残していただけたら。それが無理なら、調布駅から送迎バスがあるとか。駐輪も無料でできることは必須だと思います。</p>	<p>「整備に関する考え方」では、移転・更新に当たっては、高齢者、障害者等の多様な利用状況を踏まえて、多面的な視点からアクセシビリティ(交通の利便性、利用しやすさ等)に配慮するとともに、ハード・ソフトの両面から、ユニバーサルデザイン・バリアフリーによる整備や必要な移動手段の確保等を検討することとしています。</p> <p>このことから、移動手段の確保に資する取組として、無料の巡回バスや事業の実施状況等に応じた無料の送迎サービスなどの移動手段を検討して参ります。</p> <p>また、地域共生社会の充実に向けたまちづくりの推進として、次期バリアフリー基本構想において、京王多摩川駅周辺地区を「重点整備地区」に位置付けて参ります。</p> <p>併せて、京王多摩川駅舎の利便性向上の取組として、ホームと車両の隙間対策やホームから施設までの移動の円滑化、設備のバリアフリー化等や競輪等イベント開催時の利用者の安全な動線確保について、事業者を含めて協議を重ねて参ります。</p>
4節 京王多摩川駅周辺のまちづくり(案)	22	<p>「総合福祉センターの整備に関する考えから(素案)」について 総合福祉センターが調布駅から移転してしまう事は大変残念ですが、施設の老朽化もあり、</p>	<p>「整備に関する考え方」では、移転・更新に当たっては、高齢者、障害者等の多様な利用状況を踏まえて、多面的な視点からアクセシビリティ</p>

項目	No	御意見等の概要	市の考え方
P21～24		<p>致し方ないことは理解いたします。</p> <p>移転先の京王多摩川駅は公共交通機関を利用しての利用者はデメリットも多いので、駐車場の完備、送迎バスの運行で利便性の確保をお願いいたします。</p> <p>新センターのハード面では現福祉センター内にも、トレーニング室があるようですが、是非、障害者、高齢者が利用できるトレーニングルームの設置を希望いたします。</p> <p>特に身体、知的障害の人が利用ができる、スポーツジムはなく、民間のスポーツ施設利用も障害があるとなかなか行きづらい場所となっています。高校卒業後は運動の機会も減り、成人病のリスクも高くなっている現状があります。専門のトレーナーとトレーニングマシンと軽度の運動ができるスペースを新たに設置いただけると、新しい総合福祉センターメリットとなるのではないのでしょうか。ご検討よろしくをお願いいたします。</p>	<p>(交通の利便性、利用しやすさ等)に配慮するとともに、ハード・ソフトの両面から、ユニバーサルデザイン・バリアフリーによる整備や必要な移動手段の確保等を検討することとしています。</p> <p>このことから、移動手段の確保に資する取組として、無料の巡回バスや事業の実施状況等に応じた無料の送迎サービスなどの移動手段を検討して参ります。</p> <p>また、地域共生社会の充実に向けたまちづくりの推進として、次期バリアフリー基本構想において、京王多摩川駅周辺地区を「重点整備地区」に位置付けて参ります。</p> <p>併せて、京王多摩川駅舎の利便性向上の取組として、ホームと車両の隙間対策やホームから施設までの移動の円滑化、設備のバリアフリー化等や競輪等イベント開催時の利用者の安全な動線確保について、事業者を含めて協議を重ねて参ります。</p> <p>総合福祉センターの機能や設備等については、現行機能の維持を基本として、一部拡充も含め必要な床面積を確保するとともに、上下移動の少ないフロアに機能を集約し、必要な機能改善の検討等を行って参ります。こうした方向を踏まえて、障害者等に配慮した通路幅員の確保、駐車場や屋根のある車寄せの設置など基本機能の向上に資する機能の整備を検討して参ります。</p> <p>また、調布駅周辺の福祉機能については、調布駅周辺の公共・民間施設を活用することにより、安心して相談などができる相談機能をはじめとして、交流・居場所機能や福祉機能等について、確保することを検討して参ります。</p> <p>そのため、今後も、関係団体や利用者等の御意見を伺いながら、福祉サービスの実施状況や福祉施策を取り巻く社会状況等を勘案して、必要な施設機能を整備して参ります。</p>
4節 京王多摩川駅周辺のまちづくり(案) P21～24	23	<p>びっころ(放課後等デイサービス)についてです。昔利用していました。</p> <p>音楽療法は魅力ですが、送迎必須というのは現在でもネックの方は多くいらっしゃると思います。</p> <p>その上、京王多摩川に移転となると、シャトルバスが出て更にもっと時間を費やし、不便になってしまうのは目に見えています。</p> <p>調布にこのまま残れたら何よりですが、例えばバスからはスタッフに預けることができると多少の負担軽減になるなど、よりよい改善がまだありそうな気がします。</p> <p>反対意見も多いとは思いますが、一人でも多くの方々が納得のいくよう願っています。</p>	<p>「整備に関する考え方」では、移転・更新に当たっては、高齢者、障害者等の多様な利用状況を踏まえて、多面的な視点からアクセシビリティ(交通の利便性、利用しやすさ等)に配慮するとともに、ハード・ソフトの両面から、ユニバーサルデザイン・バリアフリーによる整備や必要な移動手段の確保等を検討することとしています。</p> <p>このことから、放課後等デイサービス「びっころ」について、移転後は、現在の調布駅周辺よりも送迎の負担が増えてしまう方もいらっしゃるから、アクセシビリティの視点を踏まえ、実施状況等に応じた無料の送迎サービスなどの移動手段を検討します。</p> <p>また、地域共生社会の充実に向けたまちづくりの推進として、次期バリアフリー基本構想において、京王多摩川駅周辺地区を「重点整備地区」に位置付けて参ります。</p> <p>併せて、京王多摩川駅舎の利便性向上の取組として、ホームと車両の隙間対策やホームから施設までの移動の円滑化、設備のバリアフリー化等や競輪等イベント開催時の利用者の安全な動線確保について、事業者を含めて協議を重ねて参ります。</p>
4節 京王多摩川駅周辺のまちづくり(案) P21～24	24	<p>建設予定地の京王多摩川駅周辺は、調布市のハザードマップでは5～10mの浸水エリアとなっています。水害対策として、浸水しない高さでの整備と万が一の時、垂直避難が可能ならフロア作りが重要と考えます。</p>	<p>災害対応としては、台風等による被害のおそれが想定される場合には、風雨の影響等を総合的に考慮して、あらかじめ総合福祉センターの利用を一時的に休館し、通所等を行わないよう措置を講じます。</p>

項目	No	御意見等の概要	市の考え方
		<p>令和元年10月の台風19号による調布市内の浸水被害は記憶に新しい所です。全国各地で大きな水害が毎年複数の場所でおこっています。調布市における福祉の重要施設である、総合福祉センターが安全であることが最重要ではないでしょうか。</p> <p>高齢者や障がいをおもちの方々も含め、多くの市民の方の利用がある福祉施設の安心と安全を確かなものにして下さい。</p>	<p>また、施設の階の高さについて、浸水高を考慮した5m以上とするとともに、主要な設備等を2階以上に配置することにより、風水害時の被災を低減し、施設の早期復旧を目指します。なお、大規模水害等により、早期復旧に時間を要する場合には、他の施設での臨時的・代替的なサービスの提供が行えるよう調整を図ります。</p> <p>福祉避難所の対応としては、風水害時は福祉避難所に指定された各公共施設等で要支援者の避難対応を行うこととなります。令和元年の台風第19号の事例では、現総合福祉センターに避難された方がおられたことを踏まえ、調布駅近傍の文化会館たづくり1階に要配慮者スペースを確保し、開設・運営においては、避難所担当職員を中心とした人員配置により対応して参ります。</p> <p>風水害時における発災前から発災後までの段階ごとの課題分析を踏まえ、今後も引き続き、新たな総合福祉センター機能の確保等を検討して参ります。</p>
<p>4節 京王多摩川駅周辺のまちづくり（案） P21～24</p>	25	<p>放課後デイ「びっころ」の利用者です。子供はダウン症です。移転予定地が、調布駅から離れているのが残念です。移動距離が長くなると障害児本人はもちろん送迎をする保護者には負担になります。また、送迎時間が長くなることで、デイの活動時間が短くなることも考えられます。放デイ「びっころ」は、今までと同様、調布駅の周辺に設置をして頂きたいです。</p>	<p>放課後等デイサービス「びっころ」について、移転後は、現在の調布駅周辺よりも送迎の負担が増えてしまう方もいらっしゃるごことから、アクセシビリティの視点を踏まえ、実施状況等に応じた無料の送迎サービスなどの移動手段を検討します。</p>
<p>4節 京王多摩川駅周辺のまちづくり（案） P21～24</p>	26	<p>総合福祉センターで、子どもの療育でお世話になりました。あの場所であったことで、親子とも利便性の恩恵にあずかりました。移転によって、ハンデをもつ人たちにとって不便にならないか心配です。また、水害の危険を考えると、決して良い選択とは思えません。アクセスの良さは、とても重要だと、かつてお世話になった者として改めて訴えたいです。</p> <p>また、学習支援などを行っているここも、あの場所だからこそ若者たちが集まってくれたという面もあると思うのです。</p> <p>仮設の建築物のコスト、難しさがあると知り、悩ましいのですが、すべての機能を一カ所に集めるのではなく、もう少しニーズを細かく検討して、機能を分割してでもアクセスの利便性を考えてもらえないでしょうか。</p> <p>調布市の福祉は素晴らしいと思っています。どうかもう少し細かく当事者（利用者）の意見を聞いて、知恵を絞っていただけませんか。心から願っています。</p>	<p>「整備に関する考え方」では、移転・更新に当たっては、高齢者、障害者等の多様な利用状況を踏まえて、多面的な視点からアクセシビリティ（交通の利便性、利用しやすさ等）に配慮するとともに、ハード・ソフトの両面から、ユニバーサルデザイン・バリアフリーによる整備や必要な移動手段の確保等を検討することとしています。</p> <p>このことから、移動手段の確保に資する取組として、無料の巡回バスや事業の実施状況等に応じた無料の送迎サービスなどの移動手段を検討して参ります。</p> <p>また、地域共生社会の充実に向けたまちづくりの推進として、次期バリアフリー基本構想において、京王多摩川駅周辺地区を「重点整備地区」に位置付けて参ります。</p> <p>併せて、京王多摩川駅舎の利便性向上の取組として、ホームと車両の隙間対策やホームから施設までの移動の円滑化、設備のバリアフリー化等や競輪等イベント開催時の利用者の安全な動線確保について、事業者を含めて協議を重ねて参ります。</p> <p>災害対応としては、台風等による被害のおそれが想定される場合には、風雨の影響等を総合的に考慮して、あらかじめ総合福祉センターの利用を一時的に休館し、通所等を行わないよう措置を講じます。</p> <p>また、施設の階の高さについて、浸水高を考慮した5m以上とするとともに、主要な設備等を2階以上に配置することにより、風水害時の被災を低減し、施設の早期復旧を目指します。なお、大規模水害等により、早期復旧に時間を要する場合には、他の施設での臨時的・代替的なサービスの提供が行えるよう調整を図ります。</p> <p>福祉避難所の対応としては、風水害時は福祉避難所に指定された各公共施設等で要支援者の避難対応を行うこととなります。令和元年の台風第19号の事例では、現総合福祉センターに避難された方がおられたこ</p>

項目	No	御意見等の概要	市の考え方
			<p>とを踏まえ、調布駅近傍の文化会館たづくり1階に要配慮者スペースを確保し、開設・運営においては、避難所担当職員を中心とした人員配置により対応して参ります。</p> <p>風水害時における発災前から発災後までの段階ごとの課題分析を踏まえ、今後も引き続き、新たな総合福祉センター機能の確保等を検討して参ります。</p> <p>市は、これまでも多世代や多様な主体が交流する機会を通じて、市民の福祉に対する理解をより深めていくという、地域共生社会の考え方にも通じる理念の下、総合福祉センターを運営して参りました。今後、総合福祉センターの移転・更新を進めるうえでも、こうした基本理念が重要であるとの認識は、今後も変わるものではありません。そのため、新たな総合福祉センターが、地域共生社会を充実するための総合的な福祉の拠点であるという理念を具体化し、地域に開かれた親しみやすい総合的な福祉の拠点となるよう、引き続き、利用者や関係団体等に御理解いただきながら、取り組んで参ります。</p>
<p>5節 総合福祉センターの整備に関する基本的な方向 (案) P25</p>	27	<p>児童デイびっころにお世話になっております。</p> <p>音楽が大好きな子で、今後もずっと、音楽療法をぜひ受けさせたいと願っております。もし京王多摩川駅前アンジェの跡地に移転する場合は、学校や自宅への送迎バスを出して下さりますよう、お願いいたします。</p> <p>本人もどんどん体が大きくなってきて、もう私が自転車での送迎も難しく、また、下の子との兼ね合いもあり、送迎バスがあると、非常に助かります。</p> <p>どうぞよろしくお願いいたします。</p>	<p>放課後等デイサービス「びっころ」について、移転後は、現在の調布駅周辺よりも送迎の負担が増えてしまう方もいらっしゃることから、アクセシビリティの視点を踏まえ、実施状況等に応じた無料の送迎サービスなどの移動手段を検討します。</p>
<p>5節 総合福祉センターの整備に関する基本的な方向 (案) P25</p>	28	<p>びっころを子どもが利用中です。</p> <p>とても楽しんで活動に参加させて頂いています。</p> <p>福祉センター移転する場合、送迎サービス(学校⇄センタ⇄自宅)ができるととても助かります。よろしくお願い致します。</p> <p>また、センター全体が子ども(未就園～)～高齢の方までが気軽に自由に集える空間があると素敵だなと思います。</p>	<p>放課後等デイサービス「びっころ」について、移転後は、現在の調布駅周辺よりも送迎の負担が増えてしまう方もいらっしゃることから、アクセシビリティの視点を踏まえ、実施状況等に応じた無料の送迎サービスなどの移動手段を検討します。</p>
<p>5節 総合福祉センターの整備に関する基本的な方向 (案) P25</p>	29	<p>放課後デイのびっころを利用させていただいております。</p> <p>自宅が遠いので送迎は車でしています。移転にあたり、駐車場が整備されるとの事、ありがとうございます。</p> <p>できれば、びっころの送迎も事業としてやっていただきたいです。学校へのお迎えだけでもやっていただけたらうれしいです。送迎がネックになって、音楽療法を受けたいけれど受けていない方も利用されるようになると思います。</p> <p>ご検討のほど、よろしくおねがいいたします。</p>	<p>放課後等デイサービス「びっころ」について、移転後は、現在の調布駅周辺よりも送迎の負担が増えてしまう方もいらっしゃることから、アクセシビリティの視点を踏まえ、実施状況等に応じた無料の送迎サービスなどの移動手段を検討します。</p>
<p>5節 総合福祉センターの整備に関する基本的な方向 (案) P25</p>	30	<p>調布駅前に50年住んでいます。</p> <p>最近では、両膝の人工関節置換手術をして杖使用歩行、1934年生まれの高年齢者で福祉にお世話になっている当事者ですが、少しでも社会貢献をしていきたいと願っています。</p> <p>1)「総合福祉センターの整備に関する考え方」(素案)を読みました。説明会に参加して説明を伺いました。</p> <p>「地域共生社会」の取り組み、課題も共感し今後推進していく課題が提起されています。現状から新しい時代に向けての回を重ねての提案と思います。</p> <p>25Pの「令和元年11月に京王電鉄から市に対して・・・京王多摩川駅周辺地区における「駅前複合拠点地区」への移転に向けた取り組みのを進める」案には、絶対反対をさせてい</p>	<p>「整備に関する考え方」では、移転・更新に当たっては、高齢者、障害者等の多様な利用状況を踏まえて、多面的な視点からアクセシビリティ(交通の利便性、利用しやすさ等)に配慮するとともに、ハード・ソフトの両面から、ユニバーサルデザイン・バリアフリーによる整備や必要な移動手段の確保等を検討することとしています。</p> <p>このことから、移動手段の確保に資する取組として、無料の巡回バスや事業の実施状況等に応じた無料の送迎サービスなどの移動手段を検討して参ります。</p> <p>また、地域共生社会の充実に向けたまちづくりの推進として、次期バリアフリー基本構想において、京王多摩川駅周辺地区を「重点整備地区」</p>

項目	No	御意見等の概要	市の考え方
		<p>ただき、再度、行政、市民、京王、当事者たちと話し合いの場を設定してください。理由は、子どもや障害者にたいしての福祉市行政としての理念がありません。子ども、障害を持つものには行動しやすい、いつでも活用できる等「最善のものを与えていく」多摩川駅周辺の不便、危険は、今の最善の場を奪うことになります。</p> <p>2) 令和元年台風で浸水被害が発生しています。気候変動などにより予想を超えた風水害が全国各地で頻発しています。危険を知りながら、危険区域に移転させるという考え方は、障害者権利条約、福祉の理念からも逆行しています。</p> <p>今後調布駅前街づくりの課題になっている、グリーンホール、駅前広場、福祉センター、調布駅南口中央地区街開発と連動、連携して進めていく課題、必要性をきちんと捉えて進めていくことを提案いたします。</p> <p>子ども、障害者に優しい街は、すべての市民が一人ひとりを大事にし、健康で幸せで、調布市を愛していく市民になり、全国から住みやすい街と評価されるでしょう！</p>	<p>に位置付けて参ります。</p> <p>併せて、京王多摩川駅舎の利便性向上の取組として、ホームと車両の隙間対策やホームから施設までの移動の円滑化、設備のバリアフリー化等や競輪等イベント開催時の利用者の安全な動線確保について、事業者を含めて協議を重ねて参ります。</p> <p>災害対応としては、台風等による被害のおそれが想定される場合には、風雨の影響等を総合的に考慮して、あらかじめ総合福祉センターの利用を一時的に休館し、通所等を行わないよう措置を講じます。</p> <p>また、施設の階の高さについて、浸水高を考慮した5m以上とするとともに、主要な設備等を2階以上に配置することにより、風水害時の被災を低減し、施設の早期復旧を目指します。なお、大規模水害等により、早期復旧に時間を要する場合には、他の施設での臨時的・代替的なサービスの提供が行えるよう調整を図ります。</p> <p>福祉避難所の対応としては、風水害時は福祉避難所に指定された各公共施設等で要支援者の避難対応を行うこととなります。令和元年の台風第19号の事例では、現総合福祉センターに避難された方がおられたことを踏まえ、調布駅近傍の文化会館たづくり1階に要配慮者スペースを確保し、開設・運営においては、避難所担当職員を中心とした人員配置により対応して参ります。</p> <p>風水害時における発災前から発災後までの段階ごとの課題分析を踏まえ、今後も引き続き、新たな総合福祉センター機能の確保等を検討して参ります。</p> <p>市は、これまでも多世代や多様な主体が交流する機会を通じて、市民の福祉に対する理解をより深めていくという、地域共生社会の考え方にも通じる理念の下、総合福祉センターを運営して参りました。今後、総合福祉センターの移転・更新を進めるうえでも、こうした基本理念が重要であるとの認識は、今後も変わるものではありません。そのため、新たな総合福祉センターが、地域共生社会を充実するための総合的な福祉の拠点であるという理念を具体化し、地域に開かれた親しみやすい総合的な福祉の拠点となるよう、引き続き、利用者や関係団体等に御理解いただきながら、取り組んで参ります。</p> <p>市としましては、今後、「整備に関する考え方」を踏まえて、「(仮称)新たな総合福祉センターの機能や設備に関する検討会」を開催し、新たな総合福祉センターの機能や設備、調布駅周辺の福祉機能などについて、より具体的な検討を進めて参りたいと考えております。</p> <p>併せて、この検討会とは別に、適宜、関係団体や利用者等と、新たな総合福祉センターの機能、設備等について、意見交換会を実施し、広くご意見を伺いたいと思っております。</p> <p>グリーンホール、調布駅前広場、総合福祉センター、調布駅南口中央地区再開発の担当部署間で、横断的連携を図るべく情報共有を行っており、連携しながら課題等に対応して参ります。</p>

6 その他意見

項目	No	御意見等の概要	市の考え方
その他	1	<p>令和3年7月17日の会に参加感想</p> <ul style="list-style-type: none"> ・素案の構成目的とこの事業は全く真逆。 ・事業のか計画資金を言えないようでは何のための考え方(素案)か空念仏。 ・検討会メンバーの質疑応答から真の目的が見え隠れしている。 <p>総合福祉センターを利用する弱者に不便やリスクを負わせることは改悪であり、移転方針を直ちに撤回することを求める。</p>	<p>市は、これまでも多世代や多様な主体が交流する機会を通じて、市民の福祉に対する理解をより深めていくという、地域共生社会の考え方にも通じる理念の下、総合福祉センターを運営して参りました。今後、総合福祉センターの移転・更新を進めるうえでも、こうした基本理念が重要であるとの認識は、今後も変わるものではありません。そのため、新たな総合福祉センターが、地域共生社会を充実するための総合的な福祉の拠点であるという理念を具体化し、地域に開かれた親しみやすい総合的な福祉の拠点となるよう、引き続き、利用者や関係団体等に御理解いただきながら、取り組んで参ります。</p>